

公示用

設 計 書

工事名称 常盤中学校屋内運動場外部改修工事

工事内容説明書

1. 工事名称 常盤中学校屋内運動場外部改修工事

2. 施工場所 札幌市南区常盤2条2丁目

3. 請負工事費

内訳 工事価格

消費税等相当額

4. 工期 契約に示す着手の日から 令和7年12月12日 まで

5. 工事内容 屋内運動場の屋上防水改修、外壁改修を行う。

共通費の算定に用いる工期 T=5.9月

名 称	数 量	単 位	金 額	備 考
直接工事費				
建築工事	1	式		
電気設備工事	1	式		
計				
共通費				
共通仮設費	1	式		
現場管理費	1	式		
一般管理費等	1	式		契約保証費含む
計				
工事価格	1	式		
消費税等相当額	1	式		消費税率 10 %
工事費	1	式		

屋内運動場棟		外壁改修		防水		
名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
(外壁改修)						
シーリング	一般部 ホリカルファイト系(PS-2) 15×10		m			打継目地
シーリング	一般部 変成シリコン系(MS-2) 5×5		m			サイディング出隅目地
シーリング	一般部 変成シリコン系(MS-2) 15×10		m			サイディング下端水切取合
シーリング	一般部 変成シリコン系(MS-2) 15×10		m			サイディング見切り・水切取合
シーリング	一般部 変成シリコン系(MS-2) 15×10		m			ホーダ-水切取合
シーリング	一般部 変成シリコン系(MS-2) 10×10		m			ホーダ-水切目地
シーリング	一般部 変成シリコン系(MS-2) 15×10		m			クラブ取付小口加-部
シーリング	一般部 変成シリコン系(MS-2) 15×10		m			クラブ取付PL周囲
シーリング	一般部 変成シリコン系(MS-2) 10×10		m			フード廻り
シーリング	一般部 変成シリコン系(MS-2) 10×10		m			ブルホックス廻り
シーリング	一般部 変成シリコン系(MS-2) 5×5		m			建具両側止縁廻り
シーリング	一般部 変成シリコン系(MS-2) 15×10		m			建具下端止縁廻り
シーリング	一般部 変成シリコン系(MS-2) 15×10		m			建具枠廻り
シーリング	一般部 変成シリコン系(MS-2) 15×10		m			建具水切廻り
(ホ-子改修)						
シーリング	一般部 ホリカルファイト系(PS-2) 15×10		m			足洗い場取合
計						

屋内運動場棟		外壁改修		左官		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
(外壁改修)						
基礎壁 ¹ 杉樹脂E ル ¹ 塗り	薄塗りタイプ 厚3mm		m ²			外壁
煙突 ¹ -ス ¹ ル ¹ 外	工 ¹ 杉樹脂E ¹ ル ¹ t30		m ²			
煙突基礎 ¹ ル ¹ 外	工 ¹ 杉樹脂E ¹ ル ¹ t3		m ²			
防水形複層塗材E 塗り	ロー ¹ 透湿弾性 ふっ素 下地調整 ¹ メント系 C-2		m ²			外壁
防水形複層塗材E 塗り	ロー ¹ 透湿弾性 ふっ素 下地調整 ¹ メント系		m ²			天井
施工数量調査 (外壁改修)	打放し面・仕上塗材改修		m ²			
(劣化部分補修)						
亀裂部 ¹ 杉樹脂 充填	0.2mm未満の亀裂部 パ ¹ テ状樹脂すりこみ		m			ひび割れ(幅0.2mm未満)
ひび割れ部樹脂注 入	自動式低圧 ¹ 杉樹脂注入工法 コンクリ ¹ ト面		m			0.2mm<W<1.0mm以下
ひび割れ部Uカット ル ¹ 材充填	コンクリ ¹ ト面		m			0.2mm<W<1.0mm以下
欠損部充填	コンクリ ¹ ト面 100×100程度		か所			
欠損部充填	コンクリ ¹ ト面 100×200程度		か所			
欠損部充填	コンクリ ¹ ト面 100×500程度		か所			
欠損部充填	コンクリ ¹ ト面 100×1400程度		か所			
樹脂 ¹ ル ¹ 外補修 外壁鉄筋露出部	100×100程度 鉄筋 ¹ 杉樹脂塗布,周囲ハツ出 樹脂 ¹ ル ¹ 外(フ ¹ レミックスタイプ ¹) 金 ¹ コ ¹ 仕上		か所			
樹脂 ¹ ル ¹ 外補修 外壁鉄筋露出部	100×150程度 鉄筋 ¹ 杉樹脂塗布,周囲ハツ出 樹脂 ¹ ル ¹ 外(フ ¹ レミックスタイプ ¹) 金 ¹ コ ¹ 仕上		か所			
樹脂 ¹ ル ¹ 外補修 外壁鉄筋露出部	150×150程度 鉄筋 ¹ 杉樹脂塗布,周囲ハツ出 樹脂 ¹ ル ¹ 外(フ ¹ レミックスタイプ ¹) 金 ¹ コ ¹ 仕上		か所			
樹脂 ¹ ル ¹ 外補修 外壁鉄筋露出部	150×200程度 鉄筋 ¹ 杉樹脂塗布,周囲ハツ出 樹脂 ¹ ル ¹ 外(フ ¹ レミックスタイプ ¹) 金 ¹ コ ¹ 仕上		か所			
樹脂 ¹ ル ¹ 外補修 外壁鉄筋露出部	150×300程度 鉄筋 ¹ 杉樹脂塗布,周囲ハツ出 樹脂 ¹ ル ¹ 外(フ ¹ レミックスタイプ ¹) 金 ¹ コ ¹ 仕上		か所			

屋内運動場棟		外壁改修		内外装		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
(金属外装)						
外壁 金属サイディング縦張	ガルバリウム鋼板+断熱材入り t0.35 山高15以上		m ²			見積比較表
全上出隅役物	出隅キップ:ガルバリウム鋼板t0.35 出隅下地:ガルバリウム鋼板t0.35 パッキン材共		m			見積
外壁ボタ-取合 下端水切	ガルバリウム鋼板t0.35 系尺100		m			見積
外壁筋-ガルバリウム 鋼板 見切り	t=0.35 W20xH40		m			見積比較表
外壁筋-ガルバリウム 鋼板 段接ぎ部	t=0.35 W20xH40, W25 x H90 見切 + 水切		m			見積比較表
管理棟屋根取合 下端水切	ガルバリウム鋼板t0.35 系尺100		m			見積
外壁 上部端部パッキン材	パラボット笠木下取合部		m			見積
建具上端 小口加-	ガルバリウム鋼板t0.35 系尺120 捨て板ガルバリウム鋼板t0.35 系尺40 パッキン材含む		m			見積
建具下端 止縁	ガルバリウム鋼板t0.35 系尺100 パッキン材含む		m			見積
建具両サイド 止縁	ガルバリウム鋼板t0.35 系尺100		m			見積
タラップ 取付部 小口加-	ガルバリウム鋼板t0.35 折曲加工 W280 x H180 取合パッキン材共		か所			見積
タラップ 取付部 裏板	ガルバリウム鋼板t0.35 折曲加工 W350 x H250		か所			見積
透湿防水シート張り	透湿防水シートB		m ²			
外壁 強化せっこ ボード張り (GB-F)	厚15.0 不燃 鋼製、木、ボード 下地 下地張り 防水、防火		m ²			
計						

屋内運動場棟		外壁改修		とりこわし		
名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
(外壁改修)						
高压洗浄	高压水洗機		m ²			基礎
高压洗浄	高压水洗機		m ²			ボ-グ-金物
既存塗膜除去	塗膜剥離剤工法 環境対応型		m ²			外壁リソ吹付撤去(RC面)
既存塗膜除去	塗膜剥離剤工法 環境対応型		m ²			天井リソ吹付撤去(RC面)
外壁鋼板撤去	集積共		m ²			
外壁鋼板下地ルツボ撤去	t20 集積共		m ²			
外壁透湿防水シート撤去	集積共		m ²			
外壁下端アルミ水切撤去	30×30		m			
煙突ハ-スル外撤去	t30		m ²			
表示板撤去	300×600 集積共		か所			
設置埋設表撤去	90×140 集積共		か所			
シーリング撤去	大型改修工事(全面改修用)集積共		m			打継目地
シーリング撤去	大型改修工事(全面改修用)集積共		m			外壁下端水切
シーリング撤去	大型改修工事(全面改修用)集積共		m			ボ-グ-金物取合
シーリング撤去	大型改修工事(全面改修用)集積共		m			ボ-グ-金物目地取合
シーリング撤去	大型改修工事(全面改修用)集積共		m			フ-ド廻り
シーリング撤去	大型改修工事(全面改修用)集積共		m			フ-ド廻り
シーリング撤去	大型改修工事(全面改修用)集積共		m			建具枠廻り
シーリング撤去	大型改修工事(全面改修用)集積共		m			建具水切廻り

屋内運動場棟		外壁改修		とりこわし		
名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
ガラス止めシーリング撤去	集積共		m			
ガラス止めガasket撤去	集積共		m			
タラップ取付部 取付プレート取外し・再取付	ステンレスプレート 15 200×50 ボルト M10×4本 取外し・再取付共		か所			見積
タラップ取付部 手すり取外し・再取付	ステンレス 27.2		か所			見積
タラップ背加 取外し・再取付	SUS 700×600×6300		か所			見積
(ボ-子改修)						
カッター入れ	珪外面 厚さ20～30mm		m			
珪面撤去(アスベスト含有)	集積共		m ²			ボ-子床
珪面撤去(アスベスト含有)	集積共		m ²			ボ-子階段
段鼻ステンレスアングル撤去	L-30×30×3程度 7ヶ所固定		m			
足洗い場 グレーチング枠撤去	SUS L-30×30×3		m			
床防水珪面撤去(アスベスト含有)	t30 集積共		m ²			足洗い場
既存塗膜除去	塗膜剥離剤工法 環境対応型		m ²			足洗い場立上り
既存塗膜除去	塗膜剥離剤工法 環境対応型		m ²			足洗い場背壁
シーリング撤去	大型改修工事(全面改修用)集積共		m			足洗い場取合
防塵措置費	全面形防塵マスク,フィルター, フード付保護衣(手袋,シューズカバー共), 真空掃除機(ダストバキューム共)	1	式			
計						

屋内運動場棟		屋上防水改修		防水		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
(屋内運動場)						
屋上平場 無釜型アスファルト防水	熱工法 トップコート仕上 D-1仕様同等以上		m ²			見積
屋上立上り・天端 無釜型アスファルト防水	熱工法 トップコート仕上 D-1仕様同等以上		m ²			見積
既存外防水層 プライマー塗布	平場、立上り		m ²			見積
脱気筒	SUSタイプ		か所			見積
改修用ドレン	縦ひき 銅製 100ドレンキャップ 共(7Mに製)		か所			
既設ドレン洗浄	ドレン金物から第1雨水枡まで 基本料金共 4か所	1	式			
シーリング	一般部 変成シリコン系 (MS-2) 15×10		m			ハット笠木下取合部
(管理棟・ポンプ、電気室)						
屋上平場 無釜型アスファルト防水	熱工法 トップコート仕上 D-1仕様同等以上		m ²			見積
屋上立上り・天端 無釜型アスファルト防水	熱工法 トップコート仕上 D-1仕様同等以上		m ²			見積
既存外防水層 プライマー塗布	平場、立上り		m ²			見積
脱気筒	SUSタイプ		か所			見積
改修用ドレン	縦ひき 銅製 100ドレンキャップ 共(7Mに製)		か所			
既設ドレン洗浄	ドレン金物から第1雨水枡まで 3か所	1	式			
シーリング	一般部 変成シリコン系 (MS-2) 15×10		m			水切目地
計						

屋内運動場棟		屋上防水改修			金属	
名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
(屋内運動場)						
アルミ笠木	アルミ既製品 シルバ W225 捨て板共		m			
アルミ笠木コーナー	アルミ既製品 シルバ W225		か所			
(管理棟・ボンプ、電気室)						
アルミ笠木	アルミ既製品 シルバ W250		m			
アルミ笠木コーナー	アルミ既製品 シルバ W250		か所			
(管理棟屋根屋運 外壁立上り部)						
アルミ水切	W165 防水押え アルミ2×30ビース止め共		m			見積
全上下地材	L-30×30×3 Cチャンに溶接		m			見積
全上捨て板	t0.8 L-100×150		m			見積
(ボンプ、電気室屋 根校舎立上り部)						
アルミ水切	W165		m			見積
(EXP、EJ-9部)						
EXP-J金物	EJ-9 アルミ製 W600		m			見積
捨て板	t0.8 W230		m			見積
鉄骨下地	C-150×50×20×2.3 金属拡張施工アソカ SUS M10共		m			見積
EXP部 アルミ笠木	W100×195 W250を加工		か所			見積
計						

屋内運動場棟		屋上防水改修		とりこわし		
名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
(屋内運動場)						
既存防水層撤去	屋上防水層 シート防水層 集積共		m ²			平面
既存防水層撤去	屋上防水層 シート防水層 集積共		m ²			立上り、バルコニー天端
屋根立上りベテ撤去	t20 集積共		m ²			
ALC笠木撤去	W225(再利用なし)		m			
ルーフドレン撤去	100		か所			
(管理棟・ホップ、電気室)						
既存防水層撤去	屋上防水層 シート防水層 集積共		m ²			平面
既存防水層撤去	屋上防水層 シート防水層 集積共		m ²			立上り、バルコニー天端
屋根立上りベテ撤去	t20 集積共		m ²			
ALC笠木撤去	W250(再利用なし)		m			
ALC水切撤去	W135 外壁下端30×30撤去共		m			
ALC水切撤去	W165 防水押えW50撤去共		m			
ルーフドレン撤去	100		か所			
EJ-9撤去	ALC [-160×30 下地ALC-60×60(×2)共		m			
EJ-9部 ALC水切撤去	W165		m			
EJ-9部 水切下地撤去	スチールアンクル L-65×65×6 +L-30×30×3		m			
シーリング 撤去	集積共		m			水切目地
計						

令和7年度

常盤中学校屋内運動場外部改修工事

図面リスト			
建築図 (A)			
図面番号	図面名	図面番号	図面名
A-00	タイトル・図面リスト	A-20	矩計図2 (改修後)
A-01	特記仕様書 1	A-21	矩計図3 (改修前・後)
A-02	特記仕様書 2	A-22	部分詳細図1
A-03	特記仕様書 3	A-23	部分詳細図2
A-04	特記仕様書 4	A-24	部分詳細図3
A-05	特記仕様書 5	A-25	部分詳細図4
A-06	特記仕様書 6	A-26	部分詳細図5
A-07	特記仕様書 7	A-27	部分詳細図6 (改修前)
A-08	特記仕様書 8	A-28	部分詳細図6 (改修後)
A-09	附近見取図・配置図	A-29	部分詳細図7
A-10	1階平面図	A-30	部分詳細図8
A-11	2階平面図	A-31	部分詳細図9
A-12	屋根伏図	A-32	部分詳細図10 (改修前)
A-13	立面図1 (改修前・後)	A-33	部分詳細図10 (改修後)
A-14	立面図2 (改修前・後)	A-34	部分詳細図11
A-15	立面図3 (改修前・後)	A-35	部分詳細図12
A-16	立面図4 (改修前・後)	A-36	部分詳細図13
A-17	矩計図1 (改修前)	A-37	部分詳細図14
A-18	矩計図1 (改修後)	A-38	部分詳細図15
A-19	矩計図2 (改修前)	A-39	仮設計画図 (参考図)

工事概要及び特記仕様書

I. 工事概要

1	工事名称	常盤中学校屋内運動場外部改修工事
2	工事場所	札幌市南区常盤2条2丁目
3	しゅん功期限	契約に示す着手日から 令和 7年12月12日まで
4	工事内容	屋内運動場・管理棟・ポンプ室・電気室の防水及び外壁改修工事

対象建物概要

用途	学校：屋内運動場	用途地域等	第一種低層住居専用地域
構造／階数	S造／2階	敷地面積	21,655㎡
改修部分	階	施工内容	
外壁	1階外壁：劣化部改修、塗材塗 撤去・新設		
外壁	2階外壁：金属板 撤去・新設		
外壁	防水改修 撤去・新設		

- 5 別途工事
 本工事に関係のある工事は下記のとおりである。
- 電気設備工事 ()令和 年 月 旬着手予定
 - 機械設備工事 ()令和 年 月 旬着手予定
 - 外構工事 ()令和 年 月 旬着手予定

- 6 部分引渡し
 部分引渡しの時期：令和 年 月 日まで
 部分引渡しの範囲：

II. 建築工事仕様

- 1 本工事は、公共工事に準じるものとする。
- 2 図面及びこの特記仕様書に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書(建築工事編)」または、「公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編)」による。(工事着手日時点の最新版を適用)
- 3 特記仕様
 (1)項目は、番号に○ 印のついたものを適用する。
 (2)特記事項は、● 印のついたものを適用する。
 ○ 印のつかない場合は、※印のついたものを適用する。
 ○ 印と ⊗ のついた場合は、両方共に適用する。
- 4 特記事項に記載の () 内表示番号は、公共建築改修工事標準仕様書または、公共建築工事標準仕様書 (標)の当該項目、当該図または当該表を示す。

1章 一般事項

- ⑪ 適用基準類
 工事着手日時点の最新版を適用する。
 ○建築工事標準詳細図 【国土交通省大臣官房官庁営繕部監修】
 ○工事写真撮影ガイドブック (建築工事編及び解体工事編) 【国土交通省大臣官房官庁営繕部監修】
 ○建築工事標準仕様書・同解説 JASS 11 木工事 【日本建築学会】
 ・寒中コンクリート施工指針・同解説 【日本建築学会】
 ・建築物解体工事共通仕様書 【国土交通省大臣官房官庁営繕部監修】
 ※(参考資料) 建築改修工事監理指針 上巻・下巻 【国土交通省大臣官房官庁営繕部監修】
 ※(参考資料) 建築工事監理指針 上巻・下巻 【国土交通省大臣官房官庁営繕部監修】
- ⑫ 施工条件 (1.3.5)
 ○施工時間：施設運営上、制約される場合があるので監督員と協議のこと
 ○施工順序：工程表に基づき監督員と協議のこと
 ○工事用車両駐車場：監督員と協議のこと
 ○その他施工条件：図示

- ⑬ 公共建築物の環境配慮
 工事の施工に当たっては、札幌市の「環境方針」「札幌市公共建築物環境配慮ガイドライン」の意図を理解し、環境に配慮した施工に努める。

- ⑭ グリーン購入
 「札幌市グリーン購入ガイドライン」により環境負荷の低減を考慮した材料等を選定し、グリーン購入の推進に努める。加えて、資材(材料及び機材を含む)の梱包及び容器は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の環境負荷低減に配慮されたものを使用するよう努める。

- (1) 再生クラッシュランの購入施設名 (以下の章共通)
 札幌リサイクル骨材㈱ (東区中沼町45番地26)
 小橋北豊㈱ (南区石山230番地)
 札幌環境資材センター (手稲区曙5条5丁目110番地18)
 ㈱松原産業 (白石区川下2111番地3)
 野田工業㈱ (中央区盤渓264番地)
- (2) 汚泥再生材の購入施設名 (以下の章共通)
 ㈱大伸 (厚別区厚別町山本1064番72)
 オデッサ・テクノス㈱ (東区北丘珠1条3丁目654番地)
 (協) 公清企業 (東区中沼町45番地23)
- 購入条件、購入時期等については、当施設と事前に協議する。

- ⑮ 建築材料等
 「建築材料・設備機材等品質性能評価事業 建築材料等評価名簿」((社)公共建築協会編集)により評価を受けた材料を使用する場合は、評価書の添付により品質等資料の提出を省略することができる。(1.4.2)

- ⑯ 道産材の使用
 本工事に使用する主要資材のうち、道内で産出、生産または製造される資材等で、規格品質等が適正である場合は、これを優先的に使用するように努めるものとする。(木材及び木材製品は除く)

- ⑰ 地域材の使用
 本工事に使用する木材または木材を原料とする資材を使用する場合は、地域材(道内の森林で産出され、道内で加工された木材)を優先的に使用することとし、使用した材料の種類、産地等を監督員に報告すること。

- ⑱ 特別な材料の工法
 公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編)または公共建築工事標準仕様書(建築工事編)に記載されていない特別な材料の工法は、監督員の承諾を受けて当該製品の指定工法によることができる。

- ⑲ 石綿含有建材の事前調査等 (1.5.1)
 (1) 調査範囲 ※全建材(解体等の作業に係る部分に限る。)
 ・その他 ()
 (2) 既存設計図書等の提供
 ○既存設計図書
 ○成分分析調査報告書(含有建材は図示による)
 ・石綿事前調査等結果報告書(アスベスト調査票)

- (3) 調査方法
 ※書面調査及び現地での目視調査
 ・成分分析調査
 調査部位 () (ヶ所)
 ・JIS A 1481-1 ・JIS A 1481-2 ・JIS A 1481-3 ・JIS A 1481-4

- (4) 調査時の注意
 構造上目視により確認することが困難な建材については、目視により確認することが可能となった段階で事前調査を行うこと。
 石綿含有建材の使用が不明な見え隠れ部分の調査については、保護具を装着するとともに必要に応じて建材を湿潤に保ちながら手ばらしで行うこと。

新たに石綿含有建材と疑わしきものを発見した場合には、速やかに作業を中止し、監督員に報告及び必要な措置について協議すること。

- (5) 調査結果の報告等
 事前調査が完了した際は、石綿障害予防規則及び大気汚染防止法(以下、大防法)に基づき、以下のとおり各種報告等を行うこと。

- (7) 監督員に事前調査の結果等を書面で交付し、説明すること。

- (4) 労働基準監督署及び札幌市(環境局)に事前調査の結果等について報告すること。

- (7) 事前調査の結果等については、公衆にみやすいように掲示すること。

- (6) 変更の協議等
 調査の結果、設計図書と異なる場合は、監督員と協議する。また、石綿事前調査等結果報告書の内容を更新し、監督員に提出すること。

- (7) 作業完了の報告
 大防法に基づき、特定粉じん排出等作業の完了後、監督員に作業結果を書面で報告すること。

- ⑩ 技能士
 技能士の適用は以下とする。ただし、作業が軽易な場合は監督員の承諾を受けて省略することができる。(標1.5.2)(1.7.2)

適用工事種類	職種	技能検定の作業の種別
仮設工事	とび	・とび作業
鉄筋工事	鉄筋施工	・鉄筋組立て作業
コンクリート工事	型枠施工 コンクリート圧送施工	・型枠工事作業 ・コンクリート圧送工事作業
鉄骨工事	鉄工	・構造物鉄工作業
コンクリートブロック・ALCパネル・押出成型セメント板工事	ブロック建築 ALCパネル施工	・コンクリートブロック工事作業 ・ALCパネル工事作業
防水工事	防水施工	・アスファルト防水工事作業 ・ポリゴム系塗膜防水工事作業 ・アクリル系塗膜防水工事作業 ・合成ゴム系シート防水工事作業 ・塩化ビニル系シート防水工事作業 ・セメント系防水工事作業 ・シーリング防水工事作業 ・改質アスファルトシート工法防水工事作業 ・改質アスファルトシート常温粘着工法防水工事作業 ・FRP防水工事作業
石工事	石材施工	・石張り作業
タイル工事	タイル張り	・タイル張り作業
木工事	建築大工	・大工工事作業
屋根及びとい工事	建築板金	・内外装板金作業
金属工事	内装仕上げ施工 建築板金	・鋼製下地工事作業 ・内外装板金作業
左官工事	左官	・左官作業
建具工事	サッシ施工 ガラス施工 自動ドア施工	・ビル用サッシ施工作業 ・ガラス工事作業 ・自動ドア施工作業
カーテンウォール工事	カーテンウォール施工	・金属製カーテンウォール工事作業
	サッシ施工 ガラス施工	・ビル用サッシ施工作業 ・ガラス工事作業
塗装工事	塗装	・建築塗装作業
内装工事	内装仕上げ施工	・プラスチック系床仕上げ工事作業 ・カーペット系床仕上げ作業 ・ボード仕上げ工事作業
	表装	・壁装作業
排水工事	配管	・建築配管作業
舗装工事	路面標示施工	・溶融ペイント作業 ・加熱ペイント作業
植栽工事	造園	・造園工事作業

- 11 特許権等
 特許権等の出願を行う場合は、あらかじめ発注者と協議する。(1.1.11)

一般財団法人 札幌市住宅管理公社建設工事請負契約約款第8条に基づく特許権、実用新案等、意匠権、商標権その他日本国の法令に基づき保護される第三者の権利(以下「特許権等」という)の対象となっている工事材料及び施工方法等。

- ・特許権等の種類 ()

付保する保険：工事の内容により、火災保険、建設工事保険、組立保険等の一以上の保険を付す。

保険の期日：始期－保険の目的物が工事現場に搬入される日
 終期－しゅん功期限＋14日以上

- (1)受注者は、本工事に従事する者の業務上の負傷等に対する補償に必要な金額を担保するため、法定外の労災保険を付す。

- (2)前項で定める保険契約を締結したときは、その証券又はこれに代わるものの写しを速やかに監督員へ提出する。

- ⑭ 公衆災害の防止及び安全管理
 受注者は工事にあたって安全施工を図り公衆災害を防止するため、「建築工事安全施工技術指針」及び「建設工事公衆災害防止対策要綱」を遵守しなければならない。また、有害ガス又は引火性ガスの発生の恐れある場合は、安全を確認し作業を行う。

- ⑮ 交通安全及び公害対策
 (1)ダンプトラック等、大型貨物運搬車両による土砂及び工事用資材の輸送に当たっては、踏切、スクールゾーン等、工事車両が人命等に影響を及ぼす区間が輸送路になる場合、または埃、振動、騒音等の害をおよぼす区間が輸送路になる場合は、必要に応じて地域住民及び関係機関等の連絡を密にして交通安全の確保、公害等の対策に万全を期さねばならない。

- (2)工事期間中は、交通誘導警備員を以下の条件に沿って配置し、現場内における安全確保に努めなければならない。なお、必要となる交通誘導警備員の人数は、作業形態に応じた配置計画とともに、あらかじめ監督員と協議すること。
【配置条件】
 ・ ()
 ※ 図示による

- (3)北海道公安委員会の認定する路線における工事現場については、一級又は二級検定合格警備員を配置する。(1.3.9)
- 16 揮発性有機化合物対策
 本工事に使用する化学物質を放散(発散)させる建築材料等は、設計図書に規定する所定の品質及び性能を有するとともに、揮発性有機化合物の放散(発散)が少ない材料の使用に努めるほか、以下を満たすものとする。(1.4.1)

- (1)ホルムアルデヒド放散(発散)建築材料に指定されている材料は、F☆☆☆☆等の規制対象外材料とする。
 (2)接着剤は、フタル酸ジ-n-ブチル及びフタル酸-2-エチルヘキシルを含有しない難揮発性の可塑剤を使用し、1)のほか、アセトアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。
 (3)保温材、緩衝材、断熱材は、1)のほか、スチレンを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。
 (4)屋内に使用する塗料は、厚生労働省「室内空気汚染に係るガイドライン」で指定された13物質(以下、13物質)を放散させないか、放散が極めて少ないものとする。
 (5)木質建材、家具、建具類及び二次製品は、(1)のほか、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレンを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。
 (6)ワックスは有機リン系化合物を含有していないものを使用し、13物質を放散させないか、放散が極めて少ないものとする。

- ※施工時・施工後引渡し前には、揮発性有機化合物の放散(発散)を促進するため、繰り返し換気を行うこと。
- 17 揮発性有機化合物の室内濃度測定
 受注者は、揮発性有機化合物の室内濃度測定を行い、厚生労働省の指針値以下であることを確認の上、測定結果を監督員に提出しなければならない。(1.7.9)
- (1)測定物質
 ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレン、パラジクロロベンゼン
- (2)測定方法 (※拡散方式 ・吸引方式)
 (7)居室の窓及び扉(造付け家具、押入れその他これらに類するものの扉を含む)を30分間開放し、窓及び扉を5時間以上閉鎖した後、その状態で採取を行うこと。
 また連続的な運転が確保できる換気設備がある場合は稼働させ、当該換気設備の給排気口は開放することができる。
- (4)居室の中央付近の床から概ね1.2mから1.5mまでの高さにおいて採取を行うこと。(学校の教室等については、机上の高さで行うこと。)
- (7)採取時間は、吸引方式では30分以上継続して、同時に又は連続して2回以上行うこと。
 また、拡散方式では8時間以上とする。(拡散方式とは、測定パッチ・パッシブサンプラー)
- (5)ホルムアルデヒドは、DNPH誘導体化固相吸着/溶媒抽出-高速液体クロマトグラフ法によること。
- (7)その他の揮発性有機化合物は、固相吸着/溶媒抽出法、固相吸着/加熱脱着法または、容器採取法とガスクロマトグラフ/質量分析法の組合せによること。

(一財)札幌市住宅管理公社	令和 年 月 日	工事名	常盤中学校屋内運動場外部改修工事		図番
		図面名	特記仕様書	1	A-01

⑱ 工事の入札及び契約の適正化	(3)測定箇所(箇所 ※測定位置は監督員と協議のこと)
	(4)測定時期 ※工事施工前、工事施工後の2回 ・工事施工後の1回
⑲ 施工体制台帳等	「公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律」を遵守し、施工体制の適正化を図ること。
	(a)施工体制台帳 (1.1.5) 建設業法並びに公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律等により、工事の受注者である建設業者は、下請契約を締結するときは、その金額に関わらず、施工体制台帳を作成し、工事現場ごとに備え置くこと。 また、その写しを発注者に提出すること。その際、資格要件にない免許・資格証等の不必要な個人情報は添付しない。なお、施工体制台帳の作成範囲・構成は、「施工体制台帳作成のポイント(札幌市財政局工事管理室)」による。
20 臨時検査	(b)現場の管理 受注者は、監理技術者、主任技術者(下請負を含む)及び元請の専門技術者(専任している場合のみ)に、工事現場内において、工事名、工期、顔写真、所属会社名及び社印の入った名札を着用させるものとする。
	臨時検査は下記の場合に実施する。 (1.8.2) (1) 中間技術検査 各年度1回以上(ただし、複数年度の継続工事において、支払が発生しない年度については除く。)行うほか、基礎固い工事がある場合は、その施工中に1回。 (2) 臨時技術検査 発注者が必要と認めた場合
⑳ 法令等の遵守	当該工事における適用法令等を遵守し、必要となる法令等を把握したうえで、その一覧(適用法令・要領・要綱・指針・基準・届出時期等)を作成し、施工計画書に明示する。(1.1.13)
㉑ 苦情の対応処置	当該工事における苦情への対応及び報告書について、施工計画書に明示すること。 また、監督員にその都度報告し、指示を受ける。(1.3.7)
㉒ 不法無線局及び違法無線局対策	受注者は、電波法令を遵守し、不法無線局(電波法に規定する免許または登録をせずに開設する無線局 例:不法アマチュア局、外国製無線機(FRS/GMRS)など)及び無線局の違法な運用(免許または登録を受けていながら、電波法の範囲を逸脱して使用することなど 例:アマチュア局を使用した業務連絡など)を行ってはならない。
㉓ 建設副産物対策	(1)受注者は、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」(建設リサイクル法)の対象になった場合、次の項目に掲げた事項について措置を講ずること。 (ア)建設リサイクル法を厳守し、再生資源の十分な利用と廃棄物の減量等を通じて資源の有効な利用の確保及び廃棄物の適正な処理を図り、生活環境の保全に努める。 (イ)工事に着手する前に別途指示する「再生資源利用計画書」及び「再生資源利用促進計画書」を作成し、監督員に説明の上提出するとともに、特定建設資材廃棄物の再生資源化等が完了したときは、その実施状況に関する記録を作成し書面により報告すること。 (ウ)本法律対象となった時は、契約等の新たな手続きが必要となるので留意する。
	(2)受注者は、「建設副産物適正処理推進要綱」を厳守し、建設工事の円滑な施工の確保及び生活環境の保全に努めること。 (3)受注者は、着手時に「再生資源利用計画書(建設資材入)と再生資源利用促進計画書(建設副産物の搬出)を作成し、監督員に提出すると共に、工事完了時には、実施書により実施状況記録を報告する。
㉔ 発生材の処理	(1) 本工事で発生する建設副産物は、次により処理を行う。(1.3.12) (ア) 建設副産物の搬出先は下表の通りとし、原則として札幌市内の処理施設を、「札幌市産業廃棄物処分業許可業者名簿」(環境局HP参照)から指定すること。

26 設備工事との取合い

ただし、(※)で示す副産物については、市外に搬出すること。	
搬出先	種別
再生資源化施設	アスファルトコンクリート塊、コンクリート塊、コンクリート塊(モルタル付着)、コンクリートブロック(建築用)、インターロッキングブロック(着色含)、金属くず、木くず(建設廃材)、剪定枝等生木、廃プラスチック類、蛍光管類、(条件有)、汚泥(無機性)
その他の施設	がれき、紙くず・木くず・繊維くず、ALCパネル、混合廃棄物、廃石膏ボード、アスファルト防水材(※)、非飛散性アスベスト成形板(※)
(イ) 処理計画については、受け入れ条件等を確認のうえ、事前に監督員と協議すること。	
(ウ) 再生資源化施設へ搬出した場合、搬出後、調書を監督員に提出すること。	
(エ) 現場より発生する汚泥は、速やかに溶出試験、含有試験を行い「環境基本法に基づく環境基準(平成3年環境省告示第46号)」および「土壌汚染対策法に基づく特定有害物質の含有量基準(平成15年環境省告示第19号)」にそれぞれ適合することを確認し、資料を監督員に提出すること。 ※試験回数(※1 回)	
(2) 舗装切断汚水	・舗装切断汚水は下記の施設で処分すること。 公清企業(エコパーク)(札幌市東区中沼町45番地23)
(3) 特別管理産業廃棄物(種類: 搬出先:)	受注者は、特別管理産業廃棄物管理責任者の資格を有する者を選任し、監督員に報告する。なお、選任は受注者の中で行う。 ○有価金属は、下記の業者で処分すること。 (ア)札幌市競争入札参加資格者:物品・役務関係・再生資源関係業者 (イ)廃棄物再生事業登録業者(知事登録) (ウ)金属くず商許可業者(警察許可) なお、搬出を行なった際、領収書または、受入伝票等及び許可書等の写しを監督員に提出すること。
・有価金属は、材料引渡しリストを作成し、下記保管場所に保管する。(保管場所:)	
(5) 産業廃棄物運搬車両表示	産業廃棄物を自己運搬する際に使用する車両には「廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条」により定められた表示を行うとともに、その運搬車に必要な書面を備え付けること。 (同法施行規則第7条の2第3項及び第7条の2の2) 施工範囲 ①図示した鉄筋コンクリート部の貫通孔、開口部の型枠及び、それらの補強 ②図示した鉄骨造の貫通孔の補強プレート等 ③図示した天井の仕上材、下地材の切込み及び下地の補強 ④電動駆動装置がある建具類の2次配線及び操作スイッチ ⑤自動閉鎖装置取付け箇所の切込み及び補強
施工図 設備機械の位置・取合い等、検討できる施工図を提出して監督員の承諾を受ける。	
工事区分	※該当は ● 印とする。
項目	建築電気暖房衛生備考
躯体の設備配管用のスリーブ及びボックス入れ	○ ○ ○ ○
同上の補強	○ ○ ○ ○
天井・壁取つけ設備機器用穴あけと補強	○ ○ ○ ○
ルーフドレン	○ ○ ○ ○
設備用天井・床下点検口	○ ○ ○ ○
設備用穴あけとモルタル充填・断熱補修	○ ○ ○ ○
ドラフトチャンパー本体及び排気筒	○ ○ ○ ○
設備用機械基礎	○ ○ ○ ○
床下受水槽マンホール	○ ○ ○ ○
換気扇等の取付用枠	○ ○ ○ ○
ピット内連通管	○ ○ ○ ○

㉕ 工事標識
㉖ 建設機械の選定
29 建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法
㉗ 施工数量調査
㉘ 完成時の提出図書

設備機器取付用下地補強	○ ○ ○ ○	
フード・バンドキャップ類のコーキング	○ ○ ○ ○	
衛生器具廻りのコーキング	○ ○ ○ ○	
工事に先立ち監督員の指示する位置に指定様式の工事標識を設置すること。		
種別 ・Aタイプ(縦850×横1,760) ※Bタイプ(縦850×横800) 表面材:着色カラー鉄板白色 厚0.35mm、文字は黒色。		
工事名	工事	
工事期間 令和 年 月 日～令和 年 月 日		
施工者	会社	
代表者名	TEL	
発注担当 (一財)札幌市住宅管理公社		
保全部 保全課 建築係		
TEL 211-3383		
工事に使用する建設機械は、以下による。 「低騒音型・低振動型建設機械の指定に関する規程」(平成9年建設省告示第1536号)により指定された建設機械を使用する。本工事において、以下に示す建設機械を使用する場合は、国土交通省「排出ガス対策型建設機械指定要領」に基づき指定された排出ガス対策型建設機械、平成7年度建設技術評価制度公募課題の「建設機械の排出ガス浄化装置の開発」、また、これと同等の開発目的で実施された民間開発建設技術の技術審査・証明事業により評価された排出ガス浄化装置を装着した建設機械を使用する。ただし、道路運送車両法の保安基準に排出ガス基準が定められている自動車の種別で、有効な自動車車検証の交付を受けているものは除く。その旨を施工計画書に記載し監督員の確認を受けると共に、現場代理人は施工現場において使用する建設機械の写真(指定ラベル、形式等)を監督員に提出する。 なお、これにより難い時は監督員と協議すること。		
対象機種	型式	規格
バックホウ	油圧式クローラ型	ディーゼルエンジン
ブルドーザ	普通、湿地、リッパ 装置付	(エンジン出力7.5kW以上260kW以下)を搭載した建設機械に限る。
トラクターショベル	ホイール型	ただし、道路運送車両法による排ガス規制を受けている建設機械は除く。
発動発電機	可搬式、溶接兼用機含む	
空気圧縮機	可搬式	
油圧式杭圧入引抜機		
ローラ	ロードローラ、タイヤローラ、振動ローラ	
ホイールクレーン	ラフテレーンクレーン	
建築基準法に定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法と定められた工種について、工法を施工計画書として提出する。(標8.4.3)(標10.5.3)(標13.2.3)(標13.3.3)(標14.7.3)建築基準法に基づき定められた区分等 基準風速 Vo=(※32) m/s 地表面粗度区分 (I II ※III IV) 多雪地域とし、垂直積雪量等は、札幌市建築基準法施行細則第21条による。 ○調査範囲:外壁・基礎・コンクリート面 (1.6.2)(1.6.3) ○調査方法:打診・目視 ・破壊部分の補修 ○報告書		
完成図 ※作成する(A3判 部)・作成しない 作成方法 ○製本(A3判 部)・白焼きバラ(A3判 部) 製本等は、完成図、主要な施工図、実施工程表、施工業者一覧、主要な使用材料一覧をまとめたものとする。(1.9.1)(1.9.2)(表1.9.1)		
完成図のCADデータ ※提出する・提出しない データ形式は、以下のすべてを提出すること。(1.9.2) ①貴社で使用しているCAD形式 ②DXF形式 ③PDF形式		

㉙ 工事写真及び完成写真
㉚ 週休2日工事

保全に関する資料	※作成する(1部)・作成しない(1.9.3)
保証書等	※作成する(2部)・作成しない
設計図CADデータの貸与	(提供する・提供しない) 提供するCADデータは、本工事の履行に必要な施工図及び完成図の作成においてのみ使用し、それ以外の目的で使用してはならない。提供したCADデータは、引き渡し時を目的に複製も含めてすべて削除すること。
(1) 工事写真の撮影及び整理については、「営繕工事写真撮影要領(工事着手日時点の最新版を適用)」による。ただし、提出部数及び形式については監督職員と協議する。(1.2.4)	
(2) デジタル工事写真については、国土交通省通知「デジタル工事写真の黒板情報電子化について(工事着手日時点の最新の通知を適用)」に基づき実施する。	
(3) 完成写真の提出部数(紙媒体 1部)(電子媒体 1部)完成写真の仕様は、監督員と協議する。	
(4) 受注者は著作物等(工事写真・完成写真等)の利用を発注者に許諾する。	
○週休2日工事の実施について	
1. 本工事は、「週休2日工事(営繕・土木工事)」の対象工事であり、当初予定価格は4週8休以上の達成を前提とした経費の補正を行っている。	
2. 週休2日とは、対象期間において、4週8休以上の現場閉所(現場休息)を行ったと認められる状態をいう。対象期間は、工事着手日(現場に継続的に常駐した最初の日)から工事完成日までの期間をいう。なお、年末年始休暇6日間夏季休暇3日間、工場製作のみを実施している期間、工事全体を一時中止している期間のほか、発注者があらかじめ対象外としている内容に該当する期間(受注者の責によらず現場作業を余儀なくされる期間など)は含まない。	
3. 4週8休以上とは、対象期間内の現場閉所(現場休息)率が28.5%(8日/28日)以上の水準に達する状態をいう。	
4. 週休2日の実施の確認方法は、次によるものとする。 1) 受注者は、週休2日の休日取得計画を施工計画書に添付し発注者へ提出する。 2) 受注者は、実施結果を工事月報、休日取得計画等により定期的に発注者へ報告する。	
5. 現場閉所(現場休息)の状況を確認後、4週8休に満たない場合は、補正分について減額の設計変更を行う。	
6. その他の事項については、公社HPに掲載している週休2日工事要領(営繕・土木工事)によるものとする。	
2章 仮設工事	
㉛ 足場その他	(2.2.1) ・内部足場: (※脚立、足場板等 架台足場 移動式足場) ○外部足場:※枠組 大きさ緊結式 単管 ・ゴンドラ 移動式 高所作業車 ○危険防止: ・金網張 ○金網式養生柵 ○防災シート (※I類 II類) ・ネット状養生シート (※I類 II類) ・養生防護柵 水平ネット ○材料、撤去材料等の運搬方法 (表2.2.1) ・A種(二本構り) ○B種(トラック等) ・C種(既存EV利用) ・D種(既存階段) ・E種(登り桟橋等) ○手すり先行足場 (手すり先行足場を使用する場合は「手すり先行工法に関するガイドライン(厚生労働省平成21年4月策定)」による)
㉜ 既存部分の養生	○既存養生方法(※ビニールシート、合板類) (2.3.1) ・既存部分における既存家具、既存設備等の養生(※ビニールシート) ・既存ブラケット、カーテン等の養生方法及び保管場所(※監督員の指示による) ・備品、机、ロッカー等の移動 (行う 行わない)
03 仮設間仕切り	・設置する(図示による) ・設置しない (2.3.2) 種別(・A種 ※B種 ・C種) (表2.3.1) A種及びB種の材種: (※石膏ボード ・合板 ・ケイカル板+石膏ボード)

(一財)札幌市住宅管理公社	令和 年 月 日	工事名	常盤中学校屋内運動場外部改修工事		図番
		図面名	特記仕様書 2		A-02
		縮尺			

⑭ 仮囲い	厚さ(※9.5mm ・9mm ・4mm+12.5mm) 仮設置(※設置する(図示による) ・設置しない) 扉の構造(※合板張り木製扉程度 ・図示による) 塗装(・行う ※行わない)
⑮ 工事用水	構内既存の施設 ※利用できない ・利用できる(※有償 ・無償)
⑯ 工事用電力	構内既存の施設 ※利用できない ・利用できる(※有償 ・無償)
07 工事用仮設道路	範囲は図示による。 材料(・再生クラッシャー ・切込砕石 ・敷鉄板 722)

3章 土工事

01 排水	排水工法 (標3.2.2) 排水処理の方法
02 埋戻し及び盛土	種別 (・A種 ※B種 ・C種 ・D種 ・汚泥再生材) C種の発生場所: 受入れ量: m3 (標3.2.3) (標表3.2.1)
03 建設発生土の処理	※指定地へ搬出(・堆積 ・敷均し) (標3.2.5) 搬出先() 運搬距離(km) 住所: ・構内指示の場所に運搬(・堆積 ・敷均し)
04 山留め	工法() 施工範囲(※図示による) 構造() 土質(※図示の柱状図による) 山留め周囲の上載圧(t/m ²) 地下水位(GL- m) 山留めの撤去(※撤去 ・存置) (標3.3.1) (標3.3.2) (標3.3.3)

4章 地業工事

01 試験	試験杭(※行方 ・行わない) (標4.2.2) 位置は図示によるほか監督員との協議による。 杭の本数(※最初の1本 ・本) 杭の種類(※本杭と同じ ・) 杭長(※本杭と同じ ・ m) 杭径(※本杭と同じ ・ mm) 杭の載荷試験(・行方 ※行わない) (標4.2.3) 種類(・鉛直載荷 ・水平載荷) 位置、本数、載荷荷重又は報告書の記載事項は図示による 地盤の平板載荷試験(・行方 ※行わない) (標4.2.4) 試験方法(※段階式載荷 ・段階式繰返し載荷) 位置、載荷荷重及び報告書の記載事項は図示による。																																	
02 既製コンクリート杭及び鋼杭地業	杭種 (標4.3.2) (標4.3.4) (標4.3.5) (標4.3.6) (標4.4.2) (標4.4.4) (標4.4.5)																																	
<table border="1"> <tr> <td>杭の種類</td> <td>・遠心コンクリート杭</td> <td>・鋼杭</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・PHC杭 (JIS A 5373)</td> <td>・先端羽付回転貫入鋼管杭</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・R杭</td> <td></td> </tr> <tr> <td>規格・区分</td> <td>・A種 ・B種 ・C種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>杭長 (m)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>断面寸法 (mm)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>設計支持力 (kN)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>本数</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>先端形状</td> <td>・閉塞形 (平たん) ・開放形 ・半開放形</td> <td></td> </tr> <tr> <td>継手工法</td> <td>・アーク溶接 ・機械式継手</td> <td></td> </tr> <tr> <td>工法</td> <td>・セメントミルク工法 (標4.3.4) アースオーガの支持地盤への掘削深さ(・1.5m程度) 杭の支持地盤への根入れ深さ(・1m以上) ・建築基準法に基づく(認定)特定埋込杭工法 (標4.3.5) (工法:)</td> <td></td> </tr> </table>		杭の種類	・遠心コンクリート杭	・鋼杭		・PHC杭 (JIS A 5373)	・先端羽付回転貫入鋼管杭		・R杭		規格・区分	・A種 ・B種 ・C種		杭長 (m)			断面寸法 (mm)			設計支持力 (kN)			本数			先端形状	・閉塞形 (平たん) ・開放形 ・半開放形		継手工法	・アーク溶接 ・機械式継手		工法	・セメントミルク工法 (標4.3.4) アースオーガの支持地盤への掘削深さ(・1.5m程度) 杭の支持地盤への根入れ深さ(・1m以上) ・建築基準法に基づく(認定)特定埋込杭工法 (標4.3.5) (工法:)	
杭の種類	・遠心コンクリート杭	・鋼杭																																
	・PHC杭 (JIS A 5373)	・先端羽付回転貫入鋼管杭																																
	・R杭																																	
規格・区分	・A種 ・B種 ・C種																																	
杭長 (m)																																		
断面寸法 (mm)																																		
設計支持力 (kN)																																		
本数																																		
先端形状	・閉塞形 (平たん) ・開放形 ・半開放形																																	
継手工法	・アーク溶接 ・機械式継手																																	
工法	・セメントミルク工法 (標4.3.4) アースオーガの支持地盤への掘削深さ(・1.5m程度) 杭の支持地盤への根入れ深さ(・1m以上) ・建築基準法に基づく(認定)特定埋込杭工法 (標4.3.5) (工法:)																																	
<p>支持地盤は図示による。(標4.3.4) (標4.3.5) (標4.4.4)</p> <p>杭の水平方向の位置ずれの精度(標4.3.4) (標4.3.5) (標4.4.4) (・100mm以下 ・図示による)</p> <p>杭頭の処理は図示による。(標4.3.8) (標4.4.6)</p> <p>施工記録の管理・報告 電流値等の施工データ(アナログ式記録機械においては記録紙の原</p>																																		

03 砂利及び砂地業	材料(・砂 ・切込砂利 ・切込砕石 ※再生クラッシャー) (標4.6.2) 厚さ(mm) 施工箇所() (標4.6.3)
04 捨コンクリート地業	設計基準強度(・15 N/mm ² ・18 N/mm ²) (標4.6.4) (標6.14.1) スランブ(・15cm ・18cm) (標6.14.2) 厚さ(※50mm ・ mm)
05 床下防湿層	材料(※ポリエチレンフィルム厚0.15mm)範囲は図示による (標4.6.2) (標4.6.5) 継手位置 ※構造特記による (標6.14.2) ・公共建築工事標準仕様書各部配筋参考図による 柱及び梁の主筋及び耐力壁の鉄筋重ね継手の長さ (※構造特記による) 耐力壁の鉄筋重ね継手の長さ (※40dと(標表5.3.2)のうち大きい値 ・構造特記による) 鉄筋の定着長さ (※標表5.3.4による ・図示による) 機械式定着工法 ・適用する 適用箇所(・図示による ・) 種類(・図示による ・) ガス圧接継手の抜取試験 (標5.4.10) (※超音波探傷試験 ・引張試験) ・塩害を受けるおそれのある部分、耐久性上不利な箇所 (※図示による) ガス圧接継手の抜取試験(※超音波探傷試験 ・引張試験) (標5.4.10) ・塩害を受けるおそれのある部分、耐久性上不利な箇所 (※図示による) 機械式継手及び溶接継手 (標5.5.3) (標5.6.3) 種類(※図示による) 品質の確認方法(※図示による) 継手部の試験工法 (標5.5.5) (標5.6.5) (・外観試験 ・超音波探傷試験) 不合格となった継手の修正方法等(※図示による)

5章 鉄筋工事

01 鉄筋の種類	鉄筋の種類 (標表5.2.1)																
<table border="1"> <tr> <th>種別</th> <th>JIS G 3112</th> <th>径</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>・SD295</td> <td></td> <td>D 以下</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・SD345</td> <td></td> <td>D 以上</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・SD345</td> <td></td> <td>D</td> <td>アンカー差し筋</td> </tr> </table>		種別	JIS G 3112	径	備考	・SD295		D 以下		・SD345		D 以上		・SD345		D	アンカー差し筋
種別	JIS G 3112	径	備考														
・SD295		D 以下															
・SD345		D 以上															
・SD345		D	アンカー差し筋														
適用箇所は図示による																	
02 溶接金網	網目の形状(※レギュラー溶接金網 ・デザイン溶接金網) 網目の寸法(mm) (・100×100 ・150×150) (標5.2.2) 鉄線の径(・3.2mm ・6.0mm) 規格番号JIS G3551																
03 加工	90°未満の折り曲げの内法直径(※構造特記による) (標5.3.2)																
04 継手及び定着	継手 (標5.3.4)																
<table border="1"> <tr> <th></th> <th>適用箇所</th> </tr> <tr> <td>・重ね継手</td> <td>・D16以下</td> </tr> <tr> <td>・ガス圧接継手(標5章4節)</td> <td>・D19以上</td> </tr> <tr> <td>・機械式継手(標5.5.2)</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・溶接継手(標5.5.3)</td> <td>・</td> </tr> </table>			適用箇所	・重ね継手	・D16以下	・ガス圧接継手(標5章4節)	・D19以上	・機械式継手(標5.5.2)	・	・溶接継手(標5.5.3)	・						
	適用箇所																
・重ね継手	・D16以下																
・ガス圧接継手(標5章4節)	・D19以上																
・機械式継手(標5.5.2)	・																
・溶接継手(標5.5.3)	・																
05 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔	軽量コンクリートの最小かぶり厚さは構造特記による。 特殊な継手の鉄筋間隔は構造特記による。(標5.3.5) ・塩害を受けるおそれのある部分、耐久性上不利な箇所 (※図示による)																

06 各部配筋	※構造図、構造特記仕様書による (標5.3.7) ・公共建築工事標準仕様書 各部配筋参考図による(図中の【その他記載すべき事項】は図示による)												
<h3>6章 コンクリート工事</h3>													
01 コンクリートの種類等	コンクリートの種類 ※普通コンクリート ・軽量コンクリート ・特殊コンクリート(構造特記による) ・建築基準法第37条第二号に規定されたコンクリート(構造特記による) (標6.2.1) コンクリートの種別(※Ⅰ類 ・Ⅱ類) (標6.2.1) (標表6.2.1) 所要気乾単位容積質量 (標6.10.2) 軽量コンクリート (※標表6.10.1による ・)												
02 コンクリートの強度及びスランブ	コンクリートの強度及びスランブ (標6.2.2) (標6.2.4) (標表6.2.2)												
<table border="1"> <tr> <th>設計基準強度 (N/mm²)</th> <th>スランブ (c m)</th> <th>施工箇所</th> </tr> <tr> <td>※21(N/mm²)</td> <td>・15 ・18</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		設計基準強度 (N/mm ²)	スランブ (c m)	施工箇所	※21(N/mm ²)	・15 ・18							
設計基準強度 (N/mm ²)	スランブ (c m)	施工箇所											
※21(N/mm ²)	・15 ・18												
03 構造体コンクリートの仕上り	合板せき板の打放し仕上げ (標6.2.5) (標表6.2.4)												
<table border="1"> <tr> <th>種別</th> <th>施工箇所</th> </tr> <tr> <td>・A種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・B種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・C種</td> <td></td> </tr> </table>		種別	施工箇所	・A種		・B種		・C種					
種別	施工箇所												
・A種													
・B種													
・C種													
コンクリートの仕上りの平坦さは(標6.2.5)を標準とする。													
<table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>スランブ (c m)</th> <th>適用箇所</th> </tr> <tr> <td>・a種</td> <td>化粧打放しコンクリート 塗装仕上げ 壁紙張り 接着剤による陶磁器質タイル張り</td> <td>合成樹脂塗床 ビニル系床材張り 床コンクリート直直し仕上げ フローアスフロア(置敷式)</td> </tr> <tr> <td>・b種</td> <td>仕上げ塗材塗り</td> <td>カーペット張り 防水下地 セムレンパブリック材塗り</td> </tr> <tr> <td>・c種</td> <td>セメントモルタルによる陶磁器質タイル張り モルタル塗り 銅線下地</td> <td>タイル張り モルタル塗り 二重床</td> </tr> </table>		種類	スランブ (c m)	適用箇所	・a種	化粧打放しコンクリート 塗装仕上げ 壁紙張り 接着剤による陶磁器質タイル張り	合成樹脂塗床 ビニル系床材張り 床コンクリート直直し仕上げ フローアスフロア(置敷式)	・b種	仕上げ塗材塗り	カーペット張り 防水下地 セムレンパブリック材塗り	・c種	セメントモルタルによる陶磁器質タイル張り モルタル塗り 銅線下地	タイル張り モルタル塗り 二重床
種類	スランブ (c m)	適用箇所											
・a種	化粧打放しコンクリート 塗装仕上げ 壁紙張り 接着剤による陶磁器質タイル張り	合成樹脂塗床 ビニル系床材張り 床コンクリート直直し仕上げ フローアスフロア(置敷式)											
・b種	仕上げ塗材塗り	カーペット張り 防水下地 セムレンパブリック材塗り											
・c種	セメントモルタルによる陶磁器質タイル張り モルタル塗り 銅線下地	タイル張り モルタル塗り 二重床											
04 コンクリートの材料	セメント (標6.3.1) (標表6.3.1)												
<table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>適用箇所</th> </tr> <tr> <td>※普通ポルトランドセメント又は、混合セメントA種</td> <td>下記以外のすべて</td> </tr> <tr> <td>・早強ポルトランドセメント</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・高炉セメントB種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・フライアッシュセメントB種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・普通エコセメント</td> <td></td> </tr> </table>		種類	適用箇所	※普通ポルトランドセメント又は、混合セメントA種	下記以外のすべて	・早強ポルトランドセメント		・高炉セメントB種		・フライアッシュセメントB種		・普通エコセメント	
種類	適用箇所												
※普通ポルトランドセメント又は、混合セメントA種	下記以外のすべて												
・早強ポルトランドセメント													
・高炉セメントB種													
・フライアッシュセメントB種													
・普通エコセメント													
骨材の種類及び品質は、JIS A5308の付属書Aによるほか、以下による。(標6.3.1)													
<table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>適用箇所</th> </tr> <tr> <td>・フェロニッケルスラグ粗骨材</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・鋼スラグ粗骨材</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・電気炉酸化スラグ粗骨材</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・再生骨材H</td> <td>・無筋コンクリート</td> </tr> </table>		種類	適用箇所	・フェロニッケルスラグ粗骨材		・鋼スラグ粗骨材		・電気炉酸化スラグ粗骨材		・再生骨材H	・無筋コンクリート		
種類	適用箇所												
・フェロニッケルスラグ粗骨材													
・鋼スラグ粗骨材													
・電気炉酸化スラグ粗骨材													
・再生骨材H	・無筋コンクリート												
<p>アレカリシム反応性の区分(※A ・B)</p> <p>高炉スラグ粗骨材の絶対密度、吸水率及び単位容積質量による区分(※N ・L)</p> <p>電気炉酸化スラグ粗骨材の絶対密度の区分(※N ・L)</p>													
<p>混和材料 (標6.3.1) (標6.3.2)</p> <p>・特記による混和材料 種類()、使用方法()、使用量()</p> <p>※種類は(標6.3.1)、使用方法及び使用料は(標6.3.2)による。 レディミクストコンクリート工場の選定は、「全国品質管理監査会議」が策定した「全国統一品質管理監査基準」に基づく監査に適合した工場を優先的に選定する。(標6.4.1)</p>													
05 構造体強度補正值	普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリセメントA種、フライアッシュセメントA種の構造体強度補正值 (標6.3.2) (標表6.3.2)												
<table border="1"> <tr> <th>構造体強度補正值 (S)</th> <th>適用期間</th> </tr> <tr> <td>3 N/mm²</td> <td>4/1/1~10/2/0</td> </tr> <tr> <td>6 N/mm²</td> <td>10/2/1~4/1/0</td> </tr> </table>		構造体強度補正值 (S)	適用期間	3 N/mm ²	4/1/1~10/2/0	6 N/mm ²	10/2/1~4/1/0						
構造体強度補正值 (S)	適用期間												
3 N/mm ²	4/1/1~10/2/0												
6 N/mm ²	10/2/1~4/1/0												
ただしラップルコンクリート、捨てコンクリートは除く													
06 普通エコセメント	普通エコセメント 養生期間() (標6.7.2) 型枠の最小存置期間() (標6.8.4)												

07 軽量コンクリート	適用は構造特記による (標6.10節)																		
08 寒中コンクリート	適用期間 11月1日から3月31日の間に打設する部分とする。(標6.11節)																		
09 暑中コンクリート	適用期間 ※適用なし() (標6.12節) 構造体強度補正 (※6N/mm ²)																		
10 無筋コンクリート	(標6.14.1) (標6.14.2) (標6.14.3)																		
<table border="1"> <tr> <th>設計基準強度</th> <th>スランブ (c m)</th> <th>縦骨材の最大寸法</th> <th>適用箇所</th> </tr> <tr> <td>※18N/mm²</td> <td>・15 ・18</td> <td>※25mm</td> <td></td> </tr> </table>		設計基準強度	スランブ (c m)	縦骨材の最大寸法	適用箇所	※18N/mm ²	・15 ・18	※25mm											
設計基準強度	スランブ (c m)	縦骨材の最大寸法	適用箇所																
※18N/mm ²	・15 ・18	※25mm																	
11 打継目地	寸法(※図示による) (標6.6.4)																		
12 型枠	打増し厚さ(※20mm ・ mm ・図示による) (標6.8.1) ひび割れ誘発目地(※位置、形状及び寸法は図示による。) スリーブに用いる材料 材種(※標6.8.2 (9) (イ)による) (標6.8.2) 規格(※標6.8.2 (9) (イ)による) せき板の材料																		
<table border="1"> <tr> <th></th> <th>厚さ等</th> <th>施工箇所</th> </tr> <tr> <td>・合板 表面加工品</td> <td>※12mm</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・合板 B-C種</td> <td>※12mm</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・床型枠用鋼製デッキプレート</td> <td>・ mm</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・断熱材兼用型枠材</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・MCR工法用シート</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			厚さ等	施工箇所	・合板 表面加工品	※12mm		・合板 B-C種	※12mm		・床型枠用鋼製デッキプレート	・ mm		・断熱材兼用型枠材			・MCR工法用シート		
	厚さ等	施工箇所																	
・合板 表面加工品	※12mm																		
・合板 B-C種	※12mm																		
・床型枠用鋼製デッキプレート	・ mm																		
・断熱材兼用型枠材																			
・MCR工法用シート																			

7章 コンクリートブロック・ALCパネル

・押出成形セメント板工事

01 補強コンクリートブロック造	種類 (標8.2.2) ※空洞ブロック16 ・空洞ブロック12 ・空洞ブロック08 厚さ(・100mm ・120mm ・150mm) 各部の配筋 (※図示による) (標8.2.5)																								
02 コンクリートブロック塀壁及び塀	・種類 空洞ブロック16 (標8.3.2) (標表8.3.1) (・間仕切壁 ・地下二重壁 ・外壁 ・塀) ・種類 空洞ブロック08 (・衛生配管用裏積みブロック) 厚さ(・100mm ・120mm ・150mm ・190mm) 各部の配筋 (※図示による)																								
03 ALCパネル	ALCパネルはJIS A5416による 種類、工法 (標8.4.2~5) (表8.4.2) (表8.4.3)																								
<table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>寸法(mm)W×D×t</th> <th>単位荷重(kN)</th> <th>種別</th> <th>耐火性能</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>・外壁用パネル</td> <td></td> <td></td> <td>・種</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・間仕切用パネル</td> <td></td> <td></td> <td>・種</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・屋根用パネル</td> <td></td> <td></td> <td>※F種</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		種類	寸法(mm)W×D×t	単位荷重(kN)	種別	耐火性能	備考	・外壁用パネル			・種			・間仕切用パネル			・種			・屋根用パネル			※F種		
種類	寸法(mm)W×D×t	単位荷重(kN)	種別	耐火性能	備考																				
・外壁用パネル			・種																						
・間仕切用パネル			・種																						
・屋根用パネル			※F種																						
<p>外壁パネル構法、屋根及び床パネル構法 (標8.4.3) (標8.4.5)</p> <p>耐風圧性能()</p> <p>耐震性能()</p> <p>外壁用パネルの出隅入隅の目地幅(mm) (標8.4.3) (標8.4.4) ・伸縮目地への耐火目地材の充填 (標8.4.3) (標8.4.4)</p> <p>外壁用パネルの幅(※300mm) (標8.4.3)</p>																									
04 押出成形セメント板	押出成形セメント板はJIS A5441による 種類 (標8.5.2) (標表8.5.1) (標表8.5.2)																								
<table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>表面形状</th> <th>寸法(mm)</th> <th>厚さ(mm)</th> <th>取付工法</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>・外壁用パネル</td> <td>・フラット ・デザイン</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>・種</td> </tr> <tr> <td>・間仕切用パネル</td> <td>・フラット ・デザイン</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>・種</td> </tr> </table>		種類	表面形状	寸法(mm)	厚さ(mm)	取付工法	備考	・外壁用パネル	・フラット ・デザイン				・種	・間仕切用パネル	・フラット ・デザイン				・種						
種類	表面形状	寸法(mm)	厚さ(mm)	取付工法	備考																				
・外壁用パネル	・フラット ・デザイン				・種																				
・間仕切用パネル	・フラット ・デザイン				・種																				
<p>外壁パネル構法、屋根及び床パネル構法 (標8.5.3)</p> <p>耐風圧性能()</p> <p>耐震性能()</p>																									
<p>外壁用パネルの相互の目地幅 (※長辺10mm以上 短辺15mm以上) (標8.5.3) (標8.5.4)</p> <p>外壁用パネルの出隅入隅の目地幅(※15mm) (標8.5.3) (標8.5.4)</p> <p>外壁パネルの欠き込み(開口限度 mmとする) (標8.5.5) 目地及び隙間 (※パネル製造所 ・図示による)</p>																									
<p>間仕切壁パネル工法 (標8.5.4)</p> <p>耐震性能()</p>																									

8章 防水改修工事

⑪ 降雨に対する養生方法	(※3.1.3による) (3.1.3)																																																																			
⑫ 改修工法の種類	<p>改修工法の種類 (3.1.4) (表3.1.1)</p> <table border="1"> <tr> <th>既存防水工法による区分</th> <th>既存保護層及び防水層の撤去、非撤去による区分</th> <th>新規防水工法の種別に</th> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・P (保護アス・改質ア) ・M (露出アス・改質ア) ○S (シート) ・L (ウレタン) ・() </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・1 (保護及び防水撤去) ・2 (保護撤去、防水非撤去) ○B (露出防水撤去) ・4 (露出防水非撤去) ・0 (保護及び防水非撤去) ・() </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○AS (改質アス) ・ASI (改質絶縁断熱) ・S (シート) ・SI (シート断熱) ・X (ウレタン) ・() </td> </tr> </table> <p>既存防水層等の撤去及び既存下地の処理 (3.2節) (※図示による)</p> <p>新規防水層の種類、施工箇所 (3.3.3) (表3.3.3～表3.3.10)</p> <table border="1"> <tr> <th>種別</th> <th>施工箇所</th> </tr> <tr> <td>○無釜型アスファルト防水熱工法 D-1仕様同等以上</td> <td>屋根全般</td> </tr> </table> <p>・立上り部における保護層の工法 (※場所打ちコン・乾式保護材・保護れんが)</p> <p>○脱気装置 種類、設置数量 (○図示による ※アスファルトルーフィング類製造所の仕様による)</p> <p>材料、施工 (3.3.2) (3.3.4) (3.3.5) アスファルトは、JIS K2207防水工用アスファルト3種</p> <table border="1"> <tr> <td>○改質アスファルトルーフィングシート</td> <td>種類 ※非露出複層防水用R種</td> <td>厚さ ※1.5mm</td> </tr> <tr> <td>・押え金物</td> <td colspan="2">※アルミニウム製 L-30×15×2.0程度 ○図示による</td> </tr> <tr> <td>・断熱材</td> <td>工法</td> <td>材料</td> </tr> <tr> <td>・保護防水断熱工法</td> <td>JIS A9521</td> <td>押出法ポリスチレンフォーム断熱材3種bA</td> </tr> <tr> <td>・露出防水断熱工法</td> <td>JIS A9521 (発砲プラスチック断熱材)</td> <td>・硬質ウレタンフォーム断熱材2種1号又は2号 (透湿係数の規定は除く)</td> </tr> </table> <p>※露出防水断熱工法におけるルーフィングの回り及び立上り部周辺の張りじまいは図示による</p> <table border="1"> <tr> <td>・絶縁用シート</td> <td>※ 3.3.2.(10)による</td> </tr> <tr> <td>・保護コンクリート</td> <td>設計基準強度 (※18N/mm²) スランプ (・15cm ・18cm) 仕上・厚さ (・こて仕上 80mm以上 ・仕上あり 60mm以上)</td> </tr> <tr> <td>・保護れんが</td> <td>※普通れんが (JIS R 1250)</td> </tr> <tr> <td>・屋上排水溝</td> <td>※図示による</td> </tr> <tr> <td>○土上塗料</td> <td>種類 ○水性アクリル樹脂系塗料 使用量 ○アスファルトルーフィング類製造所の仕様による</td> </tr> </table> <p>新規防水層の種類、施工箇所 (3.4.3) (表3.4.1～表3.4.3)</p> <table border="1"> <tr> <th>種別</th> <th>施工箇所</th> </tr> <tr> <td>・</td> <td></td> </tr> </table> <p>・脱気装置 種類、設置数量 (※改質アスファルトシート製造所の仕様による ○図示による)</p> <p>・ASIにおける防湿層</p> <p>材料、施工 (3.4.2) (表3.4.1～表3.4.3) 改質アスファルトシート、粘着層付改質アスファルトシート、部分粘着層付アスファルトシートはJIS A6013により種類及び厚さは以下による。</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>厚さ(mm)</th> <th>区分</th> <th>施工部位</th> </tr> <tr> <td>・非露出複層防水用(下層)</td> <td>以上</td> <td>※R種 ・N種</td> <td>・平部 ・立上り</td> </tr> <tr> <td>・露出複層防水用(上層)</td> <td>以上</td> <td>※R種 ・N種</td> <td>・平部 ・立上り</td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <td>・押え金物</td> <td colspan="3">※アルミニウム製 L-30×15×2.0程度 ○図示による</td> </tr> <tr> <td>・断熱材</td> <td>種類</td> <td>JIS A9521 (発砲プラスチック断熱材)</td> <td>・硬質ウレタンフォーム断熱材2種1号又は2号 (透湿係数の規定は除く)</td> </tr> <tr> <td>・仕上塗料</td> <td>種類</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td></td> <td>使用量</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> </table>	既存防水工法による区分	既存保護層及び防水層の撤去、非撤去による区分	新規防水工法の種別に	<ul style="list-style-type: none"> ・P (保護アス・改質ア) ・M (露出アス・改質ア) ○S (シート) ・L (ウレタン) ・() 	<ul style="list-style-type: none"> ・1 (保護及び防水撤去) ・2 (保護撤去、防水非撤去) ○B (露出防水撤去) ・4 (露出防水非撤去) ・0 (保護及び防水非撤去) ・() 	<ul style="list-style-type: none"> ○AS (改質アス) ・ASI (改質絶縁断熱) ・S (シート) ・SI (シート断熱) ・X (ウレタン) ・() 	種別	施工箇所	○無釜型アスファルト防水熱工法 D-1仕様同等以上	屋根全般	○改質アスファルトルーフィングシート	種類 ※非露出複層防水用R種	厚さ ※1.5mm	・押え金物	※アルミニウム製 L-30×15×2.0程度 ○図示による		・断熱材	工法	材料	・保護防水断熱工法	JIS A9521	押出法ポリスチレンフォーム断熱材3種bA	・露出防水断熱工法	JIS A9521 (発砲プラスチック断熱材)	・硬質ウレタンフォーム断熱材2種1号又は2号 (透湿係数の規定は除く)	・絶縁用シート	※ 3.3.2.(10)による	・保護コンクリート	設計基準強度 (※18N/mm ²) スランプ (・15cm ・18cm) 仕上・厚さ (・こて仕上 80mm以上 ・仕上あり 60mm以上)	・保護れんが	※普通れんが (JIS R 1250)	・屋上排水溝	※図示による	○土上塗料	種類 ○水性アクリル樹脂系塗料 使用量 ○アスファルトルーフィング類製造所の仕様による	種別	施工箇所	・		種類	厚さ(mm)	区分	施工部位	・非露出複層防水用(下層)	以上	※R種 ・N種	・平部 ・立上り	・露出複層防水用(上層)	以上	※R種 ・N種	・平部 ・立上り	・押え金物	※アルミニウム製 L-30×15×2.0程度 ○図示による			・断熱材	種類	JIS A9521 (発砲プラスチック断熱材)	・硬質ウレタンフォーム断熱材2種1号又は2号 (透湿係数の規定は除く)	・仕上塗料	種類	・	・		使用量	・	・
既存防水工法による区分	既存保護層及び防水層の撤去、非撤去による区分	新規防水工法の種別に																																																																		
<ul style="list-style-type: none"> ・P (保護アス・改質ア) ・M (露出アス・改質ア) ○S (シート) ・L (ウレタン) ・() 	<ul style="list-style-type: none"> ・1 (保護及び防水撤去) ・2 (保護撤去、防水非撤去) ○B (露出防水撤去) ・4 (露出防水非撤去) ・0 (保護及び防水非撤去) ・() 	<ul style="list-style-type: none"> ○AS (改質アス) ・ASI (改質絶縁断熱) ・S (シート) ・SI (シート断熱) ・X (ウレタン) ・() 																																																																		
種別	施工箇所																																																																			
○無釜型アスファルト防水熱工法 D-1仕様同等以上	屋根全般																																																																			
○改質アスファルトルーフィングシート	種類 ※非露出複層防水用R種	厚さ ※1.5mm																																																																		
・押え金物	※アルミニウム製 L-30×15×2.0程度 ○図示による																																																																			
・断熱材	工法	材料																																																																		
・保護防水断熱工法	JIS A9521	押出法ポリスチレンフォーム断熱材3種bA																																																																		
・露出防水断熱工法	JIS A9521 (発砲プラスチック断熱材)	・硬質ウレタンフォーム断熱材2種1号又は2号 (透湿係数の規定は除く)																																																																		
・絶縁用シート	※ 3.3.2.(10)による																																																																			
・保護コンクリート	設計基準強度 (※18N/mm ²) スランプ (・15cm ・18cm) 仕上・厚さ (・こて仕上 80mm以上 ・仕上あり 60mm以上)																																																																			
・保護れんが	※普通れんが (JIS R 1250)																																																																			
・屋上排水溝	※図示による																																																																			
○土上塗料	種類 ○水性アクリル樹脂系塗料 使用量 ○アスファルトルーフィング類製造所の仕様による																																																																			
種別	施工箇所																																																																			
・																																																																				
種類	厚さ(mm)	区分	施工部位																																																																	
・非露出複層防水用(下層)	以上	※R種 ・N種	・平部 ・立上り																																																																	
・露出複層防水用(上層)	以上	※R種 ・N種	・平部 ・立上り																																																																	
・押え金物	※アルミニウム製 L-30×15×2.0程度 ○図示による																																																																			
・断熱材	種類	JIS A9521 (発砲プラスチック断熱材)	・硬質ウレタンフォーム断熱材2種1号又は2号 (透湿係数の規定は除く)																																																																	
・仕上塗料	種類	・	・																																																																	
	使用量	・	・																																																																	
04 改質アスファルトシート防水																																																																				

05 合成高分子系ルーフィングシート防水	<p>新規防水層の種類、施工箇所 (3.5.3) (表3.5.1～3)</p> <table border="1"> <tr> <th>種別</th> <th>施工箇所</th> </tr> <tr> <td>・</td> <td></td> </tr> </table> <p>・脱気装置 種類、設置数量 (※ルーフィングシート製造所の仕様による ○図示による)</p> <p>材料、施工 (3.5.2) (3.5.4) 合成高分子系ルーフィングシートはJIS A6008により種類及び厚さは以下による</p> <table border="1"> <tr> <th>ルーフィングシート種類</th> <th>厚さ(mm)</th> </tr> <tr> <td>・加硫ゴム系</td> <td>・1.2 ・1.5</td> </tr> <tr> <td>・塩化ビニル樹脂系</td> <td>・1.5 ・2.0</td> </tr> <tr> <td>・エチレン酢酸ビニル樹脂系</td> <td>・1.0</td> </tr> <tr> <td>・熱可塑性エラストマー系</td> <td>・1.2</td> </tr> </table> <p>・絶縁用シート (可塑剤移行防止用シート) ※発泡ポリエチレンシート 厚さ(・1.5mm)</p> <p>・固定金物 ※図示による</p> <p>・断熱材</p> <table border="1"> <tr> <th>工法</th> <th>材料</th> <th>厚さ(mm)</th> </tr> <tr> <td>・機械的固定</td> <td>JIS A9521 (発砲プラスチック断熱材)</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・接着工法</td> <td>JIS A9521 (発砲プラスチック断熱材)</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・仕上げ塗料</td> <td>種類</td> <td>使用量</td> </tr> </table> <p>PCコンクリート下地及びALCパネル下地の場合の目地処理、入隅の増張りは図示による</p> <p>・建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法とする</p> <p>新規防水層の種類、施工箇所 (3.6.3) (表3.6.1～3)</p> <table border="1"> <tr> <th>種別</th> <th>施工箇所</th> </tr> <tr> <td>・</td> <td></td> </tr> </table> <p>・脱気装置の種類、設置数量： (○図示による ※主材料製造所の仕様による)</p> <table border="1"> <tr> <td>・仕上げ塗料</td> <td>種類</td> <td>使用量</td> <td>※主材料製造所の仕様による</td> </tr> </table> <p>・種別 Y-2の保護層：絶縁用シートの材料 () 保護コン又は保護モルタル (※図示による) (MOCA (3,3'-ジクロロ-4,4'-ジアミノジフェニルメタン) が含まれているウレタン塗膜防水材料を使用する場合、特定化学物質障害害予防規則に基づく措置を適切に講じること。)</p> <p>新規防水層の種類、施工箇所 (標9.6.1) (標9.6.3) (標表9.6.1)</p> <table border="1"> <tr> <th>種別等</th> <th>施工箇所</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>・C-SUI</td> <td>※図示</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・C-SUP</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>壁、天井の防水下地 (※コンクリート打放し仕上げB種) コンクリートの打継箇所の処理 (※幅、深さ30mm程度の目地溝を用い、ポリマセメント mortar 充填)</p> <p>工事完了後、監督員の指示する場所に取りつける。 施工票の形状等：真鍮板、黒字、リチ焼付塗り(85mm×125mm) 施工票の記入項目：タイトル、施工年月日、種別、施工業者</p> <p>保証開始日【 ・当該工事のしゅん功日の翌日 ・ 】 保証期間 (※10年間)</p> <p>改修工法の種類 (3.1.4) (表3.1.2)</p> <table border="1"> <tr> <th>種別</th> <th>施工箇所</th> </tr> <tr> <td>・シーリング充填工法</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○シーリング再充填工法</td> <td>建具、外壁</td> </tr> <tr> <td>・拉幅シーリング再充填工法</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ブリッジ工法</td> <td></td> </tr> </table> <p>シーリング材はJIS A5758より、有効期限を過ぎたものは使用しない</p>	種別	施工箇所	・		ルーフィングシート種類	厚さ(mm)	・加硫ゴム系	・1.2 ・1.5	・塩化ビニル樹脂系	・1.5 ・2.0	・エチレン酢酸ビニル樹脂系	・1.0	・熱可塑性エラストマー系	・1.2	工法	材料	厚さ(mm)	・機械的固定	JIS A9521 (発砲プラスチック断熱材)	・	・接着工法	JIS A9521 (発砲プラスチック断熱材)	・	・仕上げ塗料	種類	使用量	種別	施工箇所	・		・仕上げ塗料	種類	使用量	※主材料製造所の仕様による	種別等	施工箇所	備考	・C-SUI	※図示		・C-SUP			種別	施工箇所	・シーリング充填工法		○シーリング再充填工法	建具、外壁	・拉幅シーリング再充填工法		・ブリッジ工法	
種別	施工箇所																																																					
・																																																						
ルーフィングシート種類	厚さ(mm)																																																					
・加硫ゴム系	・1.2 ・1.5																																																					
・塩化ビニル樹脂系	・1.5 ・2.0																																																					
・エチレン酢酸ビニル樹脂系	・1.0																																																					
・熱可塑性エラストマー系	・1.2																																																					
工法	材料	厚さ(mm)																																																				
・機械的固定	JIS A9521 (発砲プラスチック断熱材)	・																																																				
・接着工法	JIS A9521 (発砲プラスチック断熱材)	・																																																				
・仕上げ塗料	種類	使用量																																																				
種別	施工箇所																																																					
・																																																						
・仕上げ塗料	種類	使用量	※主材料製造所の仕様による																																																			
種別等	施工箇所	備考																																																				
・C-SUI	※図示																																																					
・C-SUP																																																						
種別	施工箇所																																																					
・シーリング充填工法																																																						
○シーリング再充填工法	建具、外壁																																																					
・拉幅シーリング再充填工法																																																						
・ブリッジ工法																																																						
06 塗膜防水																																																						
07 ケイ酸質系塗布防水																																																						
⑯ 施工票																																																						
⑰ 防水保証																																																						
⑱ シーリング																																																						

02 軽量鉄骨天井下地	<p>材料、目地寸法 (3.7.2) (3.7.3) (表3.7.1)</p> <table border="1"> <tr> <th>シーリングの種類</th> <th>目地寸法(mm)</th> <th>施工箇所</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">シリコーン系</td> <td>1成分形</td> <td>5×5 ガラス</td> </tr> <tr> <td>2成分形</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">変成シリコーン系</td> <td>1成分形</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2成分形</td> <td>10×15、10×10 建具、水切り</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">ポリサルファイド系</td> <td>1成分形</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2成分形</td> <td>10×15 コツクリ打ち継ぎ目地</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">ポリウレタン系</td> <td>1成分形</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2成分形</td> <td></td> </tr> <tr> <td>アクリルウレタン系</td> <td>2成分形</td> <td></td> </tr> </table> <p>上記以外のものは表9.7.1による。</p> <p>外部に面するシーリング材の接着試験 (3.7.8) 簡易接着性試験 (※行う ○行わない) (適用箇所：) 引張接着性試験 (・行う ※行わない) (適用箇所：) 注：同材の組合せで実施した試験成績表がある場合は行わない</p>	シーリングの種類	目地寸法(mm)	施工箇所	シリコーン系	1成分形	5×5 ガラス	2成分形		変成シリコーン系	1成分形		2成分形	10×15、10×10 建具、水切り	ポリサルファイド系	1成分形		2成分形	10×15 コツクリ打ち継ぎ目地	ポリウレタン系	1成分形		2成分形		アクリルウレタン系	2成分形										
シーリングの種類	目地寸法(mm)	施工箇所																																		
シリコーン系	1成分形	5×5 ガラス																																		
	2成分形																																			
変成シリコーン系	1成分形																																			
	2成分形	10×15、10×10 建具、水切り																																		
ポリサルファイド系	1成分形																																			
	2成分形	10×15 コツクリ打ち継ぎ目地																																		
ポリウレタン系	1成分形																																			
	2成分形																																			
アクリルウレタン系	2成分形																																			
03 軽量鉄骨壁下地	<p>9章 金属工事</p> <p>⑩ あと施工アンカー</p> <p>あと施工アンカーの種類 (8.2.4)</p> <table border="1"> <tr> <td rowspan="2">○金属拡張アンカー</td> <td>※打込み方式</td> <td>・芯棒打ち打込式 ・内部コーン打込式 ※本体打込式 ○スリーブ打込式</td> </tr> <tr> <td>・縮付け方式</td> <td>・コーンナット式 ・テーパーボルト式 ・ダブルコーン式 ・ウェッジ式</td> </tr> <tr> <td>・接着系アンカー</td> <td>※カプセル型</td> <td>・ポリエステル系 ・エポキシアクリレート系 ・エポキシ系 ・ビニルウレタン系 ・無機系 ()</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・注入型</td> <td>・カートリッジ ・現場調合</td> </tr> </table> <p>あと施工アンカーの耐力(※以下による ○図示による) (8.2.4)</p> <table border="1"> <tr> <th>アンカー径</th> <th>埋込長さ (mm以上)</th> <th>引張耐力 (kN以上)</th> <th>せん断耐力 (kN以上)</th> <th>確認強度 (kN以上)</th> </tr> <tr> <td>以上</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>以上</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>適用箇所は図示による</p> <p>○製品取付用あと施工アンカー (※製造所の仕様による)</p> <p>埋込み配管等の探索 範囲、方法(・ ※図示による) (8.12.2) 施工後の確認試験(※行う ・行わない) (標14.1.3) 方法(※引張試験機による試験)</p> <p>野縁等の種類 屋内(※19形) 屋外(※25形) (標14.4.2) (標表14.4.1) 屋外の野縁、野縁受、つりボルト及びビインサートの間隔 (※図示による) (標14.4.3)</p> <table border="1"> <tr> <th>新規天井下地のつりボルト受け (6.6.4)</th> <th>確認試験の箇所数</th> <th>確認強度</th> </tr> <tr> <td>・既存の埋込みインサート</td> <td>※当該階において3箇所</td> <td>※400N程度</td> </tr> <tr> <td>・あと施工アンカー</td> <td>※当該階において3箇所</td> <td>※400N程度</td> </tr> </table> <p>・つりボルトの間隔が 900mmを超える場合 補強方法(○図示による) (標14.4.4)</p> <p>・天井ふところが 3.0mを超える場合 補強方法(○図示による) (標14.4.4)</p> <p>・耐震性を考慮した補強 補強方法(○図示による) (標14.4.4)</p> <p>・耐風圧性を考慮した補強 補強方法(・図示による) (標14.4.4)</p> <p>スタッド、ランナーの種類 (標14.5.3) (標表14.5.1) (※高さの区分による)</p> <p>・スタッドの高さが 5.0mを超える場合 種類() (標表14.5.1)</p> <p>・出入口・開口部の補強 (※14.5.4による) (標14.5.4)</p>	○金属拡張アンカー	※打込み方式	・芯棒打ち打込式 ・内部コーン打込式 ※本体打込式 ○スリーブ打込式	・縮付け方式	・コーンナット式 ・テーパーボルト式 ・ダブルコーン式 ・ウェッジ式	・接着系アンカー	※カプセル型	・ポリエステル系 ・エポキシアクリレート系 ・エポキシ系 ・ビニルウレタン系 ・無機系 ()		・注入型	・カートリッジ ・現場調合	アンカー径	埋込長さ (mm以上)	引張耐力 (kN以上)	せん断耐力 (kN以上)	確認強度 (kN以上)	以上					以上					新規天井下地のつりボルト受け (6.6.4)	確認試験の箇所数	確認強度	・既存の埋込みインサート	※当該階において3箇所	※400N程度	・あと施工アンカー	※当該階において3箇所	※400N程度
○金属拡張アンカー	※打込み方式		・芯棒打ち打込式 ・内部コーン打込式 ※本体打込式 ○スリーブ打込式																																	
	・縮付け方式	・コーンナット式 ・テーパーボルト式 ・ダブルコーン式 ・ウェッジ式																																		
・接着系アンカー	※カプセル型	・ポリエステル系 ・エポキシアクリレート系 ・エポキシ系 ・ビニルウレタン系 ・無機系 ()																																		
	・注入型	・カートリッジ ・現場調合																																		
アンカー径	埋込長さ (mm以上)	引張耐力 (kN以上)	せん断耐力 (kN以上)	確認強度 (kN以上)																																
以上																																				
以上																																				
新規天井下地のつりボルト受け (6.6.4)	確認試験の箇所数	確認強度																																		
・既存の埋込みインサート	※当該階において3箇所	※400N程度																																		
・あと施工アンカー	※当該階において3箇所	※400N程度																																		

04 金属成形板張り(天井)	<p>(標14.6.2)</p> <table border="1"> <tr> <th></th> <th>材料の種類</th> <th>表面処理等</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>・金属成形板</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>塗装等は図示</td> </tr> </table> <p>取付用下地(※軽量鉄骨天井下地による) 伸縮調整継手(・設ける ・設けない)</p> <p>部材の種類 (3.9.2) (表3.9.1)</p> <table border="1"> <tr> <td>○オープン形式</td> <td>○押出し250形</td> <td>○押出し300形</td> <td>・押出し350形</td> </tr> <tr> <td>・板材折曲げ形</td> <td>幅(○225 ・250)</td> <td>板厚(※2.0mm)</td> <td></td> </tr> </table> <p>表面処理(・AB-1種 ※BB-1種) (表5.2.2)</p> <p>避雷導体(・あり ○なし (板厚 mm以上))</p> <p>・建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した固定金具、固定方法等とする</p> <p>既存笠木等の撤去及び新規アルミニウム製笠木の地下補修工法 (※図示による) (3.9.3)</p> <p>材料及び葺形式 (標13.2.1～3) (標表13.2.1)</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>塗膜</th> <th>めっき付着量</th> <th>厚さ(mm)</th> <th>屋根葺形式</th> </tr> <tr> <td>※JIS G3322 カラーアルミニウム鋼板</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>・横葺 ・及び鋼帯 ・瓦葺 ・平葺</td> </tr> </table> <p>下葺材料 ・JIS A6005アスファルトルーフィング 940 ・改質アスファルトルーフィング 下葺材</p> <p>・建築基準法に定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法とする 設計図書に定めのない工法は専門業者の仕様による。</p> <p>折板は JIS A6514による (標13.3.2) (標13.3.3) (標表13.2.1)</p> <table border="1"> <tr> <th>長尺金属板</th> <th>板厚(mm)</th> <th>山高記号</th> <th>山ピッチ記号</th> <th>形式</th> </tr> <tr> <td>・JIS G3318 塗装溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板</td> <td>・0.6</td> <td>・09 ・11</td> <td>・20 ・25</td> <td>・重ね形 ・はせ縞形</td> </tr> <tr> <td>・JIS G3322 カラーアルミニウム鋼板</td> <td>・0.8</td> <td>・15 ・17</td> <td>・35 ・40 ・45 ・50</td> <td></td> </tr> </table> <p>耐力区分(・2種(200kgf/m²) ・3種(300kgf/m²))</p> <p>・軒先面戸板</p> <p>・断熱材張り 種別() 厚さ(mm) 防火性能()</p> <p>・建築基準法に定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法とする 設計図書に定めのない工法は折板製造所の仕様による。 雪止め (・設ける ・設けない) (標13.2.3)</p> <p>(標14.2.1) (標14.2.2) (標表14.2.1) (標14.2.3) (標表14.2.2)</p> <table border="1"> <tr> <th></th> <th>材料の種類</th> <th>表面処理等</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>・手すり</td> <td></td> <td></td> <td>塗装等は図示</td> </tr> <tr> <td>・タラップ</td> <td>・亜鉛めっき</td> <td>※C種</td> <td>塗装等は図示</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・SUS304</td> <td>※仕上なし</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・フード</td> <td>・SUS304</td> <td>※N o2B仕上げ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○防水水切り・押え</td> <td>・アルミ</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>○特殊パシパシジョイント</td> <td>・アルミ</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> </table> <p>記載のない事項は、図示によるほか、製造所の仕様による。 ステン材の表面処理 (※HL仕上げ程度とする) アルミニウムの表面処理の陽極酸化被膜(被膜 2種)の着色方法 (※2次電解着色(色合いは監督員と協議による))</p> <p>材種 ※配管用炭素鋼鋼管(白) (JIS G3452) (3.8.2) 工法 降雨に対する養生 ・行う ・行わない (3.8.3) 防露巻き ・行う ・行わない (表3.8.4) たてどい受金物の取付け (※図示による) ルーフィングの取付け (※図示による) 防露材のホルムアルデヒド放散量等は1章 一般事項 揮発性有機化合物対策による。</p>		材料の種類	表面処理等	その他	・金属成形板	・	・	塗装等は図示	○オープン形式	○押出し250形	○押出し300形	・押出し350形	・板材折曲げ形	幅(○225 ・250)	板厚(※2.0mm)		種類	塗膜	めっき付着量	厚さ(mm)	屋根葺形式	※JIS G3322 カラーアルミニウム鋼板				・横葺 ・及び鋼帯 ・瓦葺 ・平葺	長尺金属板	板厚(mm)	山高記号	山ピッチ記号	形式	・JIS G3318 塗装溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板	・0.6	・09 ・11	・20 ・25	・重ね形 ・はせ縞形	・JIS G3322 カラーアルミニウム鋼板	・0.8	・15 ・17	・35 ・40 ・45 ・50			材料の種類	表面処理等	その他	・手すり			塗装等は図示	・タラップ	・亜鉛めっき	※C種	塗装等は図示		・SUS304	※仕上なし		・フード	・SUS304	※N o2B仕上げ		○防水水切り・押え	・アルミ	・	・	○特殊パシパシジョイント	・アルミ	・	・	・	・	・	・
	材料の種類	表面処理等	その他																																																																							
・金属成形板	・	・	塗装等は図示																																																																							
○オープン形式	○押出し250形	○押出し300形	・押出し350形																																																																							
・板材折曲げ形	幅(○225 ・250)	板厚(※2.0mm)																																																																								
種類	塗膜	めっき付着量	厚さ(mm)	屋根葺形式																																																																						
※JIS G3322 カラーアルミニウム鋼板				・横葺 ・及び鋼帯 ・瓦葺 ・平葺																																																																						
長尺金属板	板厚(mm)	山高記号	山ピッチ記号	形式																																																																						
・JIS G3318 塗装溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板	・0.6	・09 ・11	・20 ・25	・重ね形 ・はせ縞形																																																																						
・JIS G3322 カラーアルミニウム鋼板	・0.8	・15 ・17	・35 ・40 ・45 ・50																																																																							
	材料の種類	表面処理等	その他																																																																							
・手すり			塗装等は図示																																																																							
・タラップ	・亜鉛めっき	※C種	塗装等は図示																																																																							
	・SUS304	※仕上なし																																																																								
・フード	・SUS304	※N o2B仕上げ																																																																								
○防水水切り・押え	・アルミ	・	・																																																																							
○特殊パシパシジョイント	・アルミ	・	・																																																																							
・	・	・	・																																																																							
06 長尺金属板葺																																																																										
07 折板葺																																																																										
⑳ その他金属製品																																																																										
09 とい																																																																										

10章 左官工事

⑪ モルタル塗り

仕上げの種類 (標15.3.5)(標表15.3.4)(標表15.6.3)	
○金ゴテ仕上げ	施工箇所：ポーチ
・木ゴテ仕上げ	施工箇所：
・はけ引き仕上げ	施工箇所：

○材料 (○現場調合材料 ・既調合材料) (標15.3.2)

・既製目地材 形状、位置は図示による。(標15.3.2)

○床目地の設置 (標15.3.5)

工法 (※押し目地 ・) (標15.3.5)

位置 (※2㎡程度(最大目地間隔3m程度) ・) (標15.3.5)

・外装タイル張り下地等の下地モルタルの接着力試験 (・行う ・行わない) (標15.3.5)

⑫ 防水モルタル塗り

03 床コンクリート直均し仕上げ

仕上げの種類 (標15.4.1)	
・金ゴテ仕上げ	施工箇所：
・粗面仕上げ	施工箇所：
・塗物、敷物、張物等の下地	施工箇所：

04 セルフレベリング材塗り

種類 (標15.5.2)(標表15.5.1)(標15.5.3)		
	塗り厚さ	施工箇所
・せっこう系	※10.0mm	
・セメント系	※10.0mm	

⑮ 仕上塗材仕上げ

06 ロックウール吹付け

吹付け材の種類 (標15.12.3)		
種 類	色 彩	厚 さ (mm)
・一般用	・着色 ・原色	・10 ・15 ・20

ロックウール及び接着剤のホルムアルデヒド放散量は1章 一般事項 揮発性有機化合物対策による (標15.12.2)

11章 外壁改修工事

① 外壁改修工法の種類

○コンクリート打放し仕上げ外壁 (4.1.4)	
○ひび割れ部改修工法	○樹脂注入工法 ○Uカットシール材充填工法 ○シール工法
○欠損部改修工法	○充填工法 ・

・モルタル塗り仕上げ外壁

・ひび割れ部改修工法	・樹脂注入工法 ・Uカットシール材充填工法 ・シール工法
・欠損部改修工法	・充填工法 ・モルタル塗替え工法
・浮き部改修工法	・アンカーピンニング工法(注入口付アンカーピンニング工法) ・充填工法 ・モルタル塗替え工法

・タイル張り仕上げ外壁

・ひび割れ部改修工法	※樹脂注入工法
・欠損部改修工法	・タイル部分張替え工法 ・タイル張替え工法
・浮き部改修工法	・アンカーピンニング工法(注入口付アンカーピンニング工法) ・タイル部分張替え工法 ・タイル張替え工法
・目地改修工法	・目地ひび割れ部改修工法 ・伸縮調整目地改修工法

⑫ 工法別使用材料

○樹脂注入工法 (4.2.4)(4.2.5)(4.3.5)(4.3.6)(4.4.5)(4.4.6)

材料	エポキシ樹脂(JIS A6024)		
工法		注入間隔	注入量
	※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	※200～300mm	・
	・手動式エポキシ樹脂注入工法	・	・
	・機械式エポキシ樹脂注入工法	・	・

確認

- ・コア抜き取りによるひび割れ部の注入状況の確認
- ・その他の方法 ()
- 抜き取り箇所数 (箇所)
- 抜き取り部分の補修方法(・監督員との協議による。)

・Uカットシール充填工法 (4.2.4)(4.2.6)(4.3.5)(4.3.7)

材料	・シリング(・1成分形ポリウレタン系 ・2成分形ポリウレタン系)
	○可とう性エポキシ樹脂 ・ポリマーセメントモルタル
工法	シリング材の試験 ※同材の組合せで実施した試験成績表がある場合は行わない ・試験を行う (※簡易接着性試験 ・引張接着性試験) 試験の適用箇所()

○シール工法 (4.2.4)(4.2.6)(4.3.5)(4.3.7)

材料	○バテ状エポキシ樹脂 ・可とう性エポキシ樹脂
----	------------------------

○充填工法 (4.2.4)(4.2.8)(4.3.5)(4.3.9)

材料	○エポキシ樹脂モルタル ○ポリマーセメントモルタル
----	---------------------------

※モルタル塗り仕上げ外壁の場合はポリマーセメント(4.3.7(3))による

・モルタル塗り替え工法 (4.3.5)(4.3.10)

材料	・現場調合材料 ・既調合材料 (・)
	・既製目地材 形状(※図示による ・)
工法	モルタル塗厚が 25mmを超える場合の処理(・)

・アンカーピンニング工法(4.3.5)(4.3.11～16)(4.4.5)(4.4.9～15)

材料	アンカーピン 材質(※SUS304 4mmφ丸棒全ネジ切り加工) 長さ(・50 ・70 ・100)
	注入口付アンカーピン 材質(※SUS304 6mmφ) 長さ(・)
	ポリマーセメントスラリー(※実績等の資料を提出する)

工法	アンカーピン		注入口箇所数 (箇所/㎡)		充填量 注入量 (m ³)
	一般部	指定部	一般部	指定部	
・部分エポキシ樹脂注入	※ 16	※ 25	/	/	※ 25
・全面エポキシ樹脂注入	※ 13	※ 20	※ 12	※ 20	※ 25
・全面ポリマーセメントスラリー注入	※ 13	※ 20	※ 12	※ 20	※ 50
・注入口付部分エポキシ樹脂注入	※ 9	※ 16	/	/	※ 25
・注入口付全面エポキシ樹脂注入	※ 9	※ 16	※ 9	※ 16	※ 25
・注入口付全面ポリマーセメントスラリー注入	※ 9	※ 16	※ 9	※ 16	※ 50
・注入口付エポキシ樹脂注入	・	・	・	・	※ 25

・タイル部分張替え工法 ・タイル張替え工法 (4.4.5)(4.4.7)(4.4.8)(表4.4.4)

適用 (・0.25㎡超え ・下地モルタル無)

張付材料の種類

・ポリマーセメントモルタル

・JIS A 5557による一液反応硬化型変性シリコン樹脂系又はケレン樹脂系

タイルの品質はJIS A5209によるほか、次による

形状寸法 (mm)	吸水率	釉薬	役物	耐凍害性	耐滑り性	色
	・Ⅰ類 ・Ⅱ類 ・Ⅲ類	・施 ・無	・有 ・無	・有 ・無	・0.4 ・	・標準 ・特注

参考 吸水率による区分は、Ⅰ類は旧規格の磁器質、Ⅱ類はせっ器質、Ⅲ類は陶器質にほぼ該当する。

試験張り (・行う ・行わない) (4.4.8)

見本焼き (・行う ・行わない)

04 マスチック塗材塗り

・壁タイル張りの工法 (標表11.2.3)(標表11.3.2)(標表4.4.5)(標表4.4.6)

・内外装タイル	・密着張り ・改良圧着張り ・接着剤張り
・内装タイル以外のユニットタイル	・マスク張り ・モザイクタイル張り ・接着剤張り

・下地モルタルの接着力試験

有機系接着剤による陶磁器質タイル張りにおける目地のシリング材打継ぎ目地、ひび割れ誘発目地(※ポリウレタン系 ・) 伸縮調整目地、その他の目地(※変性シリコン系 ・) ※目地の位置は図示による

・目地改修工法 (4.4.16)

伸縮調整目地	位置(※図示による) 寸法(・)
--------	------------------------

既存塗膜等の除去、下地処理及び下地調整 (4.5.4)(4.5.5)

工法	・サンダー工法 ・高圧水洗工法 ○塗膜はく離剤工法 ・水洗い工法
処理範囲	※既存仕上全面体 ・図示による
下地調整塗材の種類	※セメント系下地調整材 ・ポリマーセメントモルタル

仕上塗材はJIS A6909により種類等は以下による (4.5.2)(表4.5.1)(表4.5.2)

種別	種類(呼び名)	仕上げの形状	工法
複層仕上塗材	・複層塗材 (・E ・RE ・CE) ○防水形複層塗材 (・E ・RE ・CE)	○ゆず肌 ・凸部処理 ・凹凸状	・吹付 ○ローラー塗り
・	・	・	・

複層仕上塗材の上塗材の耐候性、種類 (4.5.2)

耐候性	・耐候形3種 ・耐候形2種 ○耐候形1種
樹脂	・アクリル系 ・シリカ系 ・ポリウレタン系 ・アクリルシリコン系 ○フッ素系
外観	○つやあり ・つやなし ・メタリック
溶媒	・溶剤系 ・弱溶剤系 ※水系
機能性	○透湿性 ○防藻性 ○防かび性

防火材料の指定(※あり ・なし ・図示による)

仕上塗材のホルムアルデヒド放散量は1章 一般事項 揮発性有機化合物対策による (4.5.2)

・外壁用塗膜防水材はJIS A 6021による外壁用アクリル系とし、種類等は以下による (表4.7.1)(4.7.2)(4.7.3)

仕上げの形状 (・凹凸状 ・凸部処理 ・ゆず肌状 ・さざ波状) 仕上げ塗料の耐候性 (・)

下地挙動緩衝材 (・あり ・なし)

・マスチック塗材塗り (4.6.2)

使用部位	塗り種別	下地調整種別
コンクリート、押出成型セメント板、モルタル、ALC [®] 前面	・A種 ・B種	・RA種 ※RB種 ・RC種

押出成型セメント板面の下地調整はRB種とする

04 マスチック塗材塗り

12章 建具改修工事

① 改修方法

工法 (・かぶせ工法 ・撤去工法) (5.1.3)

新規建具の開け方及び建具周囲の補修工法並びにその範囲は図示による。

建具周囲のシーリング材は「8章 防水改修工事」による。

02 防火戸

適用箇所 ※図示による (5.1.4)

ヒューズ装置、熱感知器等との連動 ※図示による

03 建具見本の製作等ほか

見本製作(・行う ※行わない) (5.1.5)

仮組 (・行う ※行わない)

防犯建物部品の適用(・あり(図示) ・なし) (5.1.7)

04 防音、断熱、耐震性能

防音、断熱、耐震性能 (5.2.2)(5.3.2)(5.4.2)(5.5.2)

・防音ドアセット、サッシ	遮音性の等級 T-
・断熱ドアセット、サッシ	断熱性の等級 H-
・耐震ドアセット、サッシ	耐震性の等級 D-

適用箇所は図示による

05 アルミニウム製建具

アルミニウム製建具の性能 (5.2.2)

	耐風圧性	気密性	水密性
・外部	・A種 ※S-4	※A-3	※W-4
	・B種 ※S-5	※A-3	※W-4
	・C種 ※S-6	※A-4	※W-5
・	・	・	・
・屋内	・	・	・

表面処理 (表 5.2.2) による (5.2.4)

・常温乾燥形の塗装 (5.2.4)

表面色 (※標準色 ・特注色)

建具の枠の見込み寸法(※70mm ・図示による) (5.2.2)

ステン鋼板の種類 (5.2.3)(5.6.3)

(※SUS304、SUS430J1L又はSUS443J1 ・)

ステン製くつずりの仕上げ (5.2.4)(5.4.4)

(※HL ・)

結露水の処理 (※図示による ・) (5.2.4)

水切り板、ぜん板等の適用、材料等は図示による。 (5.2.5)

06 樹脂性建具

樹脂製建具の性能 (5.3.2)

	耐風圧性	気密性	水密性
・外部	・A種 ※S-4	※A-4	※W-4
	・B種 ※S-5	※A-4	※W-5
	・C種 ※S-6	※A-4	※W-5
・	・	・	・
・屋内	・	・	・

使用ガラス (※複層ガラス ・) (5.3.3)

複層ガラスのスペーサー (・アルミ ・樹脂)

建具の枠の見込み寸法 (※図示による ・) (5.3.4)

ステン製くつずりの仕上げ (5.3.4)(5.4.4)

(※HL ・)

表面色(・標準色 ・特注色)

水切り板、ぜん板等の適用、材料等は図示による (5.3.5)

07 鋼製建具

鋼製建具の性能 (5.4.2)

	耐風圧性(注)	気密性	水密性
・簡易気密型	※指定なし	※A-3	※W-1
・指定性能	・	・	・

(注)外部に面する建具は S-4、S-5、S-6のいずれかとする

ステン鋼板の種類 (5.4.3)(5.6.3)

種類 (・SUS304 ・SUS430J1L ・SUS443J1)

鋼板の厚さ(※表5.4.2による ・図示による) (5.4.4)

ステン製くつずりの仕上げ (5.4.4)

(※HL ・)

08 鋼製軽量建具

鋼製軽量建具の性能 (5.5.2)

	耐風圧性	気密性	水密性
・簡易気密型	※指定なし	※A-3	※指定なし
・指定性能	・	・	・

鋼板(※亜鉛めつき鋼板 ・ヒール被膜鋼板 ・カラー鋼板) (5.5.3)

ステン鋼板の種類 (5.4.3)(5.6.3)

(※SUS304 ・SUS430J1L又はSUS443J1 ・)

ステン製くつずりの仕上げ (5.5.4)(5.4.4)

(※HL ・)

鋼製軽量建具の召合せ、縦小口包み板等の材質 (※鋼板 ・) (5.5.3)

鋼板の厚さ(※表5.5.1による ・図示による) (5.5.4)

09	ステンレス製 建具	ステンレス鋼板 (5.6.3)(5.6.4)(5.6.5) 種類 (※SUS304、SUS430J1L又はSUS443J1) 仕上(※HL) 曲げ加工(※普通曲げ ・角出し曲げ)												
10	網戸	・防虫網の材種 (※合成樹脂 ・ガラス繊維入り合成樹脂 ・ステンレス(SUS316)) 線径 (※0.25mm以上) 網目 (※16～18) (5.2.3) 適用箇所は図示による												
11	木製建具	建具材の加工、組立時の含水率 (※A種 ・B種) (5.7.2)(表5.7.1) 枠、くつずりの材料 (※図示による) (5.7.2) ・フラッシュ戸 表面材の合板 (5.7.2)(表 5.7.2)												
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>合板の種類</th> <th>表面材の品質等</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・普通合板</td> <td>接着の程度 ※水掛り箇所1類、その他2類以上 ・ 板面の品質 ※広葉樹1等 ・</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・MDF</td> <td>表裏面の状態による区分 () 曲げ強さ () 接着材による区分 () 難燃性による区分 ()</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	合板の種類	表面材の品質等	備 考	・普通合板	接着の程度 ※水掛り箇所1類、その他2類以上 ・ 板面の品質 ※広葉樹1等 ・		・MDF	表裏面の状態による区分 () 曲げ強さ () 接着材による区分 () 難燃性による区分 ()				
合板の種類	表面材の品質等	備 考												
・普通合板	接着の程度 ※水掛り箇所1類、その他2類以上 ・ 板面の品質 ※広葉樹1等 ・													
・MDF	表裏面の状態による区分 () 曲げ強さ () 接着材による区分 () 難燃性による区分 ()													
		表面板の厚さ (※表5.7.6による) (5.7.3) 引戸の定規縁 (・いんろう付き) (5.7.4) ・かまち戸 樹種 かまち (※図示による) (5.7.2) 鏡板 (※図示による) (5.7.2) 見込み寸法 (※36mm ・図示による) 合板、接着剤のホルムアルデヒド放散量等は1章 一般事項 揮発性有機化合物対策による。 (標16.7.2)												
12	建具用金物	金物の種類、材質(※表5.8.1による ・図示による) (5.8.2) 金物の取付位置等は図示による。 (5.8.3) 鍵の製作本数 (※監督員との協議による) (5.8.4) マスターキー (・製作する ・製作しない) (5.8.4) グランドマスターキー (・製作する ・製作しない) (5.8.4) ・樹脂製建具丁番(※表5.8.3による ・図示による) (5.8.2)												
13	自動ドア開閉 装置	(5.9.2)(表5.9.1)(表5.9.2) <table border="1"> <thead> <tr> <th>開閉方式</th> <th>種類</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・片引き</td> <td>・SSLD-1 ・SSLD-2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・引分け</td> <td>・DSDL-1 ・DSDL-2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・車椅子使用者 用便房出入口</td> <td>※表5.9.2による ・</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	開閉方式	種類	備考	・片引き	・SSLD-1 ・SSLD-2		・引分け	・DSDL-1 ・DSDL-2		・車椅子使用者 用便房出入口	※表5.9.2による ・	
開閉方式	種類	備考												
・片引き	・SSLD-1 ・SSLD-2													
・引分け	・DSDL-1 ・DSDL-2													
・車椅子使用者 用便房出入口	※表5.9.2による ・													
14	自閉式上吊り 引戸装置	検出装置の性能 (※表5.9.3による ・) (5.10.3) 引戸用検出装置の種類 (※図示による ・) (5.10.3) 防錆の適用 (・有 ・無) (5.10.3) 凍結防止措置の適用 () (5.10.3)												
15	重量シャッ ター	機能による種類は図示による (5.11.2) 耐風圧強度 (・) (5.11.2) 開閉方式 (※電動式(手動併用) ・手動式) (5.11.2) 安全装置 (※適用は図示による ・) (5.11.2) 管理用シャッターのシャッターケースの設置 (・設置する ・設置しない) (5.11.2) スラット及びシャッターケース用鋼板 (5.11.3) <table border="1"> <thead> <tr> <th>材 質</th> <th>めっき付着量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・JIS G3302(溶融亜鉛メッキ鋼板及び鋼帯)</td> <td>※Z12 ・F12 ・</td> </tr> <tr> <td>・JIS G3312(塗装溶融亜鉛メッキ鋼板及び鋼帯)</td> <td>※Z12 ・F12 ・</td> </tr> </tbody> </table>	材 質	めっき付着量	・JIS G3302(溶融亜鉛メッキ鋼板及び鋼帯)	※Z12 ・F12 ・	・JIS G3312(塗装溶融亜鉛メッキ鋼板及び鋼帯)	※Z12 ・F12 ・						
材 質	めっき付着量													
・JIS G3302(溶融亜鉛メッキ鋼板及び鋼帯)	※Z12 ・F12 ・													
・JIS G3312(塗装溶融亜鉛メッキ鋼板及び鋼帯)	※Z12 ・F12 ・													
		工事範囲 電源及び一次側配線は別途電気設備工事として、 操作スイッチ及び二次側配線は本工事に含む。												

16	軽量シャッ ター	スラット (5.12.3) <table border="1"> <thead> <tr> <th>材 質</th> <th>めっき付着量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・JIS G3312(塗装溶融亜鉛メッキ鋼板及び鋼帯)</td> <td>※Z06 ・F06</td> </tr> <tr> <td>・JIS G3322(塗装溶融55%70%亜鉛合金メッキ鋼板及び鋼帯)</td> <td>※AZ90</td> </tr> </tbody> </table>	材 質	めっき付着量	・JIS G3312(塗装溶融亜鉛メッキ鋼板及び鋼帯)	※Z06 ・F06	・JIS G3322(塗装溶融55%70%亜鉛合金メッキ鋼板及び鋼帯)	※AZ90				
材 質	めっき付着量											
・JIS G3312(塗装溶融亜鉛メッキ鋼板及び鋼帯)	※Z06 ・F06											
・JIS G3322(塗装溶融55%70%亜鉛合金メッキ鋼板及び鋼帯)	※AZ90											
17	オーバーヘッ ドドア	形状 (※インターロック形 ・オーバーラッピング形) (5.12.4) 開閉方式 (※電動式(手動併用) ・手動式) (5.12.2) 耐風圧強度 (・) (5.12.2) 工事範囲 電源及び一次側配線は別途電気設備工事として、 操作スイッチ及び二次側配線は本工事に含む。										
18	ガラス	セクション材料(※スチール ・アルミニウム ・ファイバーグラス) (5.13.2) 耐風圧性能区分(JIS A4715) (・50 ・75 ・100 ・125) 開閉方法(※バランス式 ・チェーン式 ・電動式) (5.13.2) 収納形式 (・スタンダード形 ・ローベット形 ・ハイフト形 ・パーチカル形) (5.13.3) ガイドレール (※溶融亜鉛めっき鋼板 ・ステンレス(SUS304)) (5.13.3) 工事範囲 電源及び一次側配線は別途電気設備工事として、 操作スイッチ及び二次側配線は本工事に含む。 適用は以下によるほか、ガラスの種類、厚さの組合せは図示による。 ・網入り板ガラス及び線入板ガラス 網又は線の形状 (・角網 ・菱網) 板の表面の状態 (・磨き ・型板) ・合わせガラス 特性による種類 (・Ⅰ類 ・Ⅱ-1類 ・Ⅱ-2類 ・Ⅲ類) ・強化ガラス 形状による種類 (・平面 ・曲面) 特性による種類 (・Ⅰ類 ・Ⅲ類) ・熱線吸収板ガラス 性能による種類 (・1種 ・2種) ・複層ガラス 断熱性による区分 (・T1 ・T2 ・T3 ・T4 ・T5 ・T6) 日射取得性及び日射遮蔽性による区分 (・G ・S) 乾燥気体の種類 (・空気 ・アルゴン ・クリプトン ・ネオン) ・熱線反射ガラス 日射熱遮蔽性及び耐久性による区分 (・1種 ・2種 ・3種) 耐久性による区分 (・A類 ・B類)										
19	ガラスの留め 材	種別 (5.14.2) <table border="1"> <thead> <tr> <th>建具の種類</th> <th>材 種</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アルミニウム製</td> <td>※シーリング材 ・カスケット(・グレイジングチャンネル ・グレイジングヒート)</td> </tr> <tr> <td>鋼製及びステンレス製</td> <td>※シーリング材</td> </tr> <tr> <td>木製</td> <td>・木製建具用パテ ※押縁</td> </tr> <tr> <td>樹脂製</td> <td>押縁及びグレイジングカスケット</td> </tr> </tbody> </table>	建具の種類	材 種	アルミニウム製	※シーリング材 ・カスケット(・グレイジングチャンネル ・グレイジングヒート)	鋼製及びステンレス製	※シーリング材	木製	・木製建具用パテ ※押縁	樹脂製	押縁及びグレイジングカスケット
建具の種類	材 種											
アルミニウム製	※シーリング材 ・カスケット(・グレイジングチャンネル ・グレイジングヒート)											
鋼製及びステンレス製	※シーリング材											
木製	・木製建具用パテ ※押縁											
樹脂製	押縁及びグレイジングカスケット											
20	ガラスブロッ ク積み	板ガラスをはめ込む溝の大きさ (面クリアランス、エッジクリアランス、掛り代) (※建具の製造所の仕様による) (5.14.2) 防火設備に使用するガラスの留め材は、建築基準法に基づき定められ、又は認定を受けた条件による。 また、外部に面する複層、合わせ、網入り及び線入りガラスには、グレイジングチャンネルを用いない。 (5.14.2) 表面形状、呼び寸法並びに厚さ (5.14.5) <table border="1"> <tbody> <tr> <td>・正方形</td> <td>・125×125 ・160×160 ・200×200 ・320×320</td> <td>・クリア</td> </tr> <tr> <td>・長方形</td> <td>・250×125 ・320×160</td> <td>・乳白</td> </tr> </tbody> </table>	・正方形	・125×125 ・160×160 ・200×200 ・320×320	・クリア	・長方形	・250×125 ・320×160	・乳白				
・正方形	・125×125 ・160×160 ・200×200 ・320×320	・クリア										
・長方形	・250×125 ・320×160	・乳白										
		力骨(※SUS304 径5.5mmはしご形状複筋及び単筋 ・図示による) (5.14.5) 化粧目地モルタルの色 (・) (5.14.5) シーリング材の種類(※8章 シーリングによる ・) (5.14.5) ・壁用金属枠及び補強材 形状等は図示による ・金属製化粧カバー 材質、寸法、形状等は図示による ・建築基準法に基づき定まる風圧力に応じた工法とする (5.14.5) 目地幅の寸法、伸縮調整目地の位置(・図示による) (5.14.5) 目地部の力骨の補強方法(・図示による) (5.14.5) ※ガラスブロック製造所仕様による)										

13章 内装改修工事		
01	他の部位との 取り合い等	(a)既存間仕切り壁の撤去に伴う当該壁に取り合う天井、 壁及び床の改修範囲 ※壁厚程度とし既存仕上げに準じた仕上げを行う ・図示による (6.1.3) (b)天井内既存壁の撤去に伴う当該壁に取り合う天井の改修 範囲 ※壁面より両側 600mm程度とし既存仕上げに準じた仕上 げを行う ・図示による (c)天井の撤去に伴う取り合い部の壁面の改修 (※既存のまま ・図示による)
02	既存床の撤去 並びに下地補修	既存仕上げ材の除去等 (6.2.2) (1)ビニル床シート等の除去 浮き部、欠損部の下地モルタルの撤去 (・行う(範囲は図示による) ・行わない) (2)合成樹脂塗床材の除去等 (・機械的除去工法 ・目荒らし工法)
03	既存壁の撤去 並びに下地補修	間仕切り壁の撤去に伴う他の構造体の補修 (※モルタル塗り ・図示による) (6.3.2) 新設壁下地(・軽量鉄骨壁下地 ・木製壁下地) (6.1.4)
04	既存天井の撤 去並びに下地補修	天井の撤去 (・既存下地材利用 ・下地材を含めて撤去) (6.4.2) 新設天井下地 (・軽量鉄骨天井下地 ・木製天井下地) (6.1.4)
05	木材	木材の含水率 (・A種 ・B種) (6.5.2)(表6.5.1) 間仕切り軸組に用いる木材の種類 () (6.5.6) 床組に用いる木材の種類 ()
06	製材	・下地用製材 規格 (※JAS1083-5) () 等級 (・1級 ※2級) () 含水率 (・) () 保存処理 () () 施工箇所、寸法は図示による。 ・造作用製材 規格 (※JAS 1083-2) () 等級 (・上小節 ・小節) () 含水率 (・) () 保存処理 () () 施工箇所、寸法は図示による。 ・広葉樹製材 規格 (※JAS 1083-6) () 樹種 () () 等級 (・特等 ※1等 ・2等) () 含水率 (※10%以下) () 保存処理 () () 施工箇所、寸法は図示による。 JAS 1083以外の製材を用いる場合の適用は図示による。
07	造作用集成材	ホルムアルデヒド放散量等は1章 一般事項 揮発性有機化合物 対策による。 (6.5.2) ・造作用集成材 規格 (※日本農林規格による) () 樹種名 () () 見付け材面 () () 見付け材面の品質 (・特等 ※1等 ・2等) () 施工箇所、寸法は図示による。 ・化粧ばり造作用集成材 規格 (※日本農林規格による) () 樹種 化粧薄板 () () 芯材 () () 化粧薄板の厚さ () () 見付け材面 () () 見付け材面の品質 (・特等 ※1等 ・2等) () 施工箇所、寸法は図示による。 日本農林規格以外の製材を用いる場合の適用は図示による。

08	造作用単板積 層材	ホルムアルデヒド放散量等は1章 一般事項 揮発性有機化合物 対策による。 (6.5.2) ・造作用単板積層材 規格 (※JAS 0701による) () 表面の品質 ・化粧加工有 (・天然木化粧加工 ・塗装加工) ・化粧加工無 (・1等 ・2等 ・3等) 防虫処理() () 施工箇所、寸法は図示による。 JAS 0701以外の製材を用いる場合の適用は図示による。				
09	床張り用合板 等	ホルムアルデヒド放散量等は1章 一般事項 揮発性有機化合物 対策による。 (6.5.2) ・普通合板 (日本農林規格による) 厚さ (※5.5mm) () 接着の程度 (※1類) () 板面の品質 ・広葉樹 (※2等) () ・針葉樹 (※C-D) () 単板の樹種名 () () ・防虫処理 施工箇所、寸法は図示による。 ・構造用合板 (日本農林規格による) 厚さ (※12mm) () 接着の程度 常時湿潤状態の場合 (※特類) () その他の場合 (※1類) () 等級 (※2級) () 板面の品質 (※C-D) () 単板の樹種名 () () 保存処理 () () ・防虫処理 ・強度等級の指定 () () 施工箇所は図示による。 ・パーティクルボード(JIS A5908による) 厚さ (※15mm) () 表裏面の状態による区分 (・) () 曲げ強さによる区分 (・13) () 耐水性による区分 (・MR1(M) ・MR2(P)) () 難燃性による区分 (・難燃2級 ・難燃3級 ・普通) () 施工箇所、寸法は図示による。 ・構造用パネル (JAS 0360による) 施工箇所、寸法は図示による。				
10	接合具等	・造作材の化粧面の釘打ち (※隠し釘打ち ・釘頭埋め木 ・つぶし頭釘打ち ・釘頭現し) (6.5.3) ・諸金物の形状・寸法・材質 (※6.5.3(2)(7)による ・図示による)				
11	接着剤	ホルムアルデヒド放散量等は1章 一般事項 揮発性有機化合物 対策による。 (6.5.3)				
12	防腐・防蟻 処理	・薬剤の加圧注入処理 (6.5.5) <table border="1"> <thead> <tr> <th>適用部材</th> <th>性能区分</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>・K2 ・K3 ・K4</td> </tr> </tbody> </table>	適用部材	性能区分		・K2 ・K3 ・K4
適用部材	性能区分					
	・K2 ・K3 ・K4					
		・薬剤塗布 <table border="1"> <thead> <tr> <th>適用部材</th> <th>処理の方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>※薬剤の製造所の仕様による</td> </tr> </tbody> </table>	適用部材	処理の方法		※薬剤の製造所の仕様による
適用部材	処理の方法					
	※薬剤の製造所の仕様による					
13	防虫処理	適用箇所 (※ラワン) (6.5.5) ワラ材等を使用する場合はJAS 1083-6の保存処理K1とする。				

14 ビニル床シート張り等	(6.8節)			
	品名	種類等	厚さ(mm)	特殊機能
・ビニル床シート	種類(※F S ・) 色柄(※無地 ・)	※2.0mm	・帯電防止 ・耐荷重性 ・防滑性	
・ビニル床タイル	種類(※K T ・) 色柄(※無地 ・)	※2.0mm ・3.0mm	・帯電防止 ・防滑性	
・ゴム床タイル	種類(・) 色柄(・)	厚さ(・3mm ・4.5mm ・) 寸法(・)		
・ビニル幅木	※軟質 ・ 硬質	厚さ(※1.5mm ・) 高さ(※60mm ・75mm ・100mm)		
・視覚障害者用床タイル	・	寸法() 厚さ()		
<p>・接合部の処理(ビニル床シート張り) (※熱溶接工法 ・)</p> <p>施工箇所(・便所 ・) 接着剤のホルムアルデヒド放散量等は1章 一般事項 揮発性有機化合物対策」による (6.8.2) 下地の種類は図示による</p>				
15 カーペット敷き	(6.9節)			
	種類	種別、寸法(mm)等		
・織じゅうたん	・A種 ・B種 ・C種 色柄(※模様のない無地 ・)	・ループパイル ・カットパイル		
・タフタカーペット	※全面接着 ・グリッパー	・ループパイル ・カットパイル	パイル長さ (・)	
・ニードルパンチカーペット	・ラバー付 ・ラバー無	厚さ(・)		
・タイルカーペット	※1種 ・2種	※ループパイル ・カットパイル	寸法(※500角 ・) 厚さ(※6.5 ・)	
<p>・帯電防止(3kV以下) タイルカーペットの敷き方(※6.9.3による ・ 図示による) 見切り、押え金物の材質、種類及び形状は図示による グリッパー工法の下敷き材(※反毛フェルト第2種第2号、呼び厚さ8mm) 下地の種類は図示による</p> <p>接着材のホルムアルデヒド放散量等は1章 一般事項 揮発性有機化合物対策」による (6.9.3)</p>				
16 合成樹脂塗床	(6.10節)			
	床仕上げ	床材	表面仕上げ	
・厚膜型塗床材	・弾性ウレタン樹脂系	※平滑	・防滑 ・つや消し	
	・エポキシ樹脂系	・薄膜流しのべ(・平滑 ・防滑) ・厚膜流しのべ(・平滑 ・防滑) ・樹脂モルタル(・平滑 ・防滑)		
・薄膜型塗床材	エポキシ樹脂系	平滑		
ホルムアルデヒド放散量等は1章 一般事項 揮発性有機化合物対策による (6.10.2)				
17 フローリング張り	(6.11節)			
	品名	工法	厚さ×幅×長さ(mm)	
・フローリングロック1等	・接着	・		
・フローリングボード1等	・釘留め(根太張り) ・釘留め(直張り) ・接着(直張り)	・		
・複合フローリング	・釘留め(根太張り) ・釘留め(直張り) ・接着(直張り)	・A種 ・B種 ・C種		
・単層フローリング	・特殊張り	・t18		
<p>樹種(・ ・) (※地域材 ・) ・複合フローリングの防湿処理 ・下張り材料: (・ 合板(712mm) ・パーティクルボード(715mm) ・ 図示による) ・不陸緩衝材(接着工法) 材料(※合成樹脂発泡シート) ・塗装の塗り替え 下地調整(※図示による ・) 塗装 (※図示による ・)</p> <p>フローリング、接着剤のホルムアルデヒド放散量等は1章 一般事項 揮発性有機化合物対策」による (6.11.2) (6.11.5)</p>				
18 畳敷き	(6.12節)			
	種別:	・A種 ・B種 ・C種 ・D種(・KT-I ・KT-II ・KT-III ・KT-K ・KT-N)		

⑬ セッコウボード、その他ボード及び合板張り	(6.13節)																																				
	種類(記号)	種別	厚さ(mm)	備考																																	
せっこうボード (GB-R)			壁	・9.5 (準不燃) ・12.5 ・15 (不燃)																																	
			天井	・9.5 (準不燃) ・12.5 ・15 (不燃)																																	
化粧せっこうボード (GB-D)		・トランプ模様の天井 ・壁紙調(壁) ・455×910 ・910×910	・9.5 (準不燃)	・12.5 (不燃)																																	
			・木目模様 (システム下地)	・9.5 (準不燃) ・12.5 (不燃)																																	
強化せっこうボード (GB-F)		・防水性、防カビ性	・9.5 ・12.5 (不燃) ・15																																		
シーリングせっこうボード(GB-S)			・9.5 ・12.5 (準不燃)	・12.5 ・15 (不燃)																																	
ロックウール化粧	・普通	・9.0 ・12.0	(不燃)																																		
吸音板(DR)	・立体模様	・12.0 ・15	(不燃)																																		
フレキシブル板(F)		・6 ・4																																			
けい酸カルシウム板	・普通(※0.8FK) ・化粧(着色) ・穴あけ	・6 ・4																																			
木毛セメント板	※難燃 ・断熱	・20 ・25																																			
<p>合板</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>樹種(加工方法)</th> <th>厚さ(mm)</th> <th>処理</th> </tr> <tr> <td>・普通合板</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・防虫</td> </tr> <tr> <td>・天然木化粧合板</td> <td>・</td> <td>・12</td> <td>・防虫</td> </tr> <tr> <td>・特殊加工化粧合板</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・防虫</td> </tr> </table> <p>MDF、パーティクルボード、合板、接着剤のホルムアルデヒド放散量等は「1章 一般事項 揮発性有機化合物対策」による (6.13.2)</p> <p>合板の張付け(・A種 ※B種) 合板の表面性能() 接着の程度() せっこうボードの目地処理(・継目処理 ・突付け ・目透かし) 継目処理のエッジの種類(・テーパエッジ ・ベベルエッジ) 突付け、目透かしのエッジの種類(・ベベルエッジ ・スエアエッジ)</p> <p>吸音材の材質、工法(JIS A6301)</p> <table border="1"> <tr> <th>材種</th> <th>品質・規格</th> <th>厚さ(mm)</th> </tr> <tr> <td>・ロックウール吸音材</td> <td>※ロックウール吸音ボード1号</td> <td>・25 ・50 ・40</td> </tr> <tr> <td>・グラスウール吸音材</td> <td>※グラスウール吸音ボード2号</td> <td>・25 ・50 ・32K ・48K ・60K</td> </tr> </table> <p>工法 ・ガラスクロス(JIS R3414EP)にて額縁張りしたもの、インサールピン留め化粧ワッシャー押え、又は断熱ファスナー留め ・ガラスクロス(JIS R3414EP)にて片面張りしたもの、インサールピン留め化粧ワッシャー押え、又は断熱ファスナー留め</p> <p>壁紙の品質はJIS A6921による (6.14節)</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>程度</th> <th>施工箇所</th> <th>防火性能</th> </tr> <tr> <td>※塩化ビニル樹脂系</td> <td>※普及品</td> <td>・壁 ・天井</td> <td>・不燃 ・準不燃 ※難燃</td> </tr> </table> <p>モルタル、プラスター面下地調整 (・RA種 ※RB種 ・RC種)(表7.2.4) コンクリート面下地調整 (・RA種 ※RB種 ・RC種)(表7.2.5) せっこうボード面下地調整 (・RA種 ※RB種 ・RC種)(表7.2.7)</p> <p>壁紙、接着剤のホルムアルデヒド放散量等は「1章 一般事項 揮発性有機化合物対策」による。また、壁紙はTVOCが、ISM、SV規格又は同等の基準のものとする。 (6.14.2)</p>					種類	樹種(加工方法)	厚さ(mm)	処理	・普通合板	・	・	・防虫	・天然木化粧合板	・	・12	・防虫	・特殊加工化粧合板	・	・	・防虫	材種	品質・規格	厚さ(mm)	・ロックウール吸音材	※ロックウール吸音ボード1号	・25 ・50 ・40	・グラスウール吸音材	※グラスウール吸音ボード2号	・25 ・50 ・32K ・48K ・60K	種類	程度	施工箇所	防火性能	※塩化ビニル樹脂系	※普及品	・壁 ・天井	・不燃 ・準不燃 ※難燃
種類	樹種(加工方法)	厚さ(mm)	処理																																		
・普通合板	・	・	・防虫																																		
・天然木化粧合板	・	・12	・防虫																																		
・特殊加工化粧合板	・	・	・防虫																																		
材種	品質・規格	厚さ(mm)																																			
・ロックウール吸音材	※ロックウール吸音ボード1号	・25 ・50 ・40																																			
・グラスウール吸音材	※グラスウール吸音ボード2号	・25 ・50 ・32K ・48K ・60K																																			
種類	程度	施工箇所	防火性能																																		
※塩化ビニル樹脂系	※普及品	・壁 ・天井	・不燃 ・準不燃 ※難燃																																		
20 吸音材																																					
21 壁紙張り																																					
22 モルタル塗り																																					
	<p>材料(・ 現場調査材料 ・ 既調査材料()) コンクリート素地の処理(・ 目荒し工法 ・) 既製目地材の適用(・) 既製目地材の形状(・) (6.15.3) 床の目地の目地割り(※目地割2㎡程度、 最大目地間隔3m程度 ・) 床の目地の種類(※押し目地 ・) (6.15.6)</p>																																				
23 セラミックタイル張り																																					
	11章 外壁改修工事 03 タイル改修を参照すること。																																				

24 断熱・防露改修工事	(6.13節)																					
	打込工法及び後張り工法の断熱材 JIS A9521による。 (9.3.2) (9.3.4)																					
	材質	種類	厚さ(mm)	施工箇所																		
	・ビーズ法 [®] リスレンフォーム 断熱材	・特号 ・1号																				
	・押出法 [®] リスレンフォーム 断熱材	・3種a ・3種b																				
	・硬質ウレタンフォーム断熱材 A種	・1種 ・2種1号																				
	・フェノールフォーム断熱材	・1種1号 ・2種1号																				
	<p>フェノールフォーム断熱材又は保温材並びに接着剤のホルムアルデヒド放散量等は「1章 一般事項 揮発性有機化合物対策」による (9.3.2) (9.3.4)</p> <p>現場発泡工法の断熱材は JIS A9526による (9.3.3) 吹付け硬質ウレタンフォーム 種類(※A種1 ・) 難燃性を有するものとする 吹付け厚さ(mm) 火気及び有害ガス等に対する安全衛生対策は、関係法令等に 従い十分に行う。</p> <p>その他の断熱材</p> <table border="1"> <tr> <th>材質</th> <th>厚さ(mm)</th> <th>施工箇所</th> <th>規格</th> </tr> <tr> <td>・グラスウール</td> <td>・16K品(・高性能) ・24K品(・高性能)</td> <td></td> <td>JIS A9504 JIS A9521</td> </tr> <tr> <td>・</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>ホルムアルデヒド放散量等は「1章 一般事項 揮発性有機化合物対策」による</p>				材質	厚さ(mm)	施工箇所	規格	・グラスウール	・16K品(・高性能) ・24K品(・高性能)		JIS A9504 JIS A9521	・									
材質	厚さ(mm)	施工箇所	規格																			
・グラスウール	・16K品(・高性能) ・24K品(・高性能)		JIS A9504 JIS A9521																			
・																						
14章 塗装改修工事																						
⑩ 材料	ホルムアルデヒド放散量等は1章 一般事項 揮発性有機化合物対策による (7.1.3) 防火材料の指定 (・ あり ○なし ・ 図示による) 工程、使用量については、各メーカー仕様による。																					
	(7.2節)																					
⑪ 下地調整																						
03 素地ごしらえ																						
	<p>RB種の場合の既存塗膜の除去範囲 (・ 図示による ○塗替え面積の30%)</p> <p>新規に塗装を行う場合に適用 (7.3節)</p> <table border="1"> <tr> <th>下地面等</th> <th>種 別</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">木部</td> <td>不透明塗料塗り</td> <td>※RB種 ・ RA種 ・ RC種</td> </tr> <tr> <td>上記以外</td> <td>・ RA種 ・ RB種 ・ RC種</td> </tr> <tr> <td>鉄鋼面</td> <td>※RB種 ・ RA種 ・ RC種</td> </tr> <tr> <td>亜鉛めっき鋼面</td> <td>※RB種 ・ RA種 ・ RC種</td> </tr> <tr> <td>モルタル面、せっこうプラスター面</td> <td>※RB種 ・ RA種 ・ RC種</td> </tr> <tr> <td>コンクリート面(DP以外)、ALC[®] 砂面</td> <td>※RB種 ・ RA種 ・ RC種</td> </tr> <tr> <td>コンクリート面(DP)、押出成形セメント板面</td> <td>・ RA種 ・ RB種 ・ RC種</td> </tr> <tr> <td>せっこうボード面、その他ボード面</td> <td>※RB種 ・ RA種 ・ RC種</td> </tr> </table>				下地面等	種 別	木部	不透明塗料塗り	※RB種 ・ RA種 ・ RC種	上記以外	・ RA種 ・ RB種 ・ RC種	鉄鋼面	※RB種 ・ RA種 ・ RC種	亜鉛めっき鋼面	※RB種 ・ RA種 ・ RC種	モルタル面、せっこうプラスター面	※RB種 ・ RA種 ・ RC種	コンクリート面(DP以外)、ALC [®] 砂面	※RB種 ・ RA種 ・ RC種	コンクリート面(DP)、押出成形セメント板面	・ RA種 ・ RB種 ・ RC種	せっこうボード面、その他ボード面
下地面等	種 別																					
木部	不透明塗料塗り	※RB種 ・ RA種 ・ RC種																				
	上記以外	・ RA種 ・ RB種 ・ RC種																				
鉄鋼面	※RB種 ・ RA種 ・ RC種																					
亜鉛めっき鋼面	※RB種 ・ RA種 ・ RC種																					
モルタル面、せっこうプラスター面	※RB種 ・ RA種 ・ RC種																					
コンクリート面(DP以外)、ALC [®] 砂面	※RB種 ・ RA種 ・ RC種																					
コンクリート面(DP)、押出成形セメント板面	・ RA種 ・ RB種 ・ RC種																					
せっこうボード面、その他ボード面	※RB種 ・ RA種 ・ RC種																					

⑭ 錆止め塗料塗り	(7.4節)																														
	鉄鋼面	錆止め塗料の種別																													
見掛け部分 (新規塗装)	SOP	A種	※A種 ・ B種 ・ C種																												
	DP	1回目 C種 2, 3回目 D種	※A種 ・ B種 ・ C種																												
見隠れ部分 (新規塗装)	SOP	A種	※B種 ・ A種 ・ C種																												
	DP	1回目 C種 2, 3回目 D種	※A種 ・ B種 ・ C種																												
塗替え	EP-G	※B種(水系)・A種	※A種 ・ B種 ・ C種																												
	SOP	A種	※C種 ・ A種 ・ B種																												
	DP	1回目 C種 2, 3回目 D種	※A種(RA)																												
	EP-G	※B種(水系)・A種	※B種(RB) ・ C種(RC)																												
<p>亜鉛めっき鋼面 (7.4節)</p> <table border="1"> <tr> <th>下地面等</th> <th>錆止め塗料の種別</th> <th>工程の種別</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">鋼製建具等 (新規塗装)</td> <td>SOP</td> <td>※A種 ・ B種</td> <td>※A種 ・ B種 ・ C種</td> </tr> <tr> <td>DP</td> <td>B種</td> <td>※A種 ・ B種 ・ C種</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">上記以外 (新規塗装)</td> <td>SOP</td> <td>※A種 ・ B種</td> <td>※B種 ・ A種 ・ C種</td> </tr> <tr> <td>DP</td> <td>B種</td> <td>(表7.4.6)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">塗替え</td> <td>SOP</td> <td>※A種 ・ B種</td> <td>※C種(RB) ・ A種(RA) ・ B種(RA)</td> </tr> <tr> <td>DP</td> <td>B種</td> <td>(表7.4.6)</td> </tr> <tr> <td>EP-G</td> <td>C種</td> <td>・ C種(RB) ・ A種(RA) ・ B種(RA)</td> </tr> </table>					下地面等	錆止め塗料の種別	工程の種別	鋼製建具等 (新規塗装)	SOP	※A種 ・ B種	※A種 ・ B種 ・ C種	DP	B種	※A種 ・ B種 ・ C種	上記以外 (新規塗装)	SOP	※A種 ・ B種	※B種 ・ A種 ・ C種	DP	B種	(表7.4.6)	塗替え	SOP	※A種 ・ B種	※C種(RB) ・ A種(RA) ・ B種(RA)	DP	B種	(表7.4.6)	EP-G	C種	・ C種(RB) ・ A種(RA) ・ B種(RA)
下地面等	錆止め塗料の種別	工程の種別																													
鋼製建具等 (新規塗装)	SOP	※A種 ・ B種	※A種 ・ B種 ・ C種																												
	DP	B種	※A種 ・ B種 ・ C種																												
上記以外 (新規塗装)	SOP	※A種 ・ B種	※B種 ・ A種 ・ C種																												
	DP	B種	(表7.4.6)																												
塗替え	SOP	※A種 ・ B種	※C種(RB) ・ A種(RA) ・ B種(RA)																												
	DP	B種	(表7.4.6)																												
EP-G	C種	・ C種(RB) ・ A種(RA) ・ B種(RA)																													
(7.4節)																															
⑮ 塗装																															
(7.4節)																															
塗 装																															
SOP	木部(新規塗装)	屋外	※A種 ・ B種 ・ C種																												
		屋内	※B種 ・ A種 ・ C種																												
	木部(塗替え)		※B種 ・ A種 ・ C種																												
	鉄鋼面		※B種 ・ A種 ・ C種																												
	亜鉛めっき鋼面(新規塗装)		※B種 ・ A種 ・ C種																												
	亜鉛めっき鋼面 (塗替え)	鋼製建具 上記以外	※A種 ・ B種 ・ C種 ※B種 ・ A種 ・ C種																												
DP	鉄鋼面		(表7.8.1)																												
	亜鉛めっき鋼面		(表7.8.2)																												
	コンクリート面、押出成形セメント板面		○A-1種 ・ A-2種 ・ B-1種 ・ B-2種 ・ C-1種 ・ C-2種																												
	EP-G	コンクリート面、モルタル面等		※B種 ・ A種 ・ C種																											
木部(新規塗装)		※A種 ・ B種 ・ C種																													
	木部(塗替え)		※B種 ・ A種 ・ C種																												
	鉄鋼面(屋内)		※B種 ・ A種 ・ C種																												
	亜鉛めっき鋼面		※A種 ・ B種																												
	EP		※B種 ・ A種 ・ C種																												
<p>DP 上塗り塗料の等級 鉄鋼面(・ 1級 ・ 2級 ・ 3級) 亜鉛めっき鋼面(○1級 ・ 2級 ・ 3級) EP-G, EP 塗替えの場合のしみ止め(・)</p> <p>・水性ウレタン[®]塗り (標18.11節準用)</p> <table border="1"> <tr> <th>使用部位</th> <th>塗り種別</th> <th>素地ごしらえ</th> </tr> <tr> <td>・床</td> <td>※4回塗り ウレタン[®]掛け5回</td> <td>※B種 ・ A種</td> </tr> <tr> <td>・一般木部</td> <td>※A種 ・ B種</td> <td>※B種 ・ A種</td> </tr> </table> <p>塗料等のホルムアルデヒド放散量等は1章 一般事項 揮発性有機化合物対策による。</p> <p>・その他塗装 ・図示による 素地ごしらえ、下地調整、錆止め塗料塗り等は公共建築工事標準仕様書又は公共建築改修工事標準仕様書を参照すること。 塗料は施工前に施工計画書により監督員の承諾を得ること。 工程、塗布量については各メーカー仕様による。</p>					使用部位	塗り種別	素地ごしらえ	・床	※4回塗り ウレタン [®] 掛け5回	※B種 ・ A種	・一般木部	※A種 ・ B種	※B種 ・ A種																		
使用部位	塗り種別	素地ごしらえ																													
・床	※4回塗り ウレタン [®] 掛け5回	※B種 ・ A種																													
・一般木部	※A種 ・ B種	※B種 ・ A種																													

15章 ユニット及びその他工事

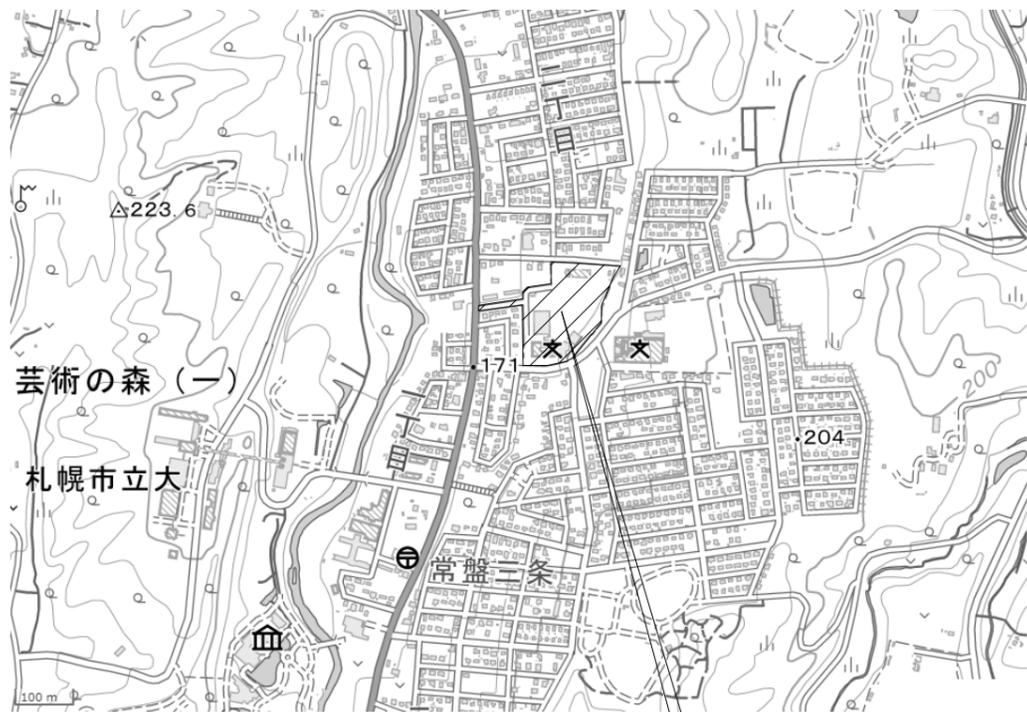
01 フリーアクセ スフロア	分類 (標20.2.2)																														
	<table border="1"> <tr> <td>・置敷き式</td> <td>・支柱非固定タイプ</td> <td>・支柱分離型</td> </tr> <tr> <td>・支柱調整式</td> <td>・支柱固定タイプ</td> <td>・支柱一体型</td> </tr> </table> <p>構成材の材質(・アルミ系 ・スチール系 ・有機質 ・無機質系) 表面仕上材の材質(・ビニル床タイル ・カーペット ・タイルカーペット ・ホモジニアスビニル床タイル) パネル寸法 () 高さ(床仕上げ材含まない) (mm) 耐震性能 設計用標準水平震度Ks (・1.0 ・0.6) (部位については図示による) 所定荷重 (・3000N ・5000N ・) 帯電防止性能(U値)(・グレードⅠ ・グレードⅡ ・グレードⅢ) 漏えい抵抗 (※1.0×10Ω 以上 ・) 寸法精度 (※20.2.2による ・) JIS A1450による試験結果が、以下の性能を満たすこと 耐荷重性能 (※変形 5.0mm以下 ・残留変形 3.0mm以下) 耐衝撃性能 ※残留変形 3.0mm以下及び損傷がないこと ロックロード性能 (※残留変形 3.0mm以下 ・) 耐燃焼性能 (※不燃材料又は残炎時間 0秒 ・)</p>	・置敷き式	・支柱非固定タイプ	・支柱分離型	・支柱調整式	・支柱固定タイプ	・支柱一体型																								
・置敷き式	・支柱非固定タイプ	・支柱分離型																													
・支柱調整式	・支柱固定タイプ	・支柱一体型																													
02 可動間仕切	JIS A6512による (標20.2.3) 構造形式による種類 構造 (・パネル式 ・スタッド式 ・スタッドパネル式) 空間の仕切り方 (・密閉形 ・開放形 ・自立形) 構成材の種類 構成部品 (・一般パネル ・出入口パネル ・出入口以外の開口部付パネル) パネルの材料のホルムアルデヒド放散量等は1章 一般事項 揮発性有機化合物対策による 主たる構成基材 スタッド (・アルミニウム合金 ・スチール) パネル (・アルミニウム合金 ・スチール ・木質 ・ガラス ・樹脂 ・石こう) 遮音性 (・0 ・12 ・20 ・28 ・36) パネル表面仕上げ、寸法、形状は図示による。																														
	03 移動間仕切	パネルの操作方法の種類() (標20.2.4) パネルの表面材 材質() 仕上げ() パネルの圧接装置の操作方法 () 遮音性能 () ハンガーレール取付け下地の補強 () あと施工アンカー 材質() 寸法()																													
04 既製トイ レブ ース	パネル表面材 (・メラミン樹脂系 ※ポリエステル樹脂系) (標20.2.5) パネルの材料のホルムアルデヒド放散量等は1章 一般事項 揮発性有機化合物対策による																														
05 階段滑止め	材種 (・ステンレス鋼(SUS304) ・アルミニウム合金) (標20.2.7) 形状 (・ビニル材又は合成ゴム材付入り) (・内部 ・外部) 幅 (・40mm ・30mm ・35mm) 取付工法(・接着材併用カールブラク 止め ※埋め込み ・)																														
06 床目地樺	材種 (※ステンレス ・) (標20.2.8) アンカー (※間隔500mm程度 ・)																														
07 黒板及びホ イトボ ード	黒板(JIS S6007)種類(※焼付け ・) (標20.2.9) 色 (※緑 ・) ホワイトボード(JIS S6052)種類 (※ほうろう白板 ・)																														
08 鏡	厚さ (※5mm ・ mm) (標20.2.10)																														
09 表示	表示板の種類 (標20.2.11) <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>材質・寸法 厚さ(mm)</th> <th>印刷等の種類</th> <th>色彩</th> <th>書体</th> <th>取付形式</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・室名札</td> <td>・アクリル板(4.0)</td> <td>※シルクスクリーン印刷</td> <td>・透明</td> <td>・太ゴシック</td> <td>・正面型 ・側面型</td> </tr> <tr> <td>・ピクト グラフ</td> <td>・アクリル板()</td> <td>※シルクスクリーン印刷</td> <td>・透明</td> <td>・太ゴシック</td> <td>・正面型 ・側面型</td> </tr> <tr> <td>・案内板</td> <td>・アクリル板()</td> <td>※シルクスクリーン印刷</td> <td>・透明</td> <td>・太ゴシック</td> <td>・正面型 ・側面型</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・ガラススクリーン対人衝突防止表示の材質、形状、寸法 (※図示による ・) ・非常用進入口等の表示(※消防法適合市販品 ・)</p>	種類	材質・寸法 厚さ(mm)	印刷等の種類	色彩	書体	取付形式	・室名札	・アクリル板(4.0)	※シルクスクリーン印刷	・透明	・太ゴシック	・正面型 ・側面型	・ピクト グラフ	・アクリル板()	※シルクスクリーン印刷	・透明	・太ゴシック	・正面型 ・側面型	・案内板	・アクリル板()	※シルクスクリーン印刷	・透明	・太ゴシック	・正面型 ・側面型						
種類	材質・寸法 厚さ(mm)	印刷等の種類	色彩	書体	取付形式																										
・室名札	・アクリル板(4.0)	※シルクスクリーン印刷	・透明	・太ゴシック	・正面型 ・側面型																										
・ピクト グラフ	・アクリル板()	※シルクスクリーン印刷	・透明	・太ゴシック	・正面型 ・側面型																										
・案内板	・アクリル板()	※シルクスクリーン印刷	・透明	・太ゴシック	・正面型 ・側面型																										

10 煙突ライニ ング	煙突用成形ライニング材 安全使用温度 ℃ (標20.2.13)												
11 ブラインド	ブラインドの形式 (標20.2.14) <table border="1"> <thead> <tr> <th>形式</th> <th>※横型ブラインド</th> <th>・縦型ブラインド</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>材種</td> <td>※アルミニウム合金</td> <td>※アルミニウム合金 ・クロス</td> </tr> <tr> <td>開閉方式</td> <td>※ギア式 ・コード式</td> <td></td> </tr> <tr> <td>スラットの形状・幅</td> <td>※25型 ・型</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>操作方式、幅、高さ、材種、品質等 ※図示による (標20.2.15)</p>	形式	※横型ブラインド	・縦型ブラインド	材種	※アルミニウム合金	※アルミニウム合金 ・クロス	開閉方式	※ギア式 ・コード式		スラットの形状・幅	※25型 ・型	
形式	※横型ブラインド	・縦型ブラインド											
材種	※アルミニウム合金	※アルミニウム合金 ・クロス											
開閉方式	※ギア式 ・コード式												
スラットの形状・幅	※25型 ・型												
12 ロールスク リ ーン	操作方式、幅、高さ、材種、品質等 ※図示による (標20.2.15)												
13 カーテンレ ール	カーテンレール (標20.2.16) レール及びブラケットの強さによる区分 (※10-90 ・10-60) 材種 (・ステンレス製 ・アルミニウム製 ・アルミニウム合金の押し成型材) 形状 (・C型 ・D型 ※角形)												
14 木製家具	合板、ランバーコア、MDF、パーティクルボード及び接着剤 のホルムアルデヒド放散量等は1章 一般事項 揮発性有機 化合物対策による。												

16章 環境配慮改修工事

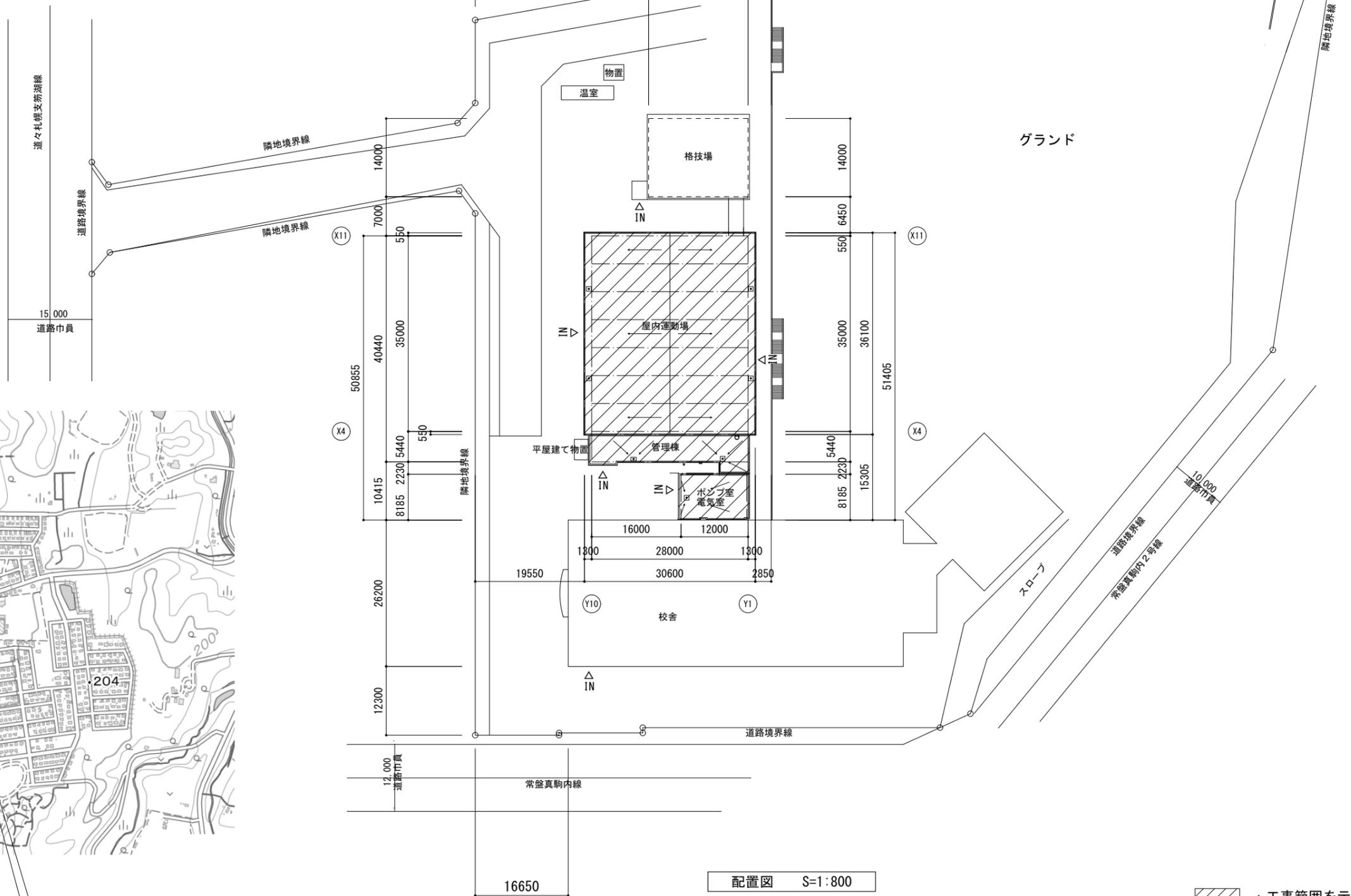
⑩ 石綿含有建材 の除去工事共通 事項	石綿含有建材除去後の仕上げ工事については 図示による (9.1.1) ・石綿粉じん濃度測定 (9.1.1) 測定方法、時期(・図示による) 調査部位(※図示による)(ヶ所) (1)専門工事業者 石綿含有吹付材の除去を直接行う専門工事業者については、 工事に相応した技術を有することを証明する資料を提出す る。 (9.1.2) (2)石綿作業主任者 石綿含有建材の除去にあたっては、石綿障害予防規則 (平成17年厚生労働省令第21号)に基づき選任する。 なお、石綿作業主任者は、石綿作業主任者技能講習終了者 又は平成18年3月以前の特定化学物質等作業主任者技能講習 修了者とする。 (9.1.2) (3)除去作業者 石綿含有建材の除去に従事する作業者(以下「除去作 業者」という)は、石綿障害予防規則に基づく特別教育 を受けた者とする。 また、除去作業者は、一般健康診断、石綿健康診断、 じん肺健康診断を受診した者とし、肺機能に異常が ない者とする。 (9.1.2) (4)特別管理産業廃棄物管理責任者 受注者は石綿含有吹付け材、石綿含有保温材等の除去工事 では、廃棄物処理法に基づき、特別管理産業廃棄物管理責 任者の資格を有する者を配置し、監督員に報告する。 なお、選任は元請業者の中で行う(ただし石綿含有成形版の 除去工事を除く)。 (9.1.2) (5)表示及び提示 「建築物の解体等の作業に関するお知らせ」を周辺住民の 見やすい場所に提示する。 (9.1.2) (6)作業結果の報告 特定粉じん排出等作業の完了後、監督員に作業結果を報告 する。 ※除去工事においては保護衣を着用し、使用毎に廃棄する こと。 (9.1.2)
02 石綿含有 吹き付け材 の除去	(1)除去の工法 (9.1.3) (※粉じん飛散抑制剤等で湿潤化後除去[・手ばらし ・切断、破砕等] ・) (2)除去物及び汚染物の処理 処理方法は下記のとおりとする。 また、処理施設については、受入条件等を確認の上、 事前に監督員と協議すること。 (a)処理方法(※密封処理[二重袋梱包] ・セメント固化) (b)飛散防止措置(※湿潤化 ・固化) (c)処分施設へ搬出(調書を監督員に提出する) 石綿含有吹付け材 搬出先:山口処理場(手稲区手稲山口364) (3)除却した石綿含有吹付け材を搬出するまでの間、現場 内に保管する場合は、一定の保管場所を定め、他の内装材 と分別して保管するものとし、シートで覆う等飛散防止処 置を講ずる。 また、保管場所には、廃石綿等の保管場所であることの 表示を行う。
03 石綿含有保温 材等の除去	(1)除去の工法 (9.1.4) (※粉じん飛散抑制剤等で湿潤化後除去[手ばらし] ・) (2)除去物及び汚染物の処理 処理方法は下記のとおりとする。 また、処理施設については、受入条件等を確認の上、 事前に監督員と協議すること。 (a)処理方法(※密封処理[二重袋梱包] ・セメント固化) (b)処分施設へ搬出(調書を監督員に提出する) 石綿含有保温材等 搬出先:山口処理場(手稲区手稲山口364番地)

⑭ 石綿含有成形 板等の除去	(1)石綿成形板等の仕様 <table border="1"> <thead> <tr> <th>石綿含有成形板等の仕様</th> <th>厚さ(mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・石綿セメント板</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・化粧石綿セメント板</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・吸音穴あき石綿セメント板</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・石綿セメントケイデング</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・石綿セメント珪酸カルシウム板</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・化粧石綿セメント珪酸カルシウム板</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・押出成形セメント板</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ビニル床シート</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・油性コネク</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・石綿含有セッコウボード</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ビニル床シート</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ボードモルタル</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>○外壁AEPリシン吹付の下地調整材</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>処理は適切に行い、範囲は図示による (2)除去の工法 (9.1.5) (※湿潤化後除去[原形のまま手ばらし] ・切断、破砕等) (3)除去物及び汚染物の処理 処理施設については、受入条件等を確認のうえ、事前に 監督員と協議すること。 (4)石綿含有成形板等の集積・運搬等 (9.1.5) (a)除去した石綿含有成形板等の集積及び積み込みに 当たっては、高所より投下しないことその他、粉じんの 飛散防止に努める。 (b)万一破砕された石綿含有成形板等は、湿潤化の上、 丈夫なビニル袋に入れる等、飛散防止の措置を講ずる。 (c)除去した石綿含有成形板等を搬出するまでの間、 現場内に保管する場合は、一定の保管場所を定め、 他の内装材等と分別して保管するものとし、シート で覆う等、飛散防止措置を講ずる。 また、保管場所には、石綿等の保管場所である ことの表示を行う。 (d)石綿含有成形板等の運搬に当たっては、運搬車両の 荷台全体をシート等で覆い、飛散防止に努める。</p>	石綿含有成形板等の仕様	厚さ(mm)	・石綿セメント板		・化粧石綿セメント板		・吸音穴あき石綿セメント板		・石綿セメントケイデング		・石綿セメント珪酸カルシウム板		・化粧石綿セメント珪酸カルシウム板		・押出成形セメント板		・ビニル床シート		・油性コネク		・石綿含有セッコウボード		・ビニル床シート		○ボードモルタル	30	○外壁AEPリシン吹付の下地調整材	
石綿含有成形板等の仕様	厚さ(mm)																												
・石綿セメント板																													
・化粧石綿セメント板																													
・吸音穴あき石綿セメント板																													
・石綿セメントケイデング																													
・石綿セメント珪酸カルシウム板																													
・化粧石綿セメント珪酸カルシウム板																													
・押出成形セメント板																													
・ビニル床シート																													
・油性コネク																													
・石綿含有セッコウボード																													
・ビニル床シート																													
○ボードモルタル	30																												
○外壁AEPリシン吹付の下地調整材																													
⑮ 石綿含有仕上 塗材の除去	石綿含有仕上塗材の除去工法 (・図示による ○塗膜剥離工法 ・高圧水洗工法 ・サンダー工法) (9.1.6)																												
06 外断熱改修 工事	材料 (9.2.2) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>種類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>断熱材</td> <td>種類(・) 厚さ(・)</td> </tr> <tr> <td>外装材</td> <td>種類(・) 防火性能(・)</td> </tr> <tr> <td>鋼材</td> <td>下地金物:</td> </tr> </tbody> </table> <p>既存外壁の処置 ※「11章外壁改修工事」による (9.2.4) 工法() 通気層: ・有(厚さ) ・無 外装材の取付方法(※あと施工アンカー等 ・) 外装材の施工 () 断熱材の施工: 不陸等の下地調整() (※断熱材製造所の仕様による ・) ・建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法とする</p>		種類	断熱材	種類(・) 厚さ(・)	外装材	種類(・) 防火性能(・)	鋼材	下地金物:																				
	種類																												
断熱材	種類(・) 厚さ(・)																												
外装材	種類(・) 防火性能(・)																												
鋼材	下地金物:																												



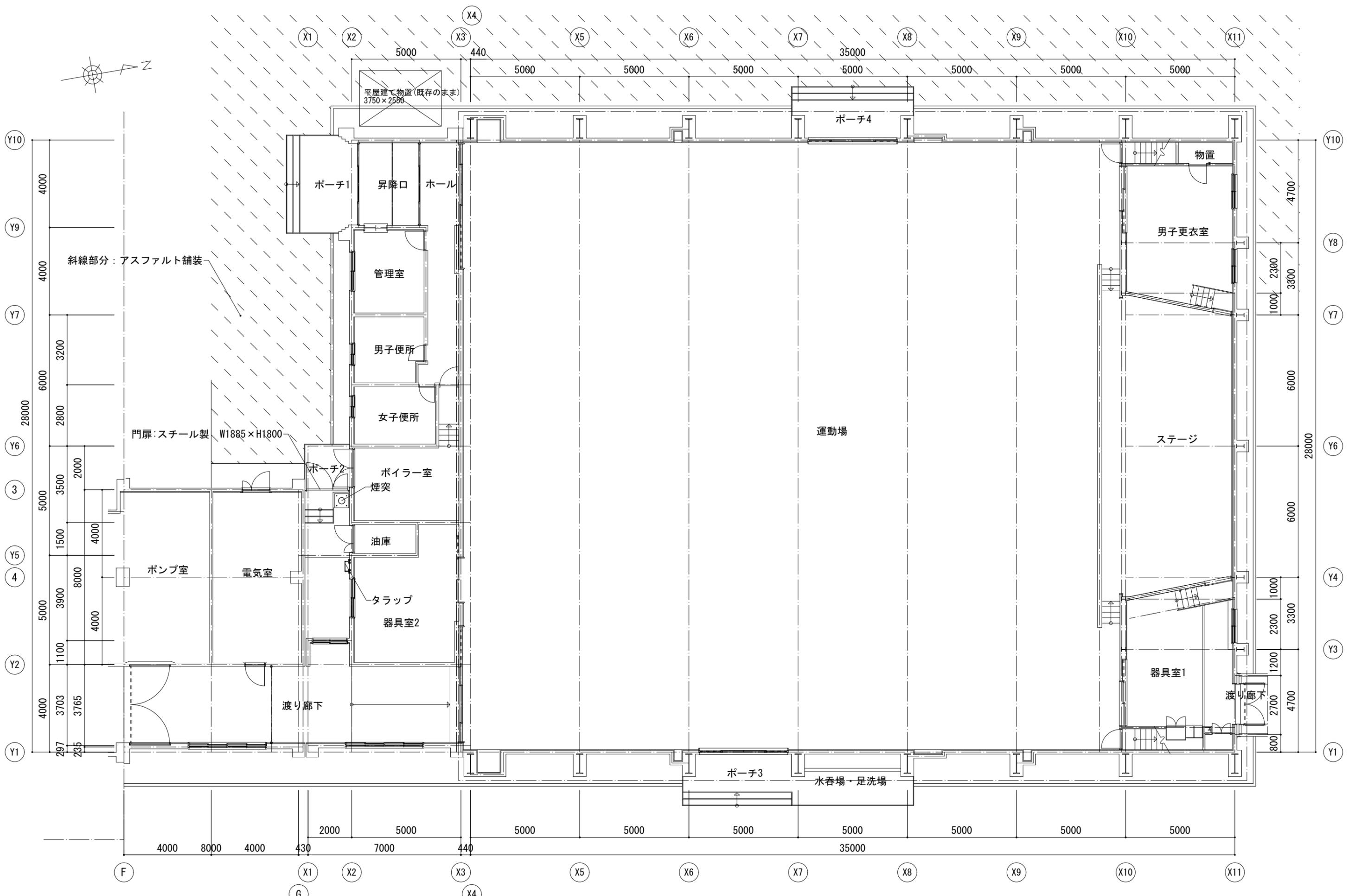
付近見取図

工事場所：札幌市南区常盤2条2丁目



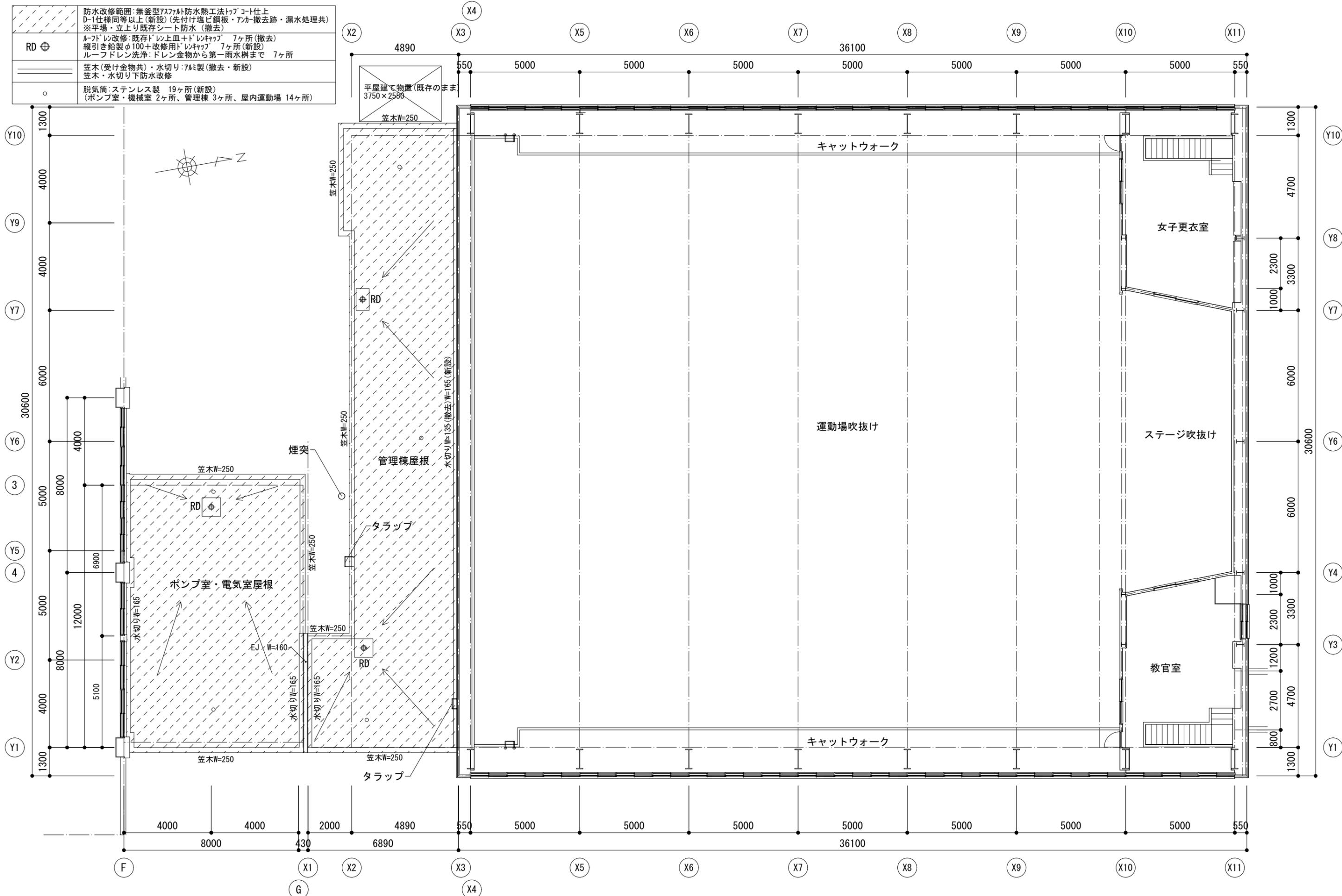
: 工事範囲を示す。

日付	工事名 常盤中学校屋内運動場外部改修工事	図面名称 付近見取図・配置図	縮尺 S=1:800	 一級建築士事務所 早川文雄建築設計室	一級建築士事務所登録(石)第2717号 一級建築士登録(大臣)第200231号 早川文雄	製図	承認	図面番号 A-09
----	-------------------------	-------------------	---------------	---------------------------	--	----	----	--------------



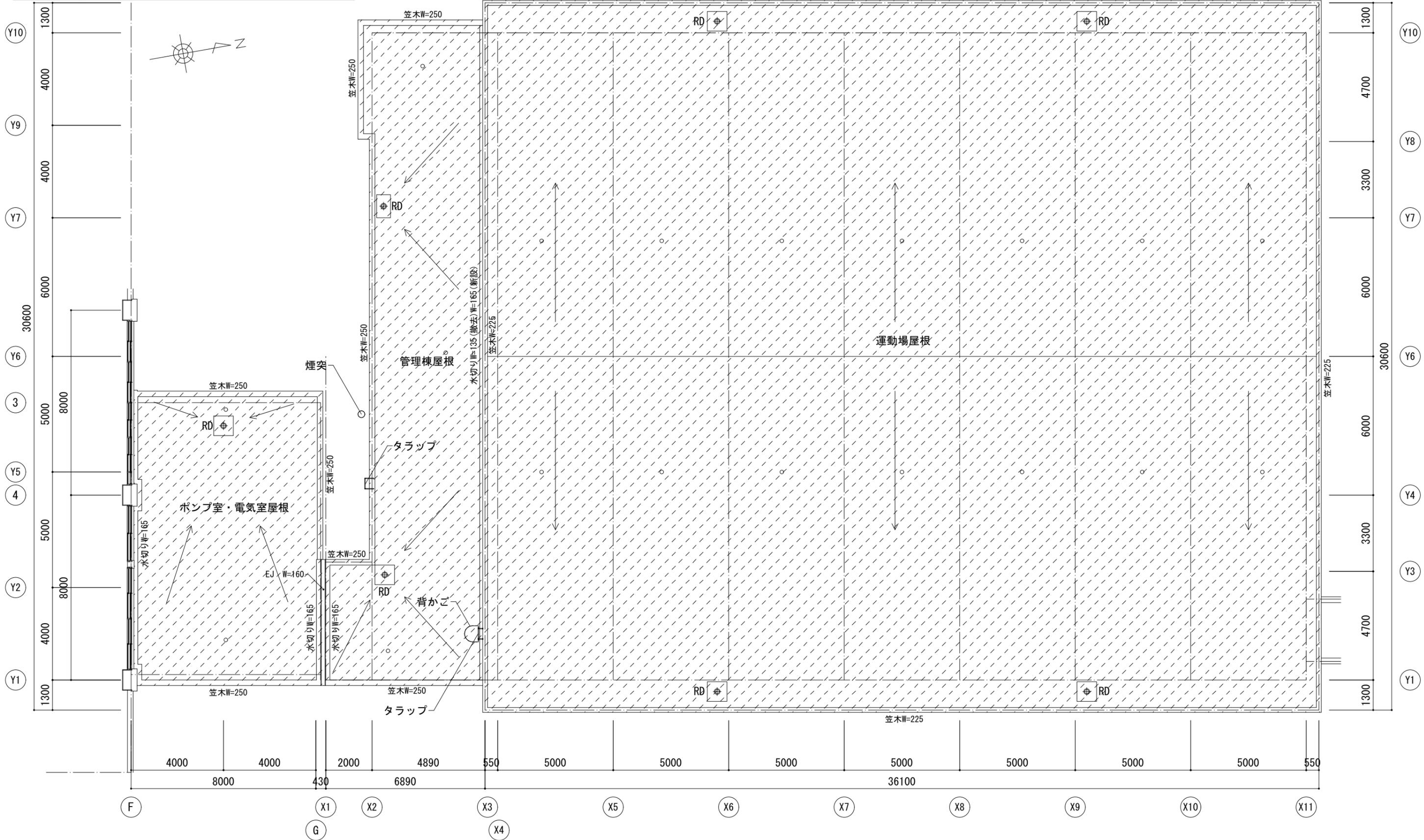
日付	工事名	図面名称	縮尺	 一級建築士事務所 早川文雄建築設計室	一級建築士事務所登録(石)第2717号 一級建築士登録(大臣)第200231号 早川文雄	製図	承認	図面番号
	常盤中学校屋内運動場外部改修工事	1階平面図	S=1:150					A-10

	防水改修範囲: 無釜型7スファルト防水熱工法トップコート仕上 D-1仕様同等以上(新設)(先付け塩ビ鋼板・アーカー撤去跡・漏水処理共) ※平場・立上り既存シート防水(撤去)
RD ⊕	ルーフDレ改修: 既存ドレン上皿+ドレンキャップ 7ヶ所(撤去) 縦引き鉛製φ100+改修用ドレンキャップ 7ヶ所(新設) ルーフドレン洗浄: ドレン金物から第一雨水樹まで 7ヶ所
	笠木(受け金物共)・水切り: 7mm製(撤去・新設) 笠木・水切り下防水改修
○	脱気筒: ステンレス製 19ヶ所(新設) (ポンプ室・機械室 2ヶ所、管理棟 3ヶ所、屋内運動場 14ヶ所)

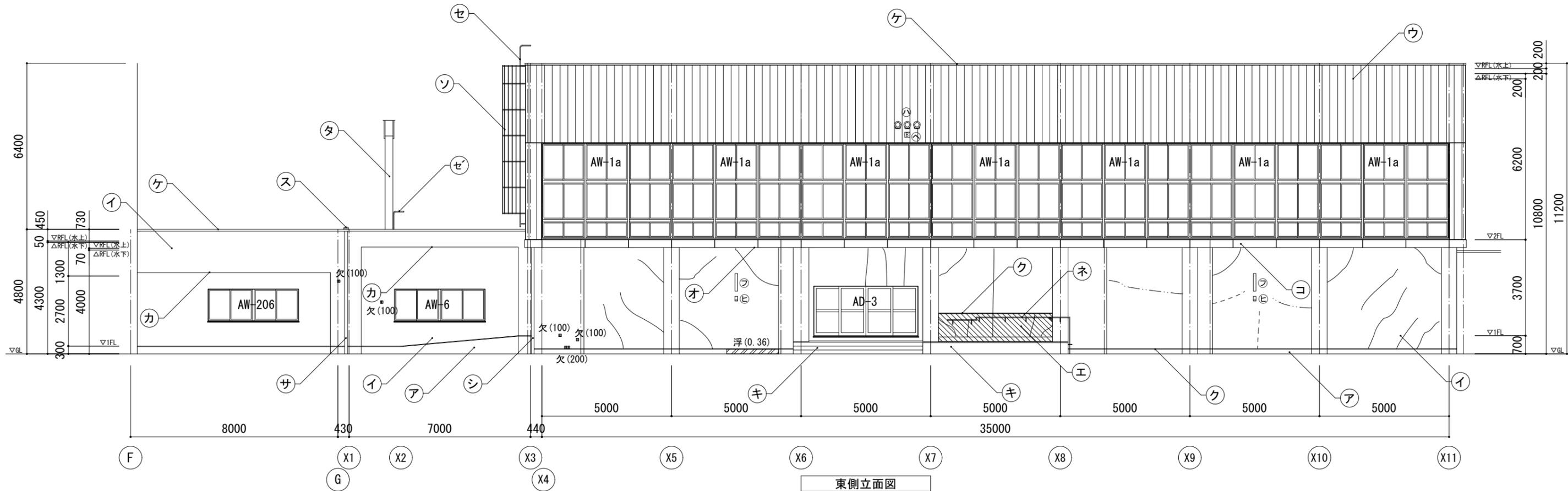


日付	工事名 常盤中学校屋内運動場外部改修工事	図面名称 2階平面図	縮尺 S=1:150	 一級建築士事務所 早川文雄建築設計室	一級建築士事務所登録(石)第2717号 一級建築士登録(大臣)第200231号 早川文雄	製図	承認	図面番号 A-11
----	-------------------------	---------------	---------------	---	--	----	----	--------------

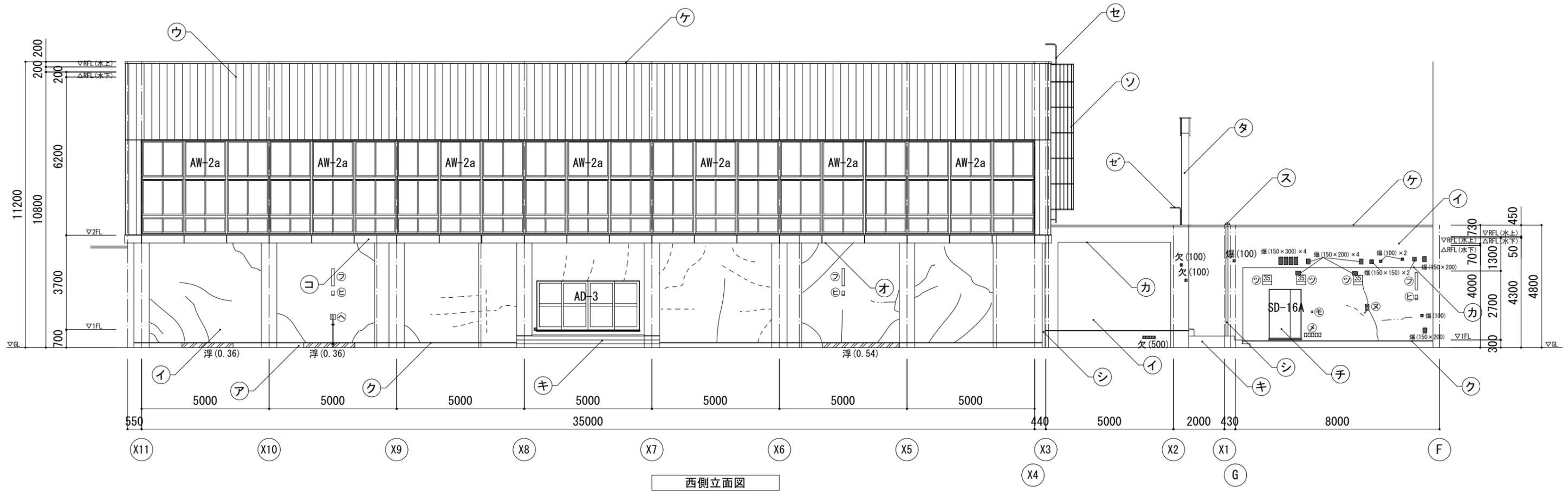
	防水改修範囲:無釜型7スファルト防水熱工法トップコート仕上 D-1仕様同等以上(新設)(先付け塩ビ鋼板・アーカー撤去跡・漏水処理共) ※平場・立上り既存シート防水(撤去)
RD ⊕	ルーフ改修:既存ドレン皿+ドレンキャップ 7ヶ所(撤去) 縦引き鉛製φ100+改修用ドレンキャップ 7ヶ所(新設) ルーフドレン洗浄:ドレン金物から第一雨水樹まで 7ヶ所
—	笠木(受け金物共)・水切り:7mm製(撤去・新設) 笠木・水切り下防水改修
○	脱気筒:ステンレス製 19ヶ所(新設) (ポンプ室・機械室 2ヶ所、管理棟 3ヶ所、屋内運動場 14ヶ所)



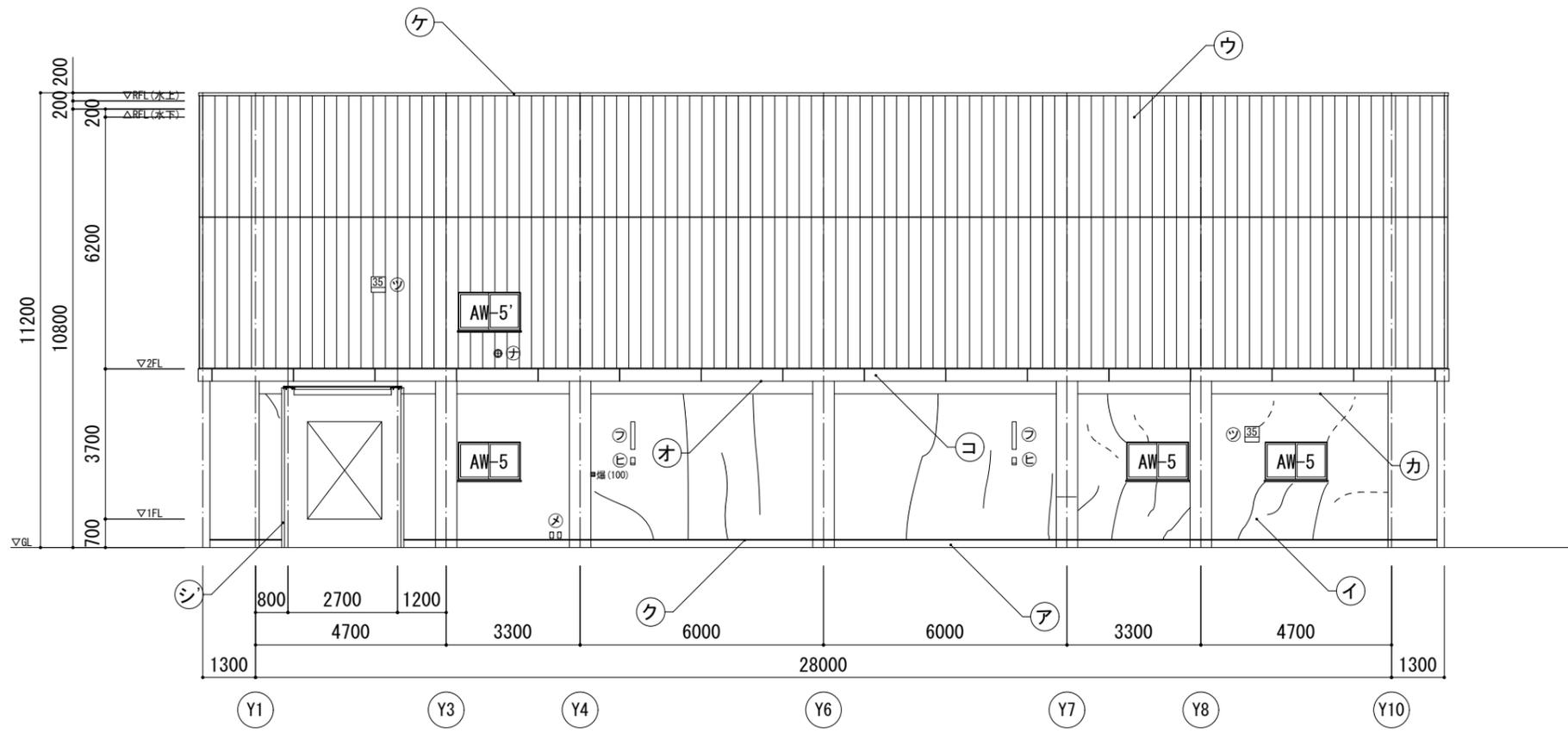
日付	工事名	図面名称	縮尺	一級建築士事務所 早川文雄建築設計室	一級建築士事務所登録(石)第2717号 一級建築士登録(大臣)第200231号 早川文雄	製図	承認	図面番号
	常盤中学校屋内運動場外部改修工事	屋根伏図	S=1:150					A-12



改修凡例		平面図・立面図共通事項		改修前		改修後		
部位	記号	改修前	改修後	部位	記号	改修前	改修後	
基礎	ア	コンクリート打放	既存コンクリート打放:高圧洗浄、劣化部補修 エポキシ樹脂モルタル金ゴテ t=3 GL-100まで(新設)	水道メーターボックス	㊦	樹脂製 W170×D100×H170 1ヶ所	樹脂製 W170×D100×H170 1ヶ所(既存のまま)	
外壁1	イ	コンクリート打放 AEPリシン吹付 下地調整材(石綿含有率 ^レ #3)	既存コンクリート打放AEPリシン吹付塗膜除去:塗膜剝離剤工法(環境配慮型) 劣化部補修、下地調整塗材(C-2)防水型複層塗材E(新設)	水道管	㊧	鋼製 φ25 1ヶ所	鋼製 φ25 1ヶ所(既存のまま) 下地調整(RB種)の上 DP (新設)	
外壁2	ロ	鋼板、下地:ウレタンボード t=20、透湿・防水シート	鋼板(撤去)、下地:ウレタンボード t=20、透湿防水シート(撤去) 金属サイディング縦張 標準品(ガルバリウムカラー鋼板+断熱材) t=0.35 山高H=15以上(新設) 下地:透湿防水シート、強化石膏ボード t=15 防水・防カビ性(新設) 防火構造:PC03ONE-0084	防犯カメラ+照明器具	㊨	金属製 φ120 1ヶ所	金属製 φ120 1ヶ所(既存のまま)	
外壁3(足洗場)	ハ	コンクリート打放 ウレタン系エナメル塗装 (石綿含有率 ^レ #3みなし)	既存コンクリート打放ウレタン系エナメル塗装除去:塗膜剝離剤工法(環境配慮型) 劣化部補修、下地調整塗材(C-2)、DP(新設)	スピーカー	㊩	樹脂製 W300×D300×H150 3ヶ所	樹脂製 W300×D300×H150 3ヶ所(取外し・再取付)	
スラブ軒天	ニ	コンクリート型枠兼用内装下地材 AEPリシン吹付(石綿含有率 ^レ #3みなし)	既存コンクリート型枠兼用内装下地材AEPリシン吹付塗膜除去:塗膜剝離剤工法(環境配慮型) 劣化部補修、防水型複層塗材E(新設)	防水コンセント	㊪	樹脂製 W70×H120 8ヶ所	樹脂製 W70×H120 8ヶ所(既存のまま)	
梁下軒天	ヒ	コンクリート打放 AEPリシン吹付(石綿含有率 ^レ #3みなし)	既存コンクリート打放AEPリシン吹付塗膜除去:塗膜剝離剤工法(環境配慮型) 劣化部補修、下地調整塗材(C-2)防水型複層塗材E(新設)	照明器具	㊫	樹脂製 W100×D100×H680 7ヶ所、W110×D100×H600 1ヶ所	樹脂製 W100×D100×H680 7ヶ所、W110×D100×H600 1ヶ所 (足場に仮設置後・復旧)	
ポーチ	ヘ	モルタルコテ押え t=30(石綿含有率 ^レ #3) コーナーアングル:ステンレス L-30×30×3	既存モルタルコテ押え t=30(撤去)、既存コーナーアングル:ステンレス L-30×30×3(撤去) モルタル金ゴテ押え t=30(新設)、コーナーアングル:ステンレス L-30×30×3(新設)	ブルックス	㊬	溶融亜鉛メッキ製 W200×D100×H200 2ヶ所、シーリング 10×10	溶融亜鉛メッキ製 W200×D100×H200 1ヶ所(取外し・再取付)、1ヶ所(既存のまま) シーリング 10×10 MS-2(撤去・新設)	
打継目地	ト	シーリング 10×15	シーリング 10×15 PS-2(撤去・新設)	電気錠	㊭	金属製 W75×D50×H120 1ヶ所	金属製 W75×D50×H120 1ヶ所(既存のまま)	
笠木	チ	アルミ製(既製品) ノンシールタイプ W=225、W=275	アルミ製(既製品) ノンシールタイプ W=225、W=250(撤去・新設)	電気プレート	㊮	金属製 W75×D50×H120 1ヶ所	金属製 W75×D50×H120 1ヶ所(既存のまま)	
水切り	リ	アルミ製水切り t=2、目地:シーリング 10×10	既存アルミ製水切り t=2(既存のまま)、高圧洗浄(新設)、目地:シーリング 10×10 MS-2(撤去・新設)	表示板	㊯	樹脂製 W150×H650 1ヶ所、W150×H500 1ヶ所 W160×H80 1ヶ所、W80×H250 1ヶ所	樹脂製 W150×H650 1ヶ所、W150×H500 1ヶ所(既存のまま) W160×H80 1ヶ所、W80×H250 1ヶ所(既存のまま)	
EJ-7	レ	アルミ製 10×160	アルミ製 10×160(既存のまま)	表示板	㊺	金属製 W600×H300 3ヶ所	金属製 W600×H300 3ヶ所(撤去・新設) 詳細は、A-37図による。	
EJ-8	ロ	アルミ製 75×105、70×165	アルミ製 75×105、70×165(既存のまま)	接地埋設標	㊻	金属製 W90×H140 7ヶ所	金属製 W90×H140 7ヶ所(撤去・新設)詳細は、A-37図による。	
EJ-9	ハ	アルミ製 30×160	アルミ製 30×160(撤去)、アルミ製 W600(新設)	水道止水栓・メーター表示板	㊼	金属製 W50×H75 1ヶ所	金属製 W50×H75 1ヶ所(既存のまま)	
タラップ	セ	㊽ ステンレス製 HL W450×L7000 1ヶ所 ㊾ ステンレス製 HL W450×L3700 1ヶ所	㊽ ステンレス製 HL W450×L7000 1ヶ所(取外し・再取付)、ステンレス #1(取外し・再取付)、ゴムパッキン(新設) ㊾ ステンレス製 HL W450×L3700 1ヶ所(既存のまま)	門扉	㊽	スチール製 W1885×H1800 1ヶ所	スチール製 W1885×H1800 1ヶ所(既存のまま)、下地調整(RB種)の上 DP(新設) 7ヶ所(既存のまま) 1ヶ所(撤去) L-45×45×4 H100 あと施工アナー M10 2本留(新設)	
背かご	ニ	ステンレス製 HL W700×D600×L6300 1ヶ所	ステンレス製 HL W700×D600×L6300 1ヶ所(取外し・再取付)	外壁改修概要				
煙突	ヒ	ステンレス製パイプ HL φ300 1ヶ所 ベースモルタル t=30(石綿含有率 ^レ #3みなし) 基礎:コンクリート打放	ステンレス製パイプ HL φ300 1ヶ所(既存のまま) 欠損部ベース外 t=30(撤去)、劣化部補修、エポキシ樹脂モルタルコテ押え t=30(新設) 基礎:劣化部補修、エポキシ樹脂モルタル金ゴテ t=3(新設)	記号		劣化部分	改修工法	全体数量
スチールドア	ヘ	スチール製 t=1.6 1200×2200 OP 1ヶ所 スチール製 t=1.6 1700×1900 OP 1ヶ所 スチール製 t=1.6 1200×1900 OP 1ヶ所	既存スチール製 t=1.6 OP 1200×2200 1ヶ所、1700×1900 1ヶ所、1200×1900 1ヶ所(既存のまま) ドアスチール錆腐食部分:スチールプレート t=1.6 520×140 補強溶接止(新設) 下地調整(RB種)の上 DP 両面塗(新設)	ひび割れ (W<0.2mm未満)	---	シール工法:パテ状エポキシ樹脂	34.75m	
換気扇フード	ト	ステンレス製 W350×D350×H350 HL 5ヶ所 ステンレス製 W330×D400×H330 HL 2ヶ所 ステンレス製 W300×D400×H300 HL 1ヶ所 ステンレス製 W250×D250×H250 HL 2ヶ所	ステンレス製 W350×D350×H350 HL 5ヶ所(既存のまま) シーリング 10×10 MS-2(撤去・新設) ステンレス製 W330×D400×H330 HL 2ヶ所(既存のまま) シーリング 10×10 MS-2(撤去・新設) ステンレス製 W300×D400×H300 HL 1ヶ所(既存のまま) シーリング 10×10 MS-2(撤去・新設) ステンレス製 W250×D250×H250 HL 2ヶ所(既存のまま) シーリング 10×10 MS-2(撤去・新設)	横ひび割れ (0.2mm<W<1.0mm以下)	---	樹脂注入工法:自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	14.28m	
通気口	チ	金属プレート 70×100 2ヶ所	金属プレート 70×100 2ヶ所(既存のまま)	縦・斜めひび割れ (0.2mm<W<1.0mm以下)	---	Uカットシール材充填工法	115.15m	
通気管	リ	スチールパイプ φ25 L1000 1ヶ所	スチールパイプ φ25 L1000 1ヶ所(既存のまま)	欠	■	コンクリート欠損部 (100×長さ) 幅100以上は図示特記	充填工法:ポリマーセメントモルタル補修	
FF排気筒	レ	スチール製 2ヶ所	スチール製 2ヶ所(既存のまま)	爆	■	コンクリート爆裂部鉄筋露出 (100×長さ) 幅100以上は図示特記	充填工法:鉄筋防錆処理の上、エポキシ樹脂モルタル補修	
オイルタンク警報装置ボックス	ロ	スチール製 W170×D100×H170 1ヶ所	スチール製 W170×D100×H170 1ヶ所(既存のまま)	基礎コンクリート素地 (浮き部m)	■	基礎コンクリート素地 (浮き部m)	劣化部改修後、エポキシ樹脂モルタル補修	
				基礎モルタル (はがれ部m)	■	基礎モルタル (はがれ部m)	劣化部改修後、エポキシ樹脂モルタル補修	

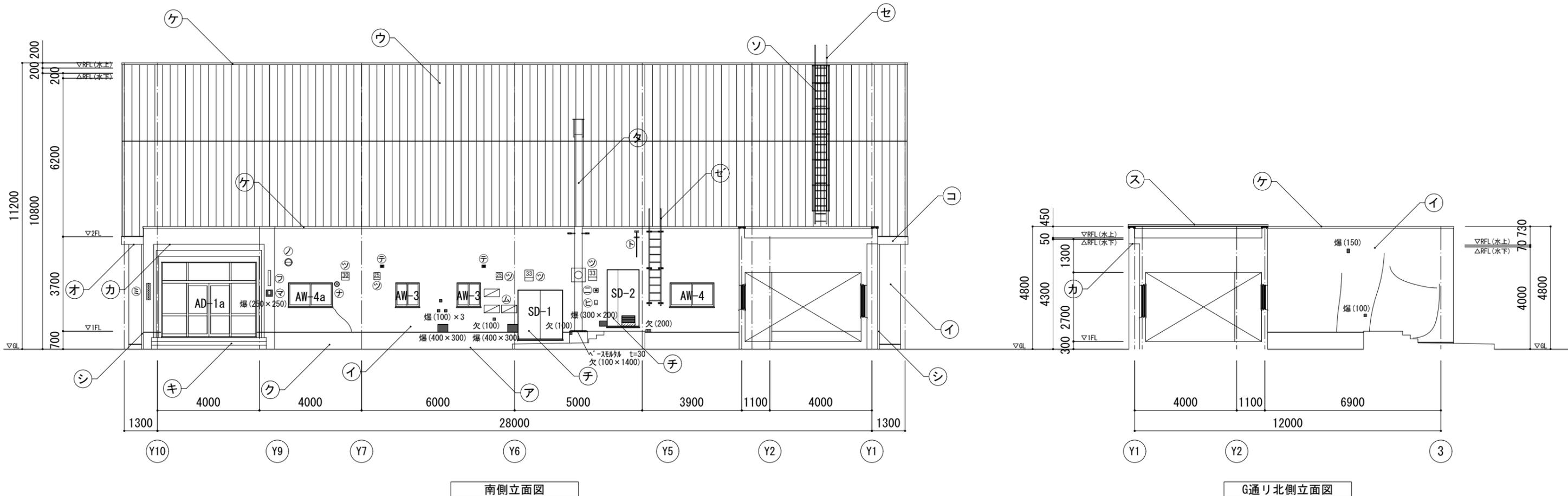


西側立面図



北側立面図

日付	工事名 常盤中学校屋内運動場外部改修工事	図面名称 立面図2 (改修前・後)	縮尺 S=1:150	 一級建築士事務所 早川文雄建築設計室	一級建築士事務所登録(石)第2717号 一級建築士登録(大臣)第200231号 早川文雄	製図	承認	図面番号 A-14
----	-------------------------	----------------------	---------------	---	--	----	----	--------------



南側立面図

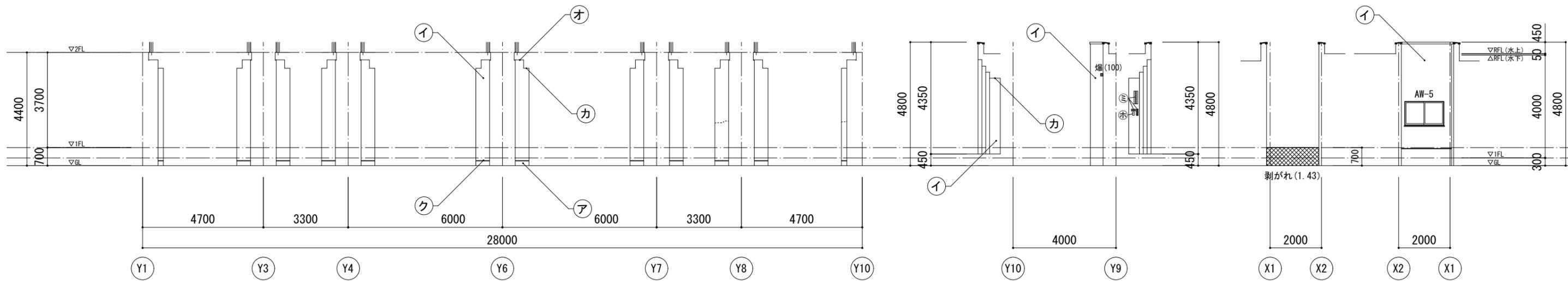
G通り北側立面図

凡例			
記号	現状	改修概要	数量
欠	コンクリート欠損部 (100×100)	充填工法: ポリマーセメントモルタル補修	8ヶ所
	コンクリート欠損部 (100×200)	充填工法: ポリマーセメントモルタル補修	2ヶ所
	コンクリート欠損部 (100×500)	充填工法: ポリマーセメントモルタル補修	1ヶ所
	コンクリート欠損部 (100×1400)	充填工法: ポリマーセメントモルタル補修	1ヶ所
爆	コンクリート爆裂部鉄筋露出 (100×100)	充填工法: 鉄筋防錆処理の上、エポキシ樹脂モルタル補修	10ヶ所
	コンクリート爆裂部鉄筋露出 (100×150)	充填工法: 鉄筋防錆処理の上、エポキシ樹脂モルタル補修	2ヶ所
	コンクリート爆裂部鉄筋露出 (150×150)	充填工法: 鉄筋防錆処理の上、エポキシ樹脂モルタル補修	2ヶ所
	コンクリート爆裂部鉄筋露出 (150×200)	充填工法: 鉄筋防錆処理の上、エポキシ樹脂モルタル補修	6ヶ所
	コンクリート爆裂部鉄筋露出 (150×300)	充填工法: 鉄筋防錆処理の上、エポキシ樹脂モルタル補修	4ヶ所
	コンクリート爆裂部鉄筋露出 (250×250)	充填工法: 鉄筋防錆処理の上、エポキシ樹脂モルタル補修	1ヶ所
	コンクリート爆裂部鉄筋露出 (300×200)	充填工法: 鉄筋防錆処理の上、エポキシ樹脂モルタル補修	1ヶ所
	コンクリート爆裂部鉄筋露出 (400×300)	充填工法: 鉄筋防錆処理の上、エポキシ樹脂モルタル補修	2ヶ所
	基礎コンクリート素地 (浮き部m ²)	劣化部改修後、エポキシ樹脂モルタル補修	1.6m ²
	基礎モルタル (はがれ部m ²)	劣化部改修後、エポキシ樹脂モルタル補修	1.4m ²

ガラス廻り シーリングリスト(5×5 撤去・新設) 種類: SR-1 シリコーン系					
建具記号	建具寸法(W×H)	施工部位	ヶ所	1ヶ所当り シーリング長さ(m)	シーリング長さ(m)
AD-1a	3652×2885	7#ミ・ガラス	1	39.382	39.382
AD-3	4000×1900	7#ミ・ガラス	2	26.760	53.520
AW-1a	5000×3600	7#ミ・ガラス	7	64.128	448.896
AW-2a	5000×3600	7#ミ・ガラス	7	64.128	448.896
AW-3	900×900	7#ミ・ガラス	2	4.800	9.600
AW-4	1700×900	7#ミ・ガラス	1	6.400	6.400
AW-4a	1700×900	7#ミ・ガラス	1	6.400	6.400
AW-5	1500×900	7#ミ・ガラス	4	6.000	24.000
AW-5'	1500×900	7#ミ・ガラス	1	6.000	6.000
AW-6	3470×1200	7#ミ・ガラス	1	15.200	15.200
AW-206	3470×1200	7#ミ・ガラス	1	15.200	15.200

ADの既存ガラス留めシーリング(撤去・新設)
AWの既存ガラス留めガスケット見えかき撤去後、シーリング(新設)

建具廻り シーリングリスト(15×10 撤去・新設) 種類: MS-2 変成シリコーン系					
建具記号	枠外寸法(W×H)	施工部位	ヶ所	1ヶ所当り シーリング長さ(m)	シーリング長さ(m)
SD-1	1760×1960	四方・水切	1	5.480	5.480
SD-2	1260×2260	四方・水切	1	8.300	8.300
SD-16A	1260×1960	四方・水切	1	7.700	7.700
AD-1a	3682×2900	三方	1	9.482	9.482
AD-3	4030×1935	四方・水切	2	15.960	15.960
AW-1a	5000×3700	上下・側面	7+2	10.000×7+3.700×2	77.400
AW-2a	5000×3700	上下・側面	7+2	10.000×7+3.700×2	77.400
AW-3	930×955	四方・水切	2	4.700	9.400
AW-4	1730×955	四方・水切	1	7.100	7.100
AW-4a	1730×955	四方・水切	1	7.100	7.100
AW-5	1530×955	四方・水切	4	6.500	26.000
AW-5'	1530×1010	四方・水切	1	5.600	5.600
AW-6	3500×1255	四方・水切	1	13.010	13.010
AW-206	3500×1255	四方・水切	1	13.010	13.010

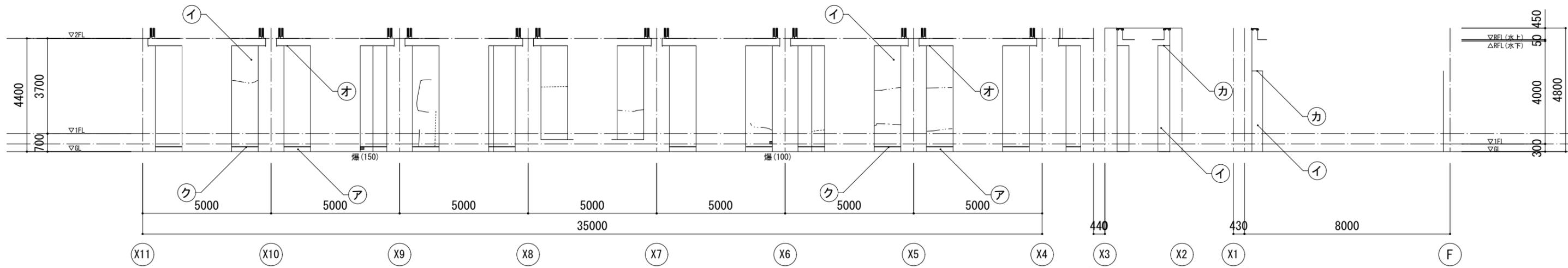


X11通り 立面図

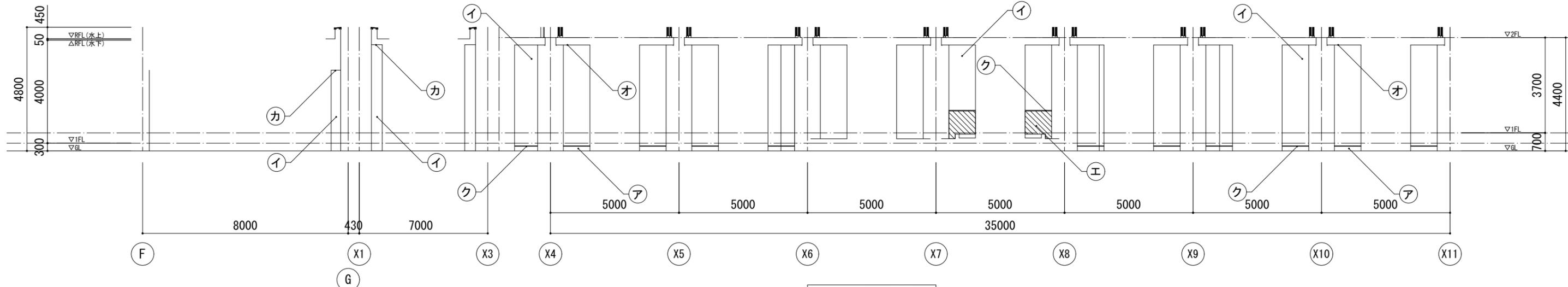
X2通り 立面図

油庫* - 東側立面図

渡り廊下 西側立面図

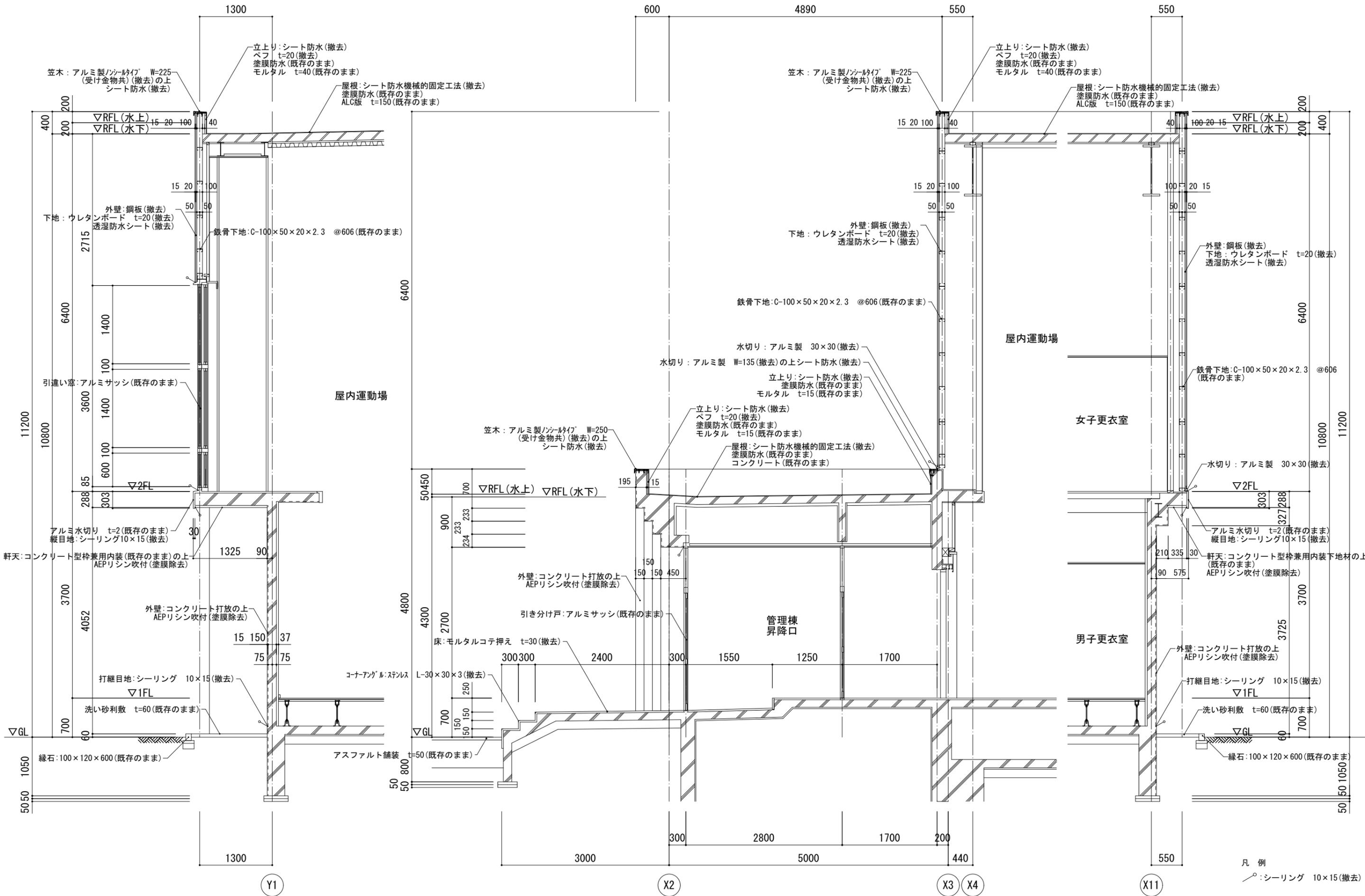


Y10通り 立面図



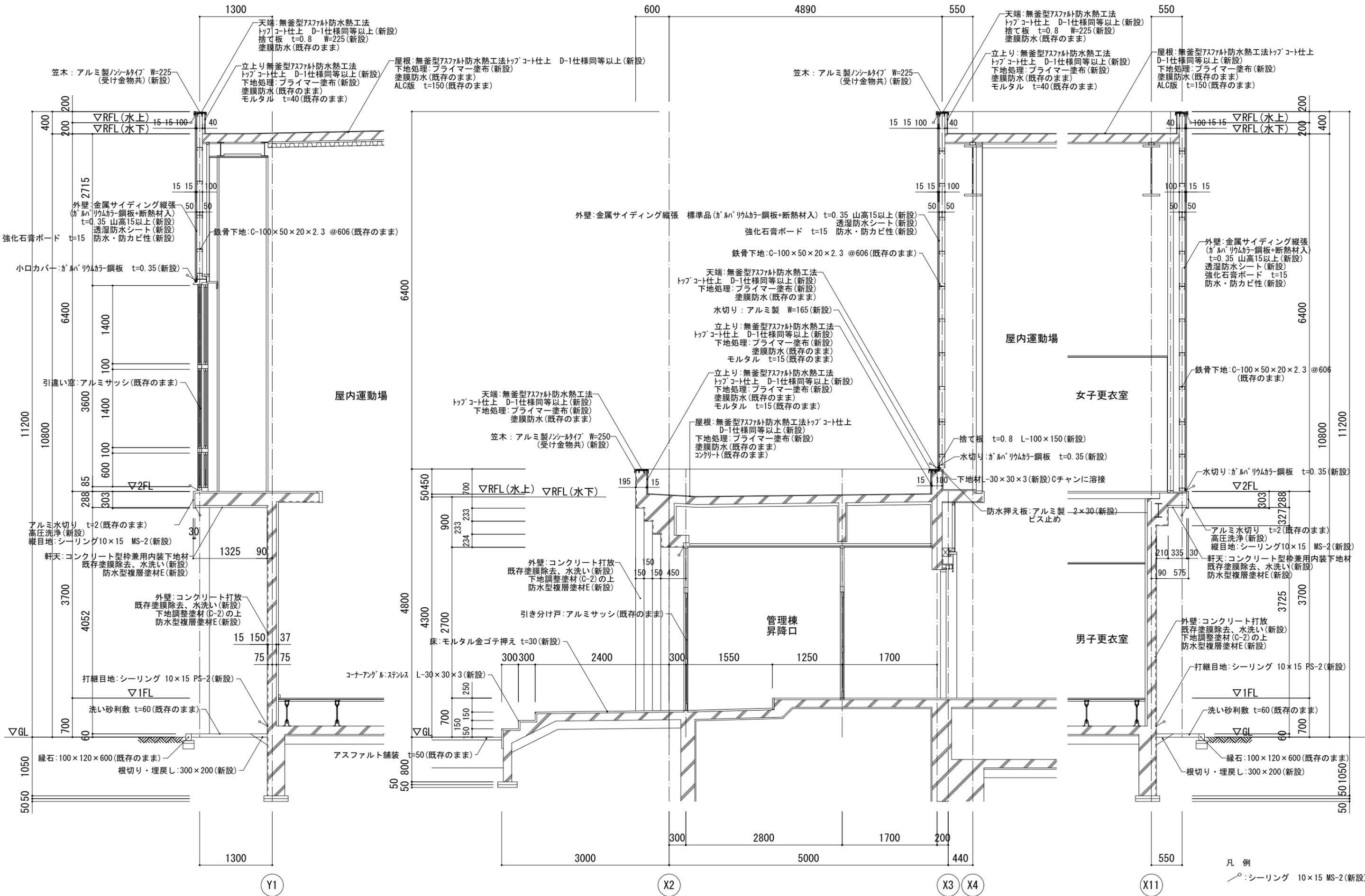
Y1通り 立面図

日付	工事名 常盤中学校屋内運動場外部改修工事	図面名称 立面図4 (改修前・後)	縮尺 S=1:150	 一級建築士事務所 早川文雄建築設計室	一級建築士事務所登録 (石) 第2717号 一級建築士登録 (大臣) 第200231号 早川文雄	製図	承認	図面番号 A-16
----	-------------------------	----------------------	---------------	---	--	----	----	--------------

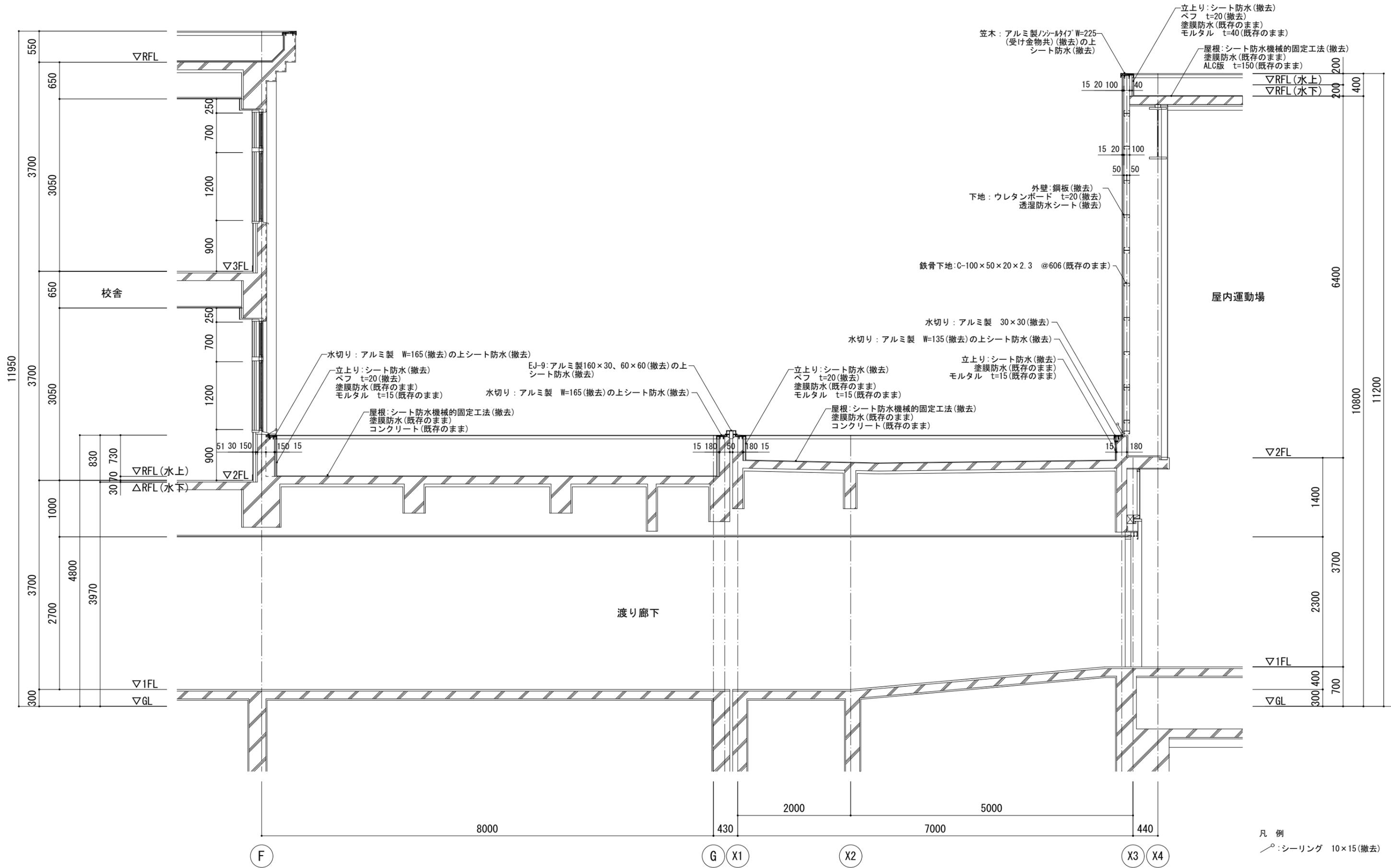


凡例
○: シーリング 10×15 (撤去)

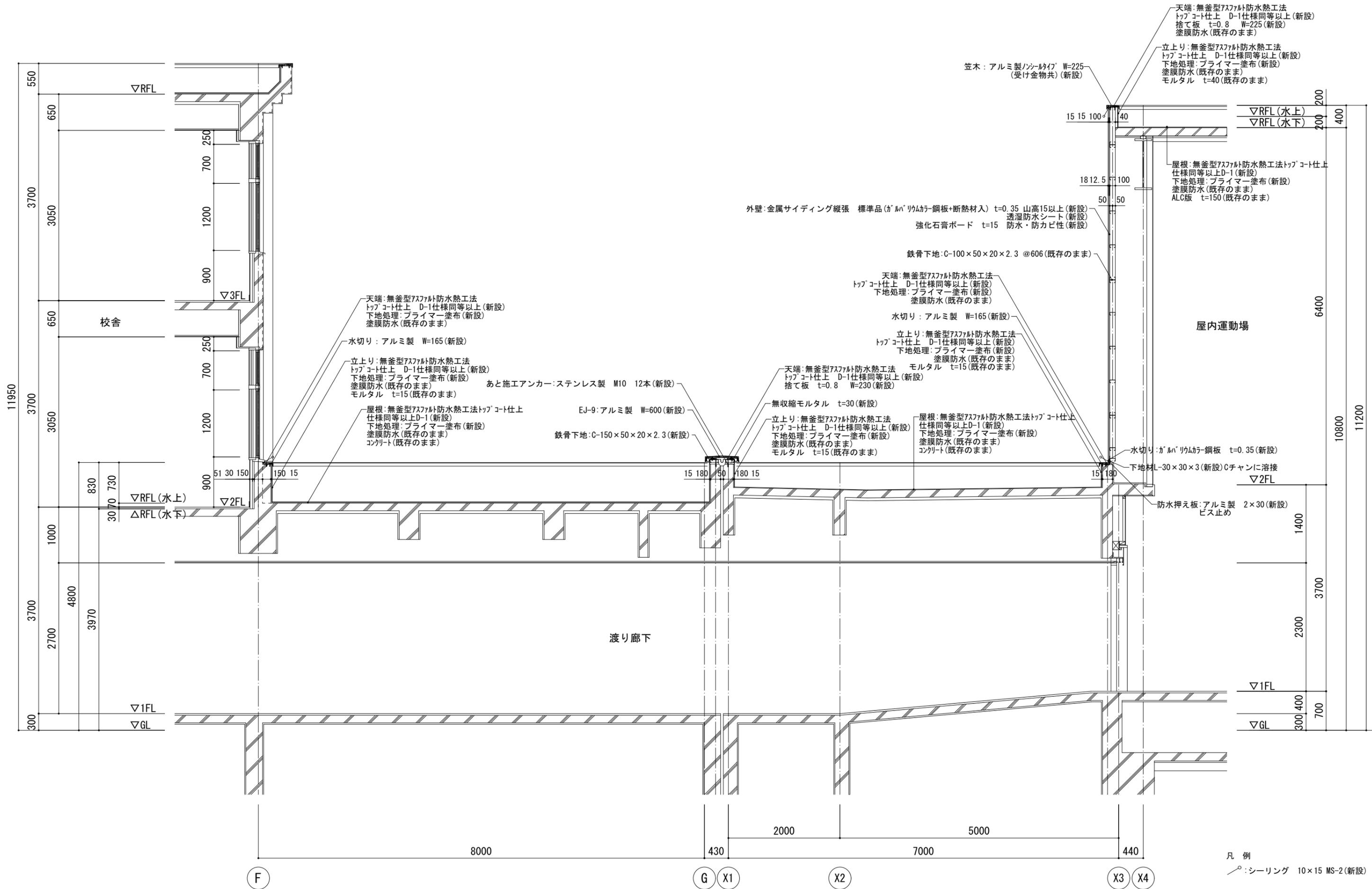
日付	工事名	図面名称	縮尺	 一級建築士事務所 早川文雄建築設計室	一級建築士事務所登録 (石) 第2717号 一級建築士登録 (大臣) 第200231号 早川文雄	製図	承認	図面番号
	常盤中学校屋内運動場外部改修工事	矩計図 1 (改修前)	S=1:60					A-17



日付	工事名	図面名称	縮尺	一級建築士事務所 早川文雄建築設計室	一級建築士事務所登録(石)第2717号 一級建築士登録(大臣)第200231号 早川文雄	製図	承認	図面番号
	常盤中学校屋内運動場外部改修工事	矩計図1(改修後)	S=1:60					A-18

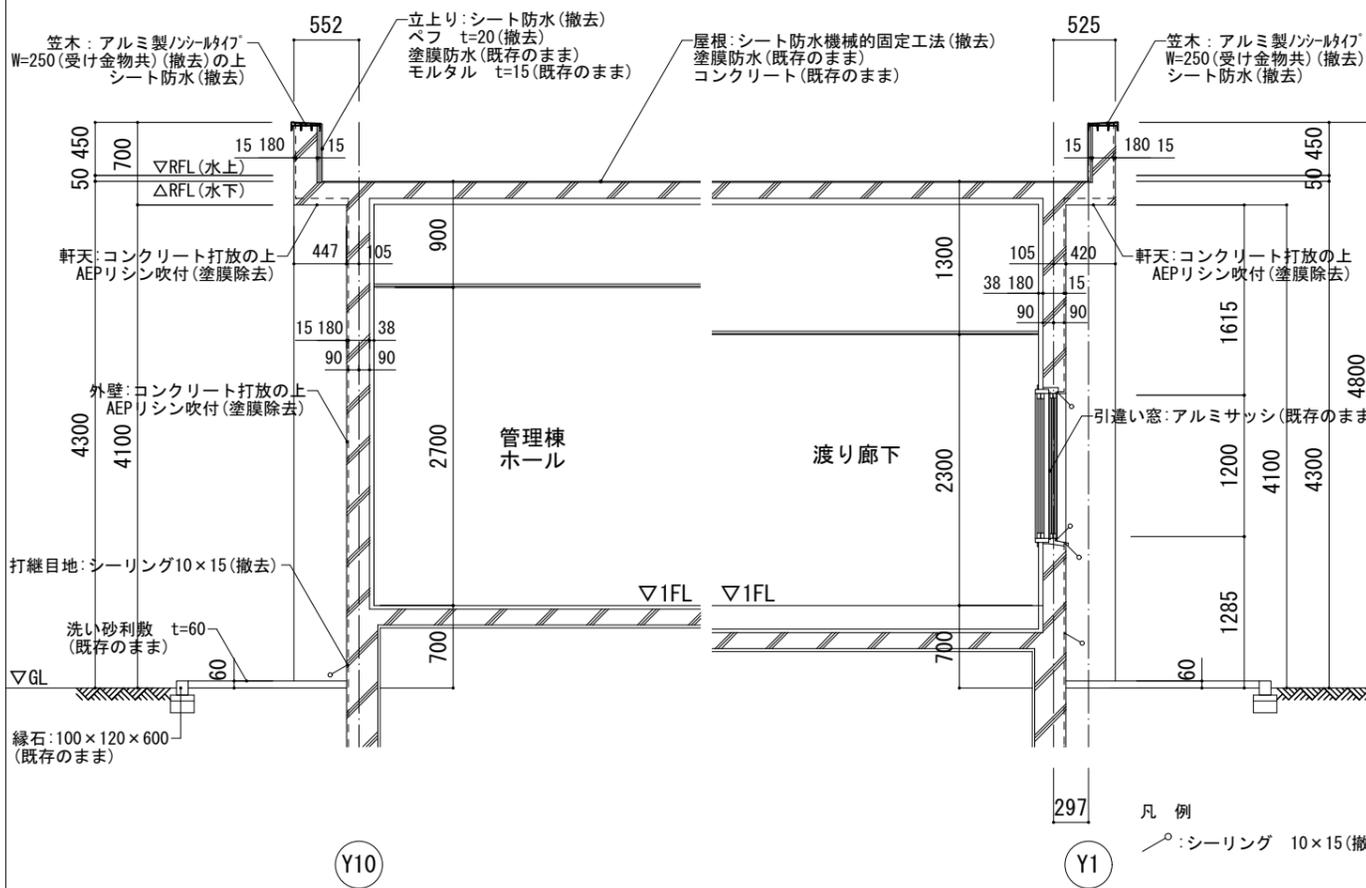


日付	工事名 常盤中学校屋内運動場外部改修工事	図面名称 矩計図2 (改修前)	縮尺 S=1:60	 一級建築士事務所 早川文雄建築設計室	一級建築士事務所登録 (石) 第2717号 一級建築士登録 (大臣) 第200231号 早川文雄	製図	承認	図面番号 A-19
----	-------------------------	--------------------	--------------	---	--	----	----	--------------

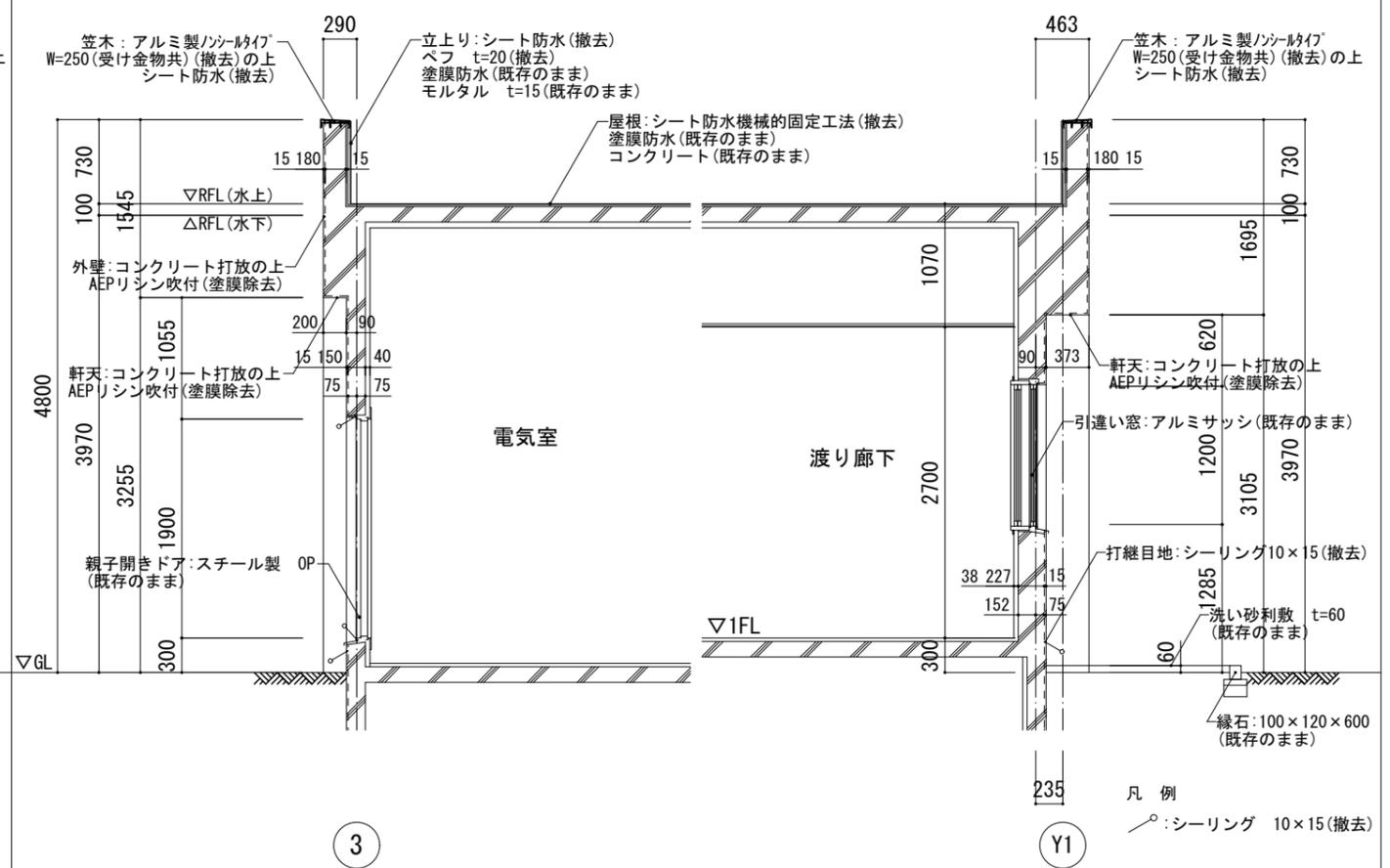


日付	工事名	図面名称	縮尺	 一級建築士事務所 早川文雄建築設計室	一級建築士事務所登録 (石) 第2717号 一級建築士登録 (大臣) 第200231号 早川文雄	製図	承認	図面番号
	常盤中学校屋内運動場外部改修工事	矩計図2 (改修後)	S=1:60					A-20

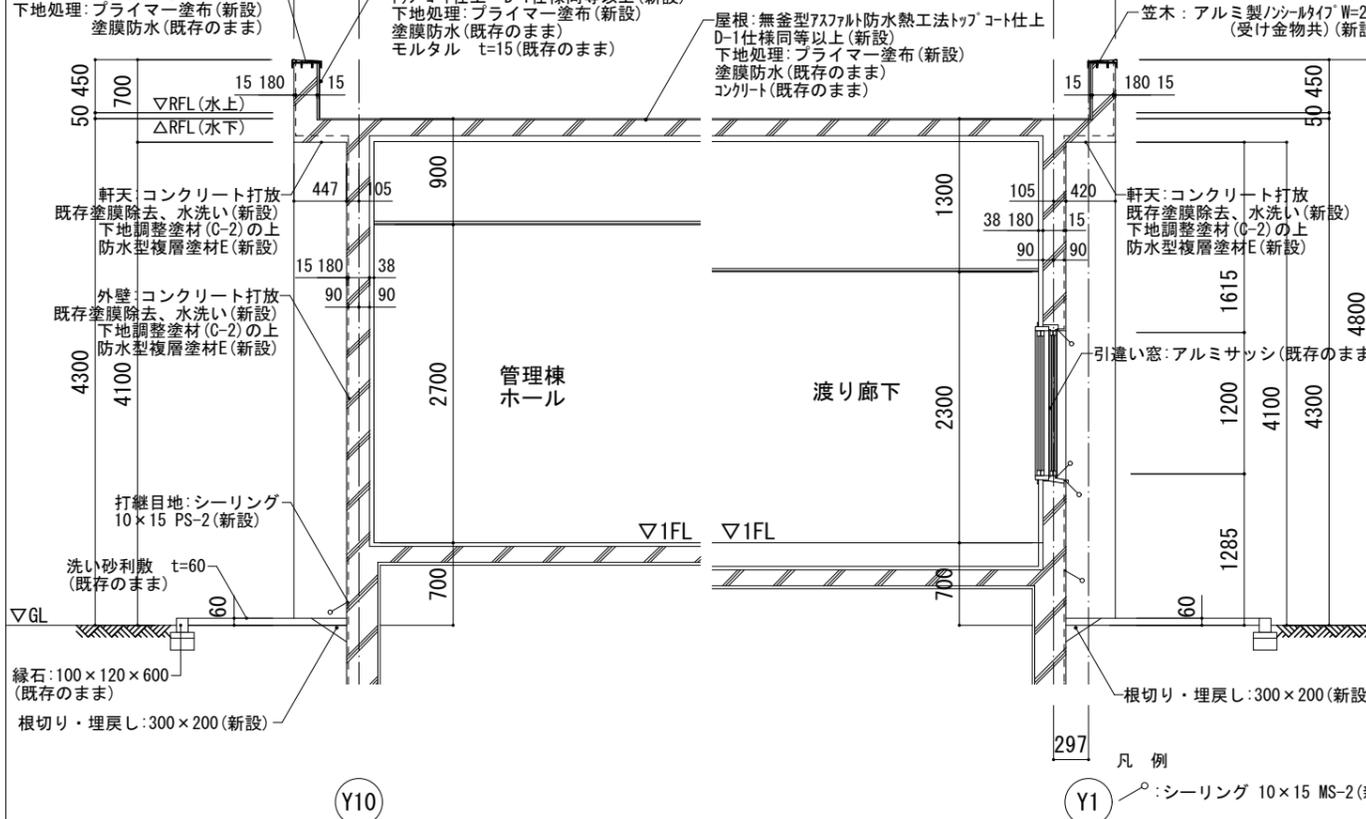
管理棟：ホール～渡り廊下 矩計図



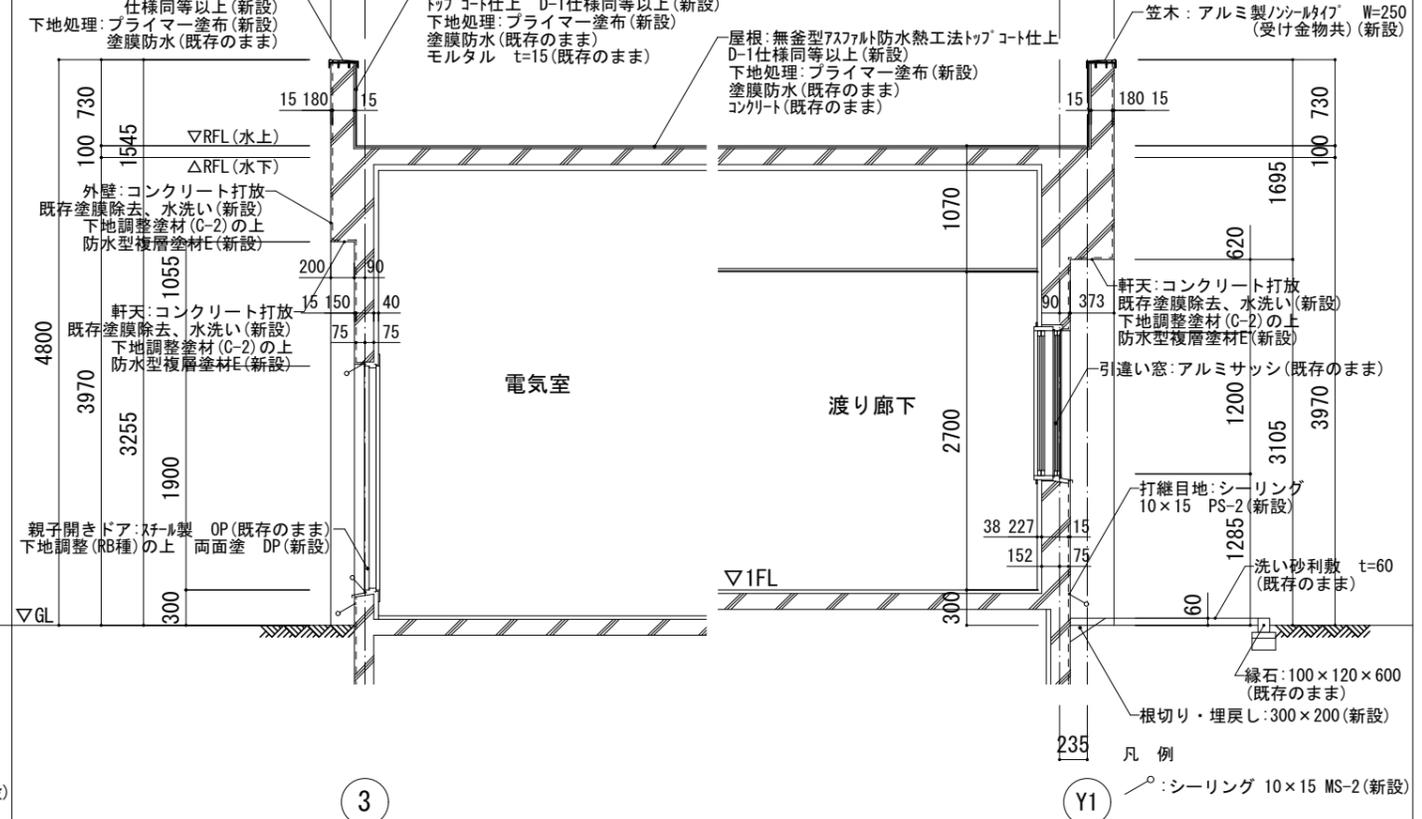
電気室～渡り廊下 矩計図



管理棟：ホール～渡り廊下 矩計図

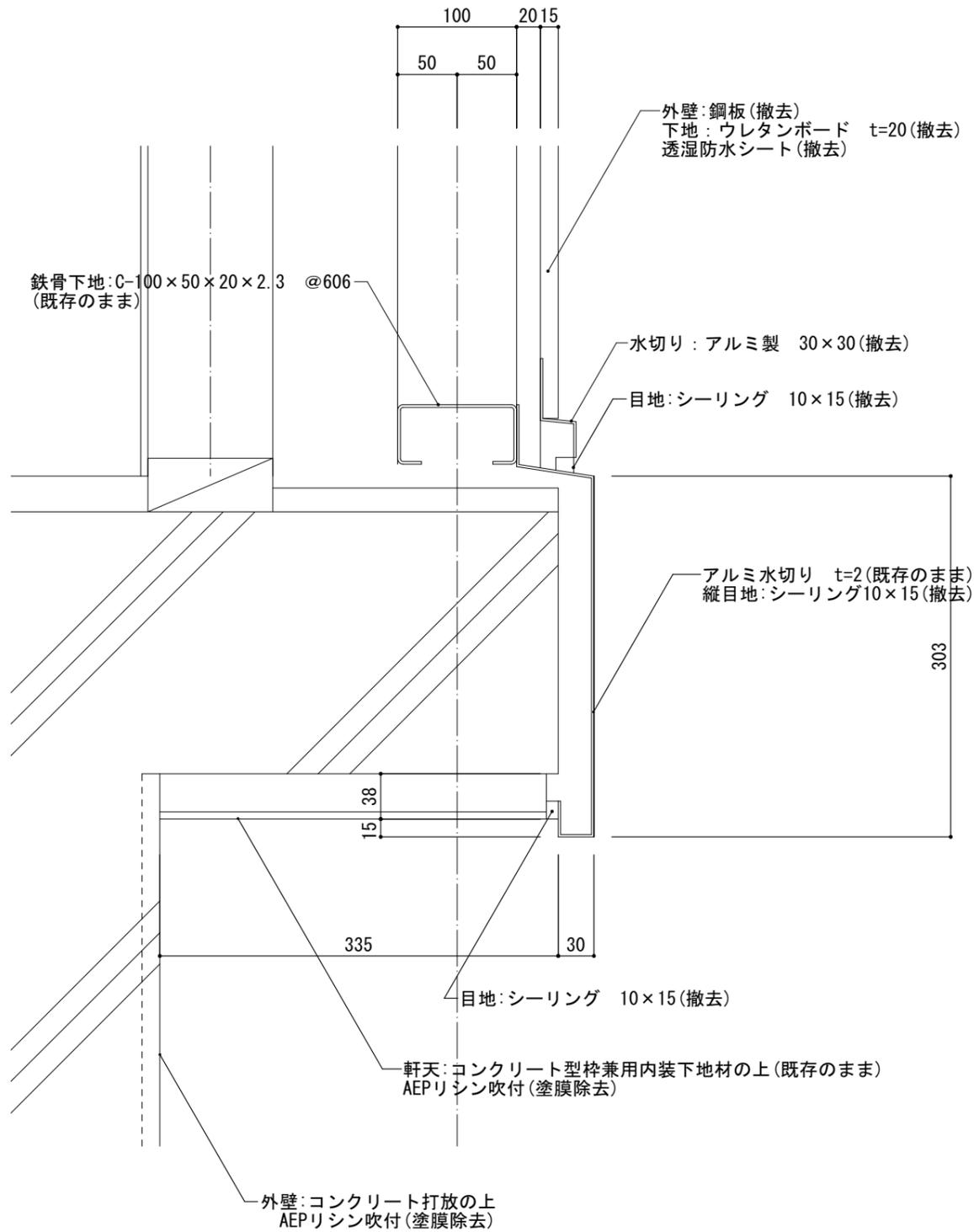


電気室～渡り廊下 矩計図

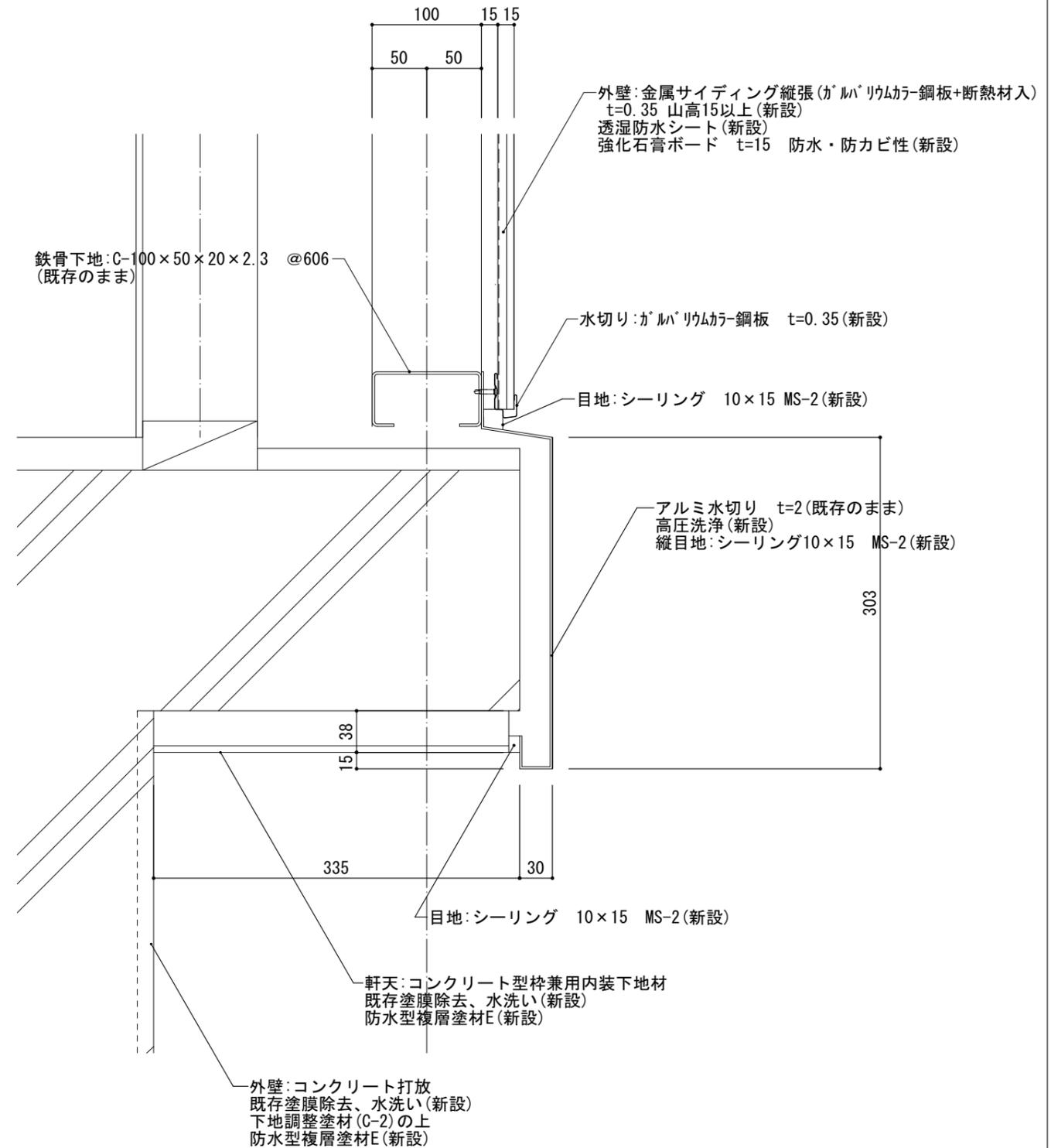


外壁と水切り取り合い部分詳細図

改修前

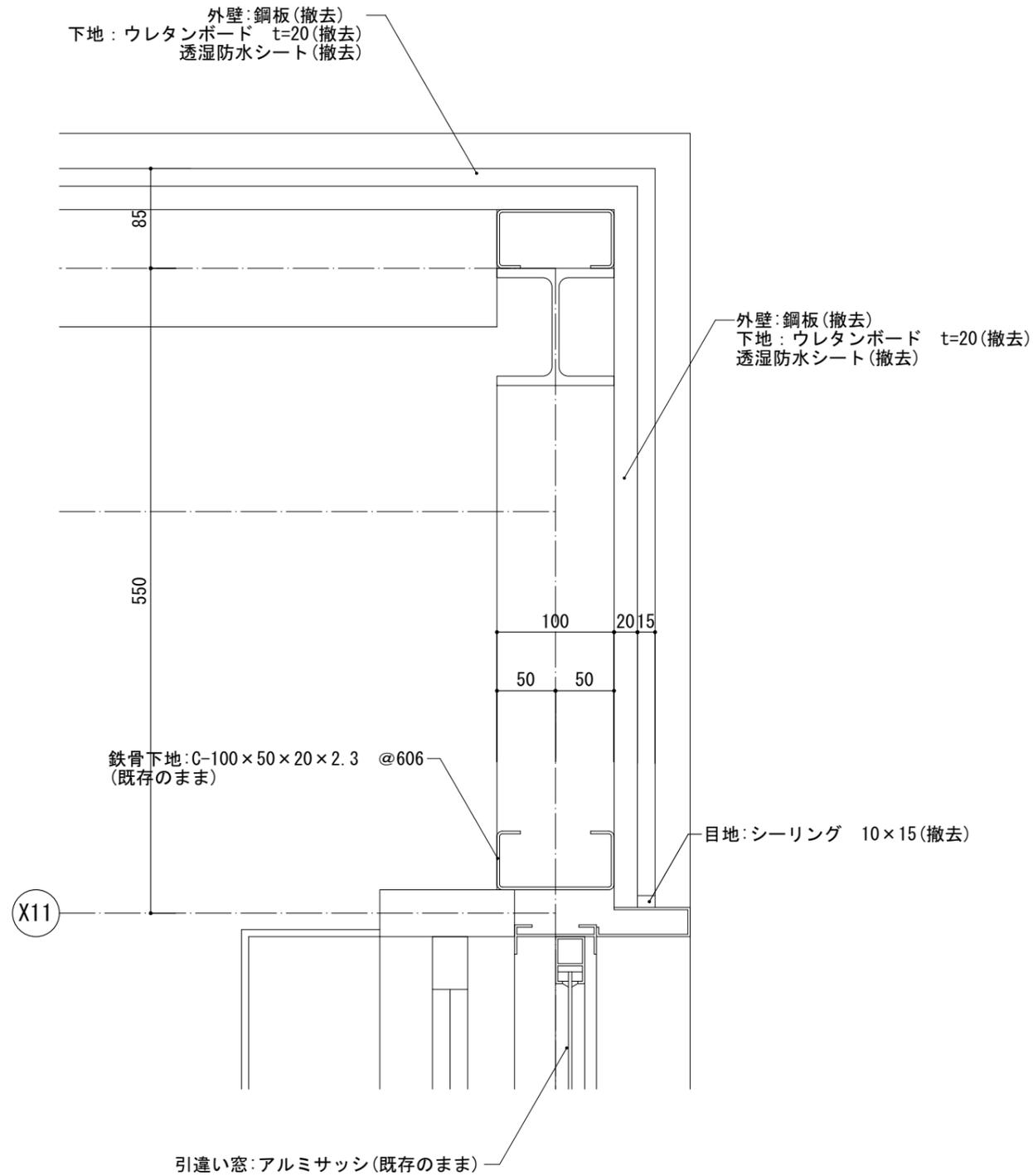


改修後

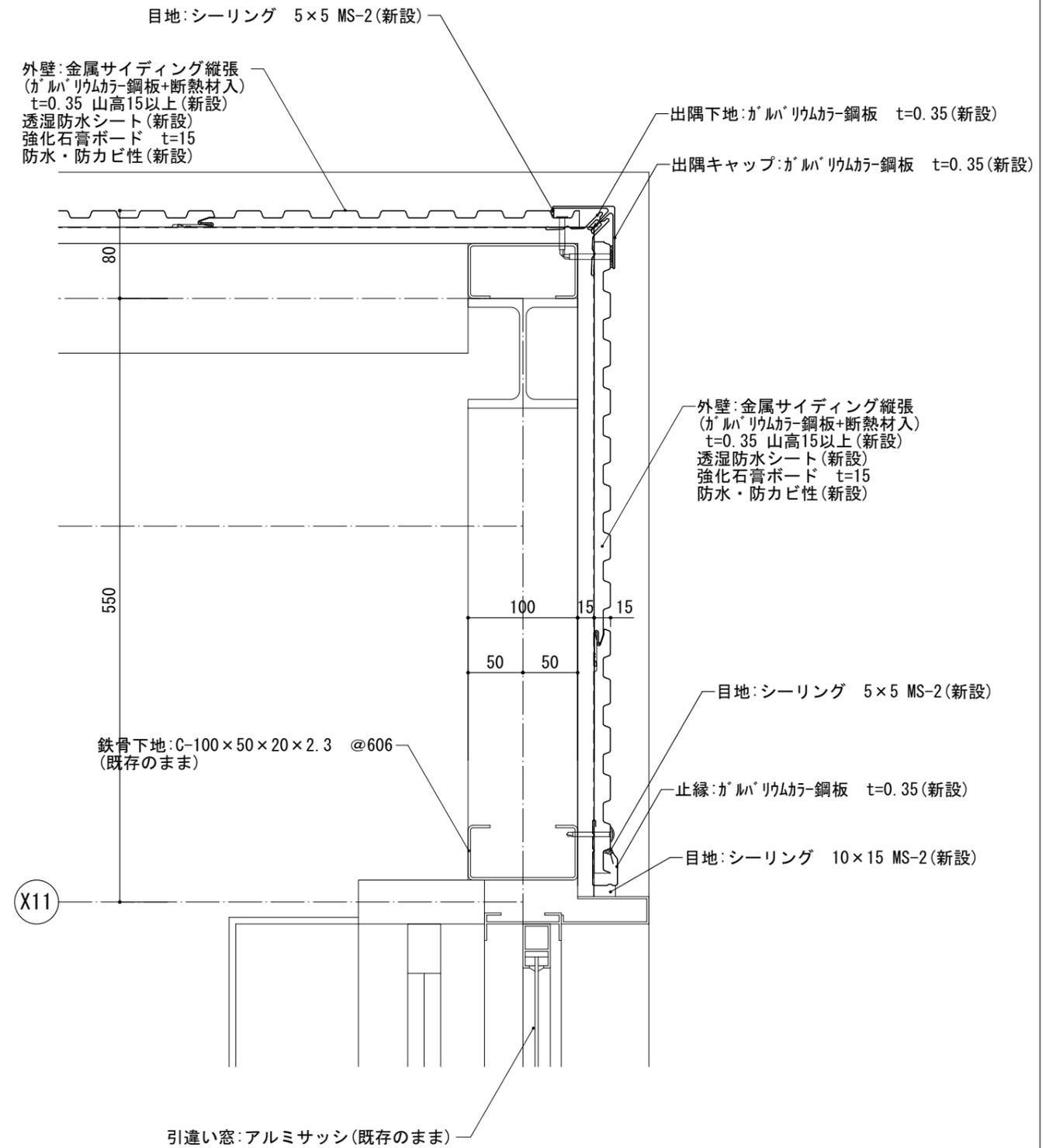


外壁とアルミサッシ及び外壁コーナー取り合い部分詳細図

改修前

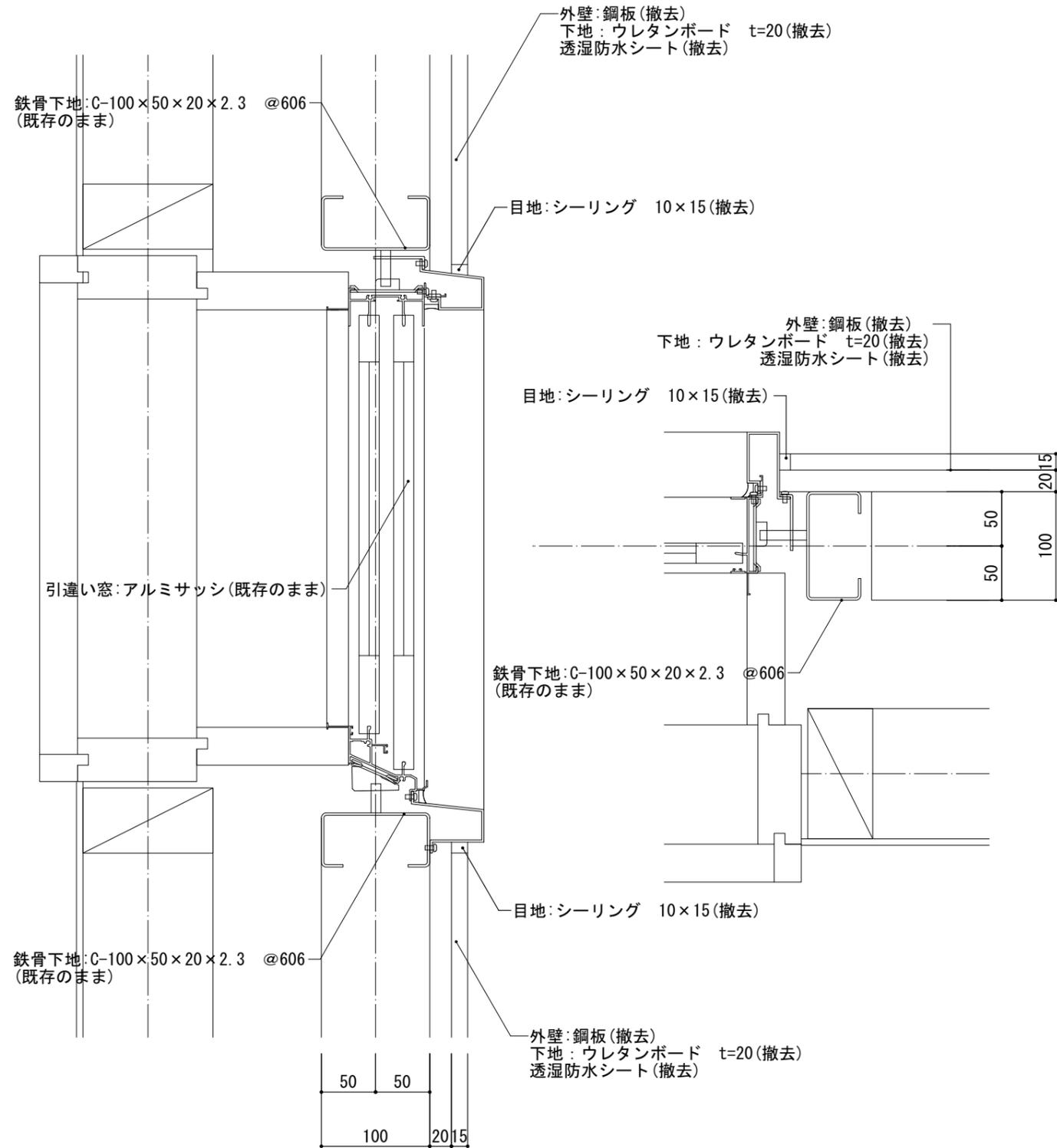


改修後

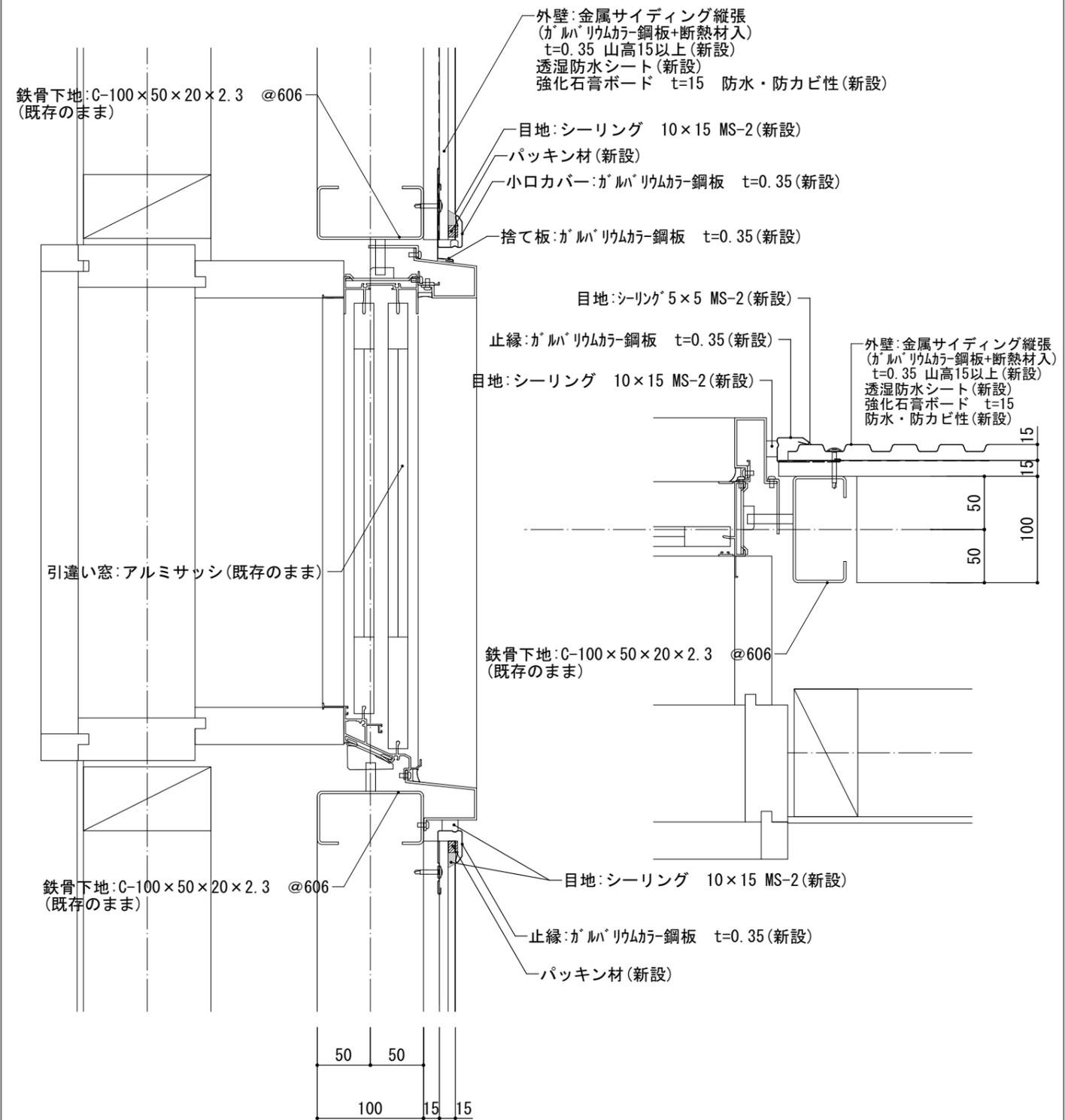


外壁とアルミサッシ取り合い部分詳細図

改修前

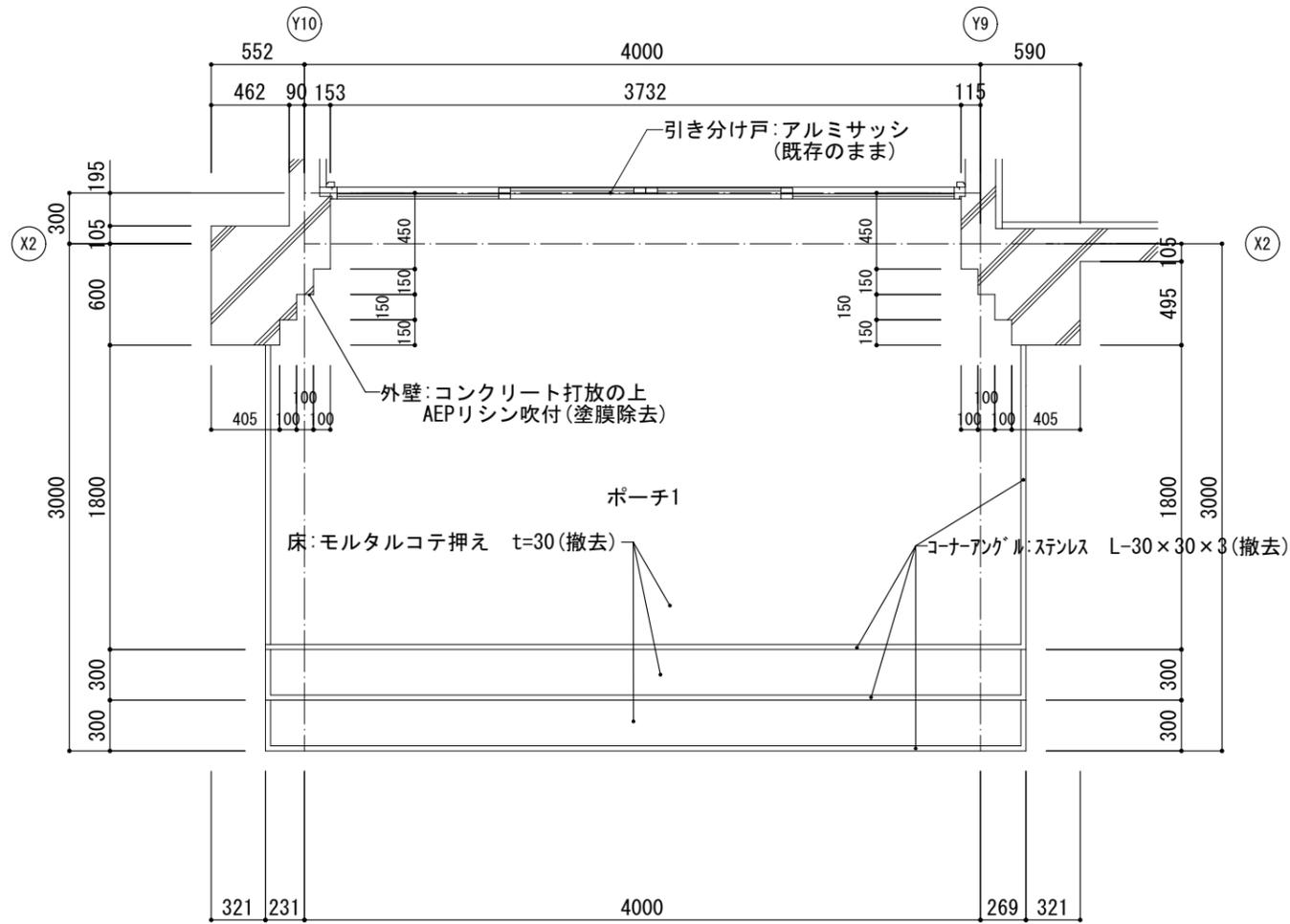


改修後

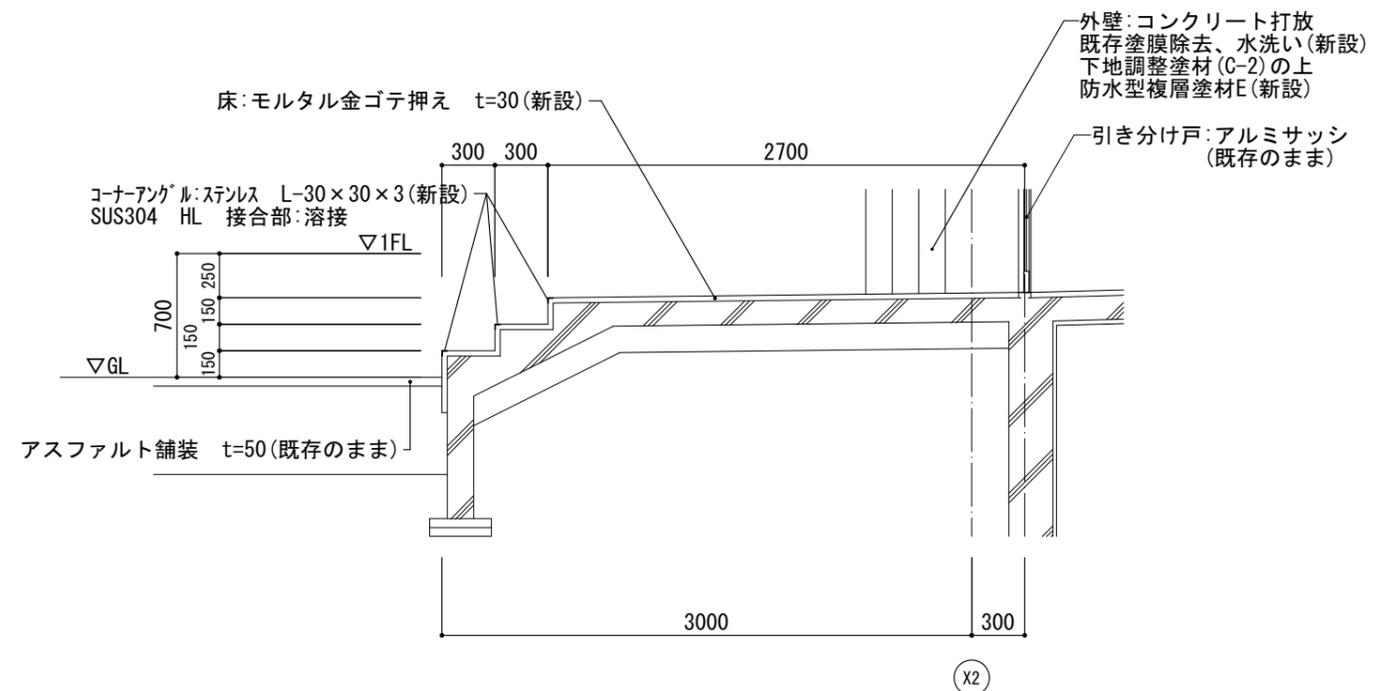
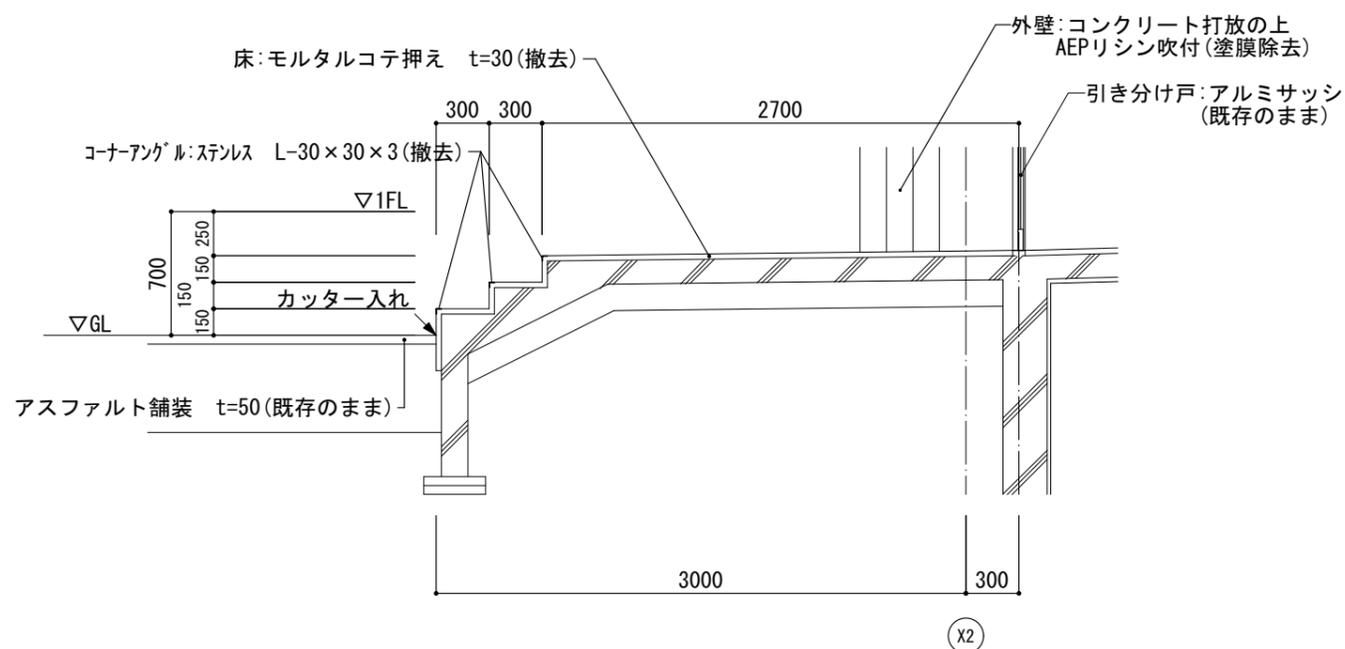
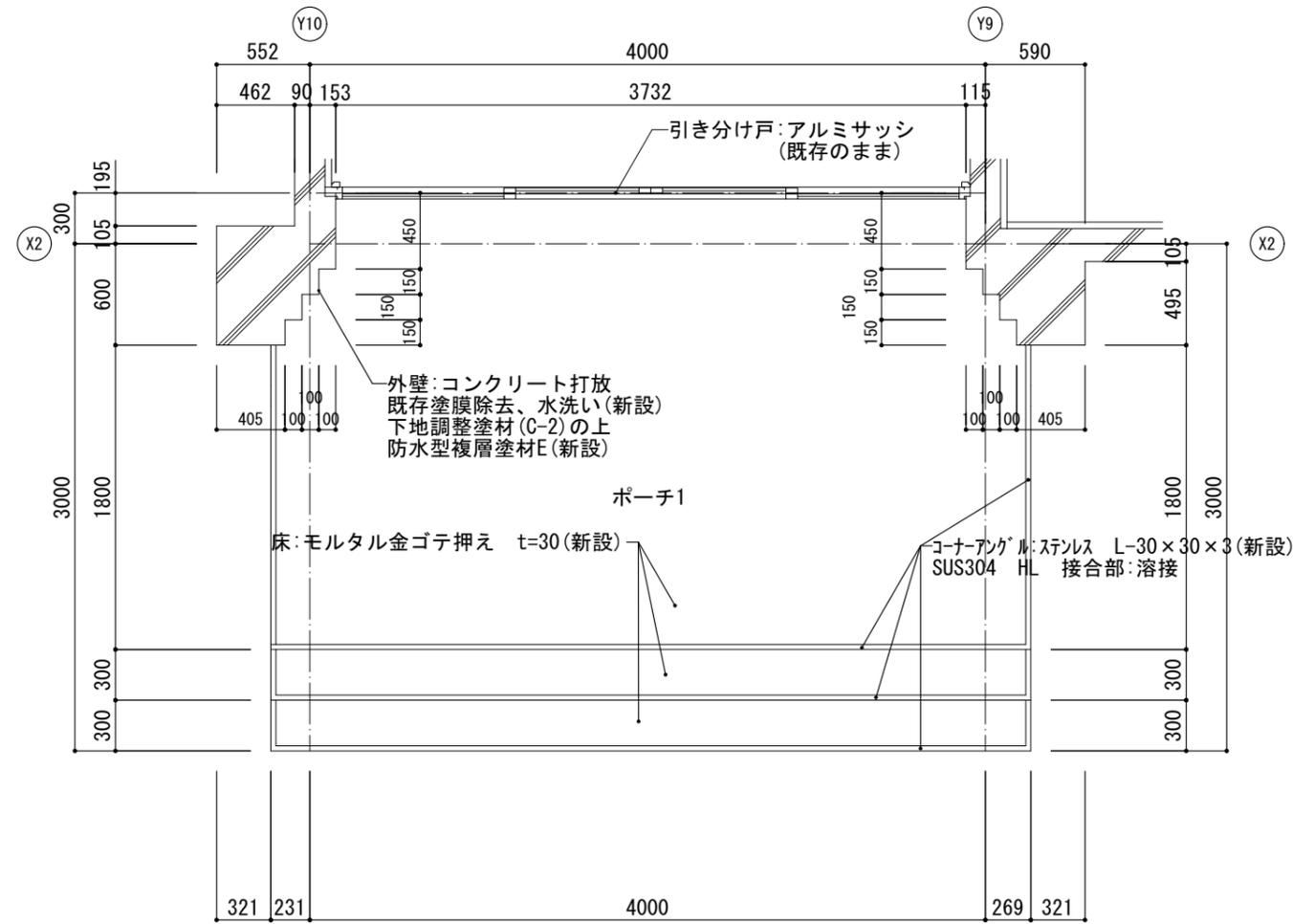


ポーチ1部分詳細図

改修前

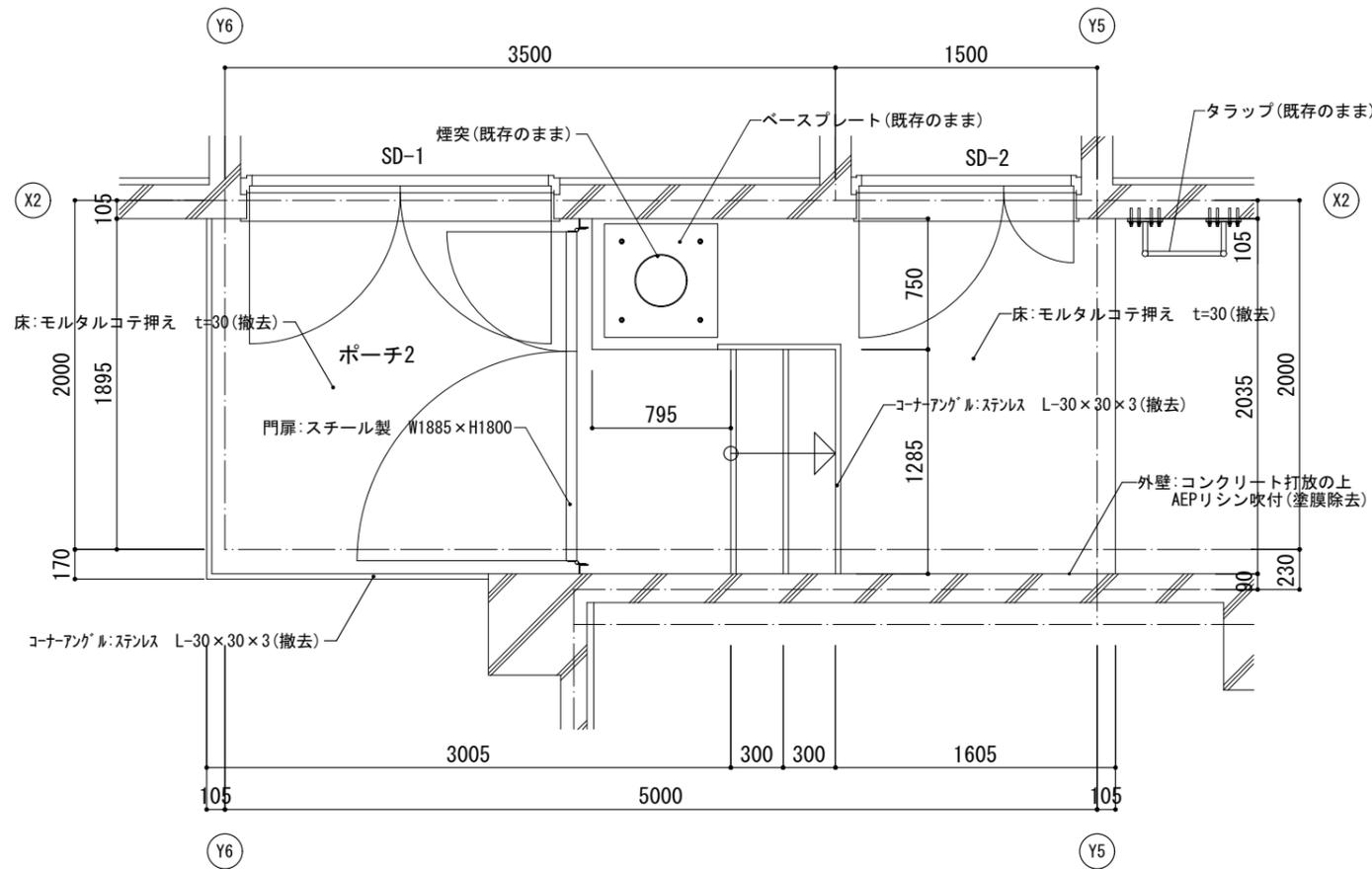


改修後

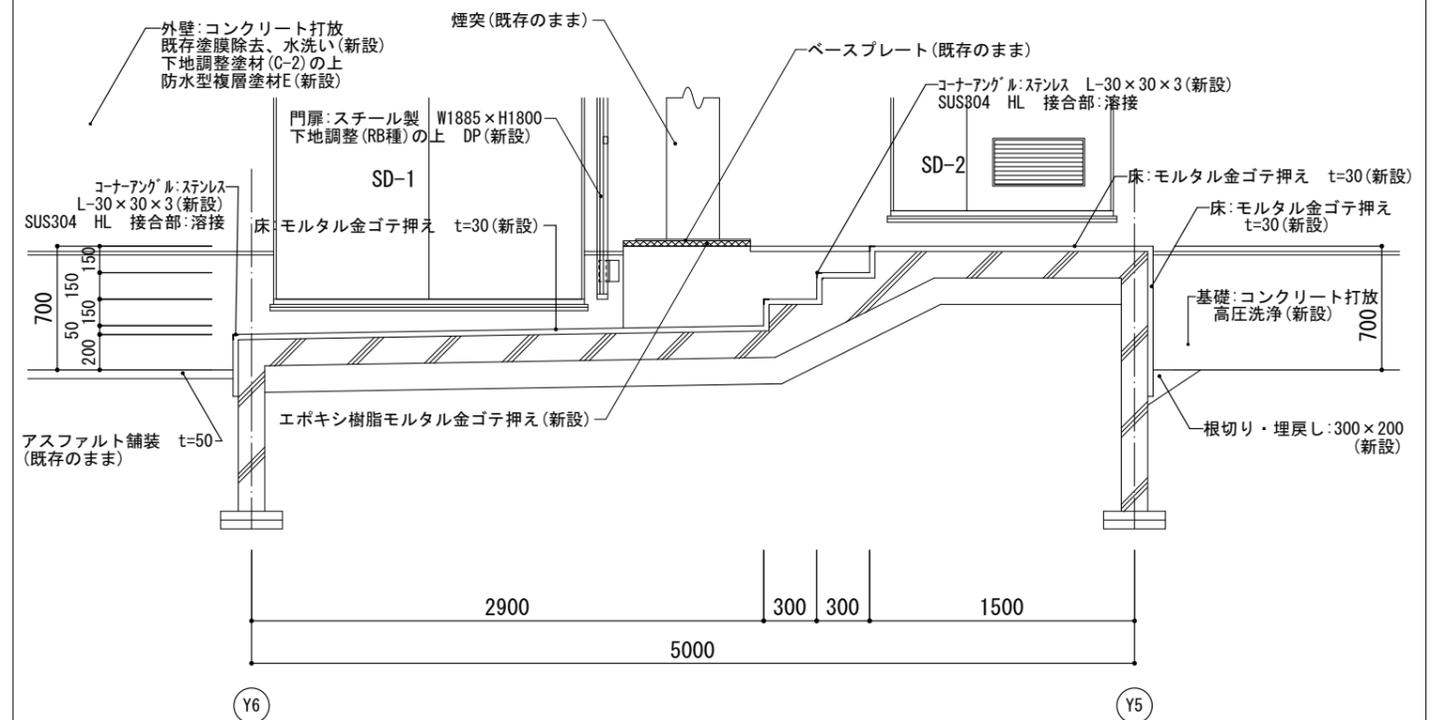
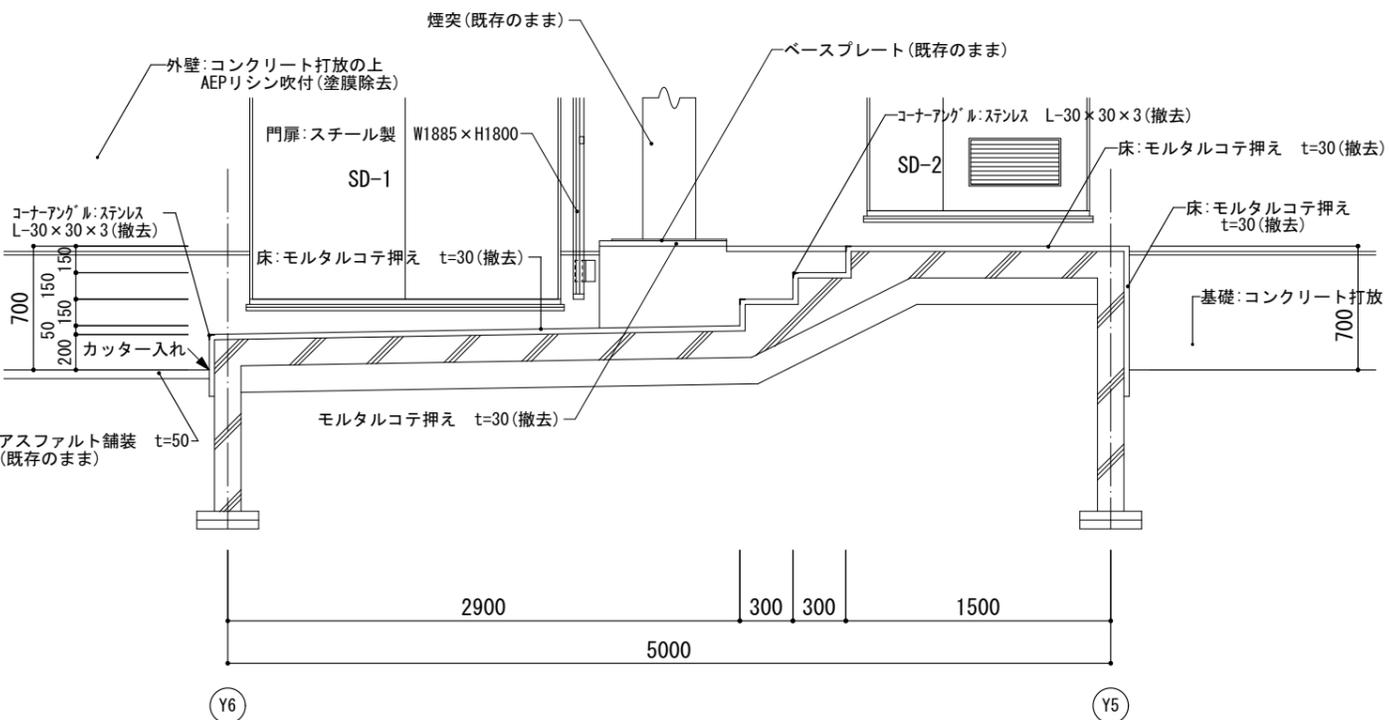
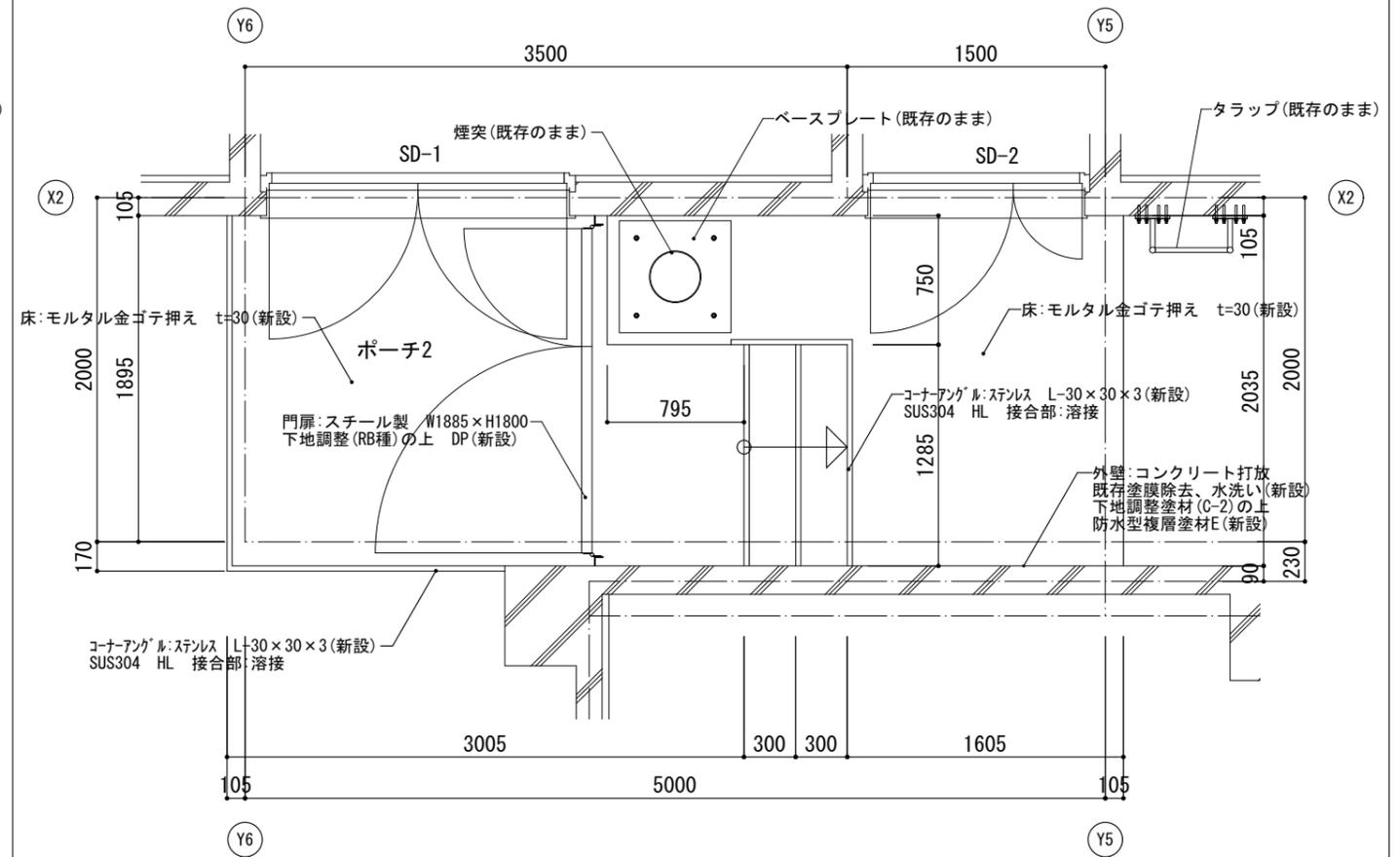


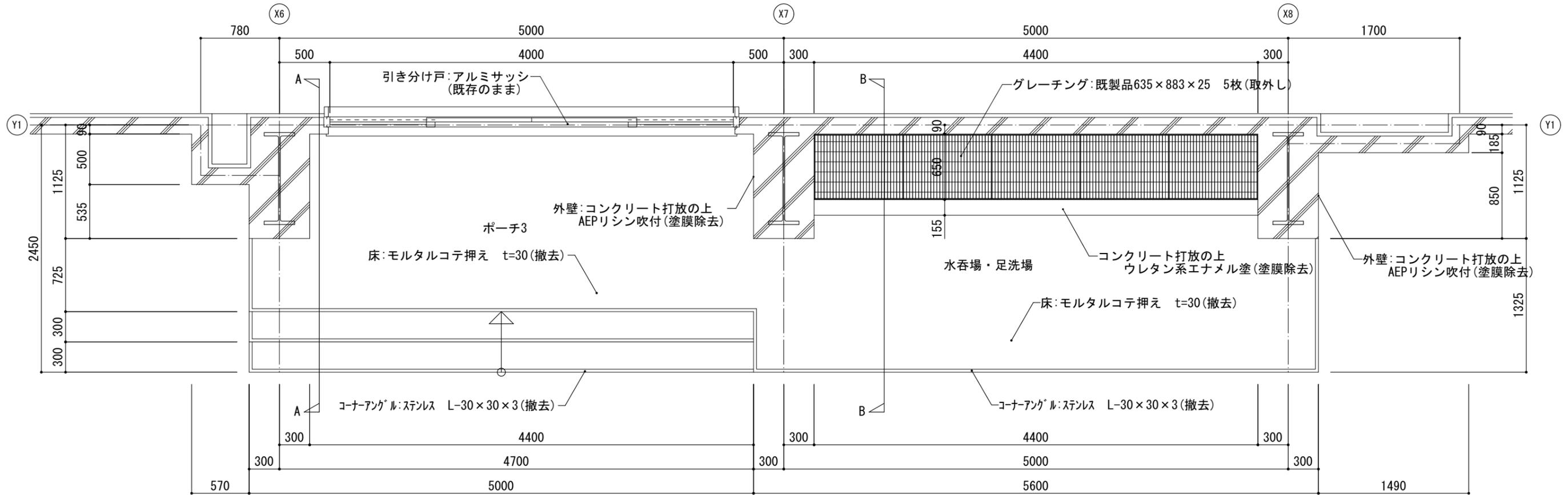
ポーチ 1 部分詳細図

改修前

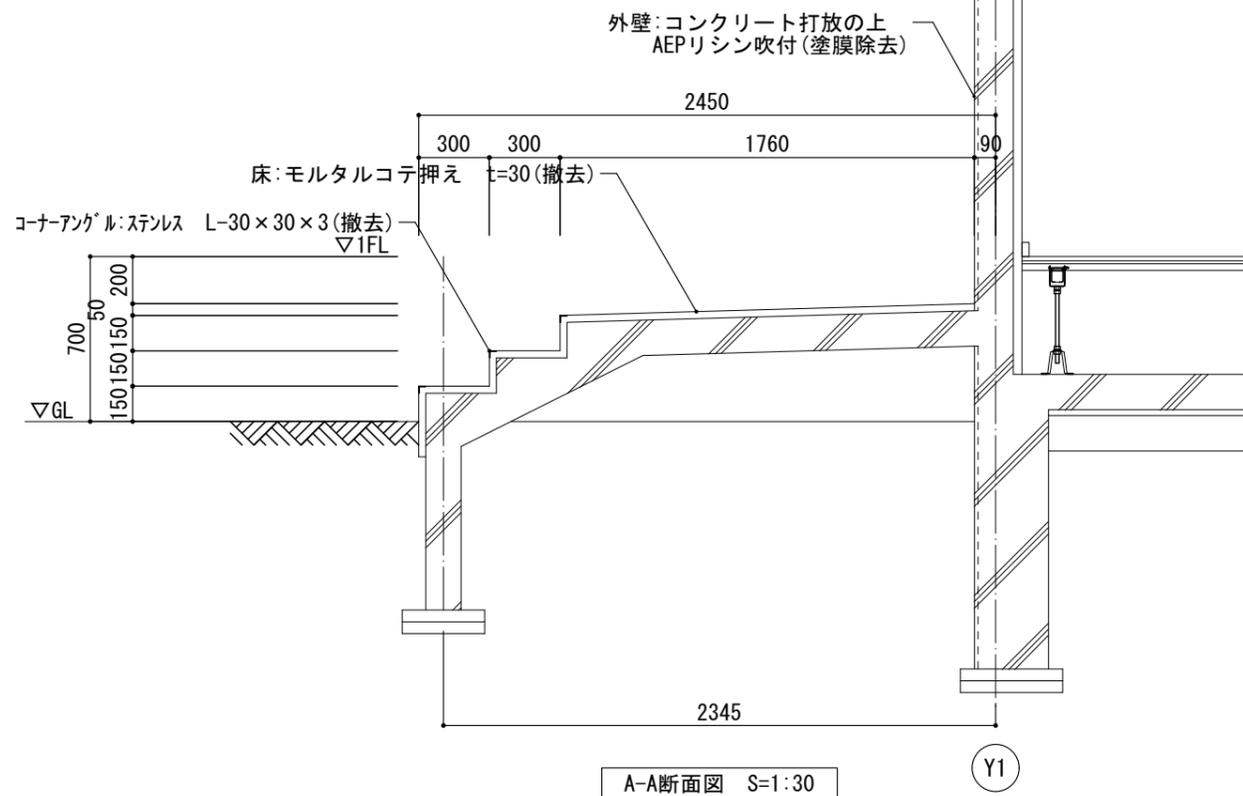


改修後

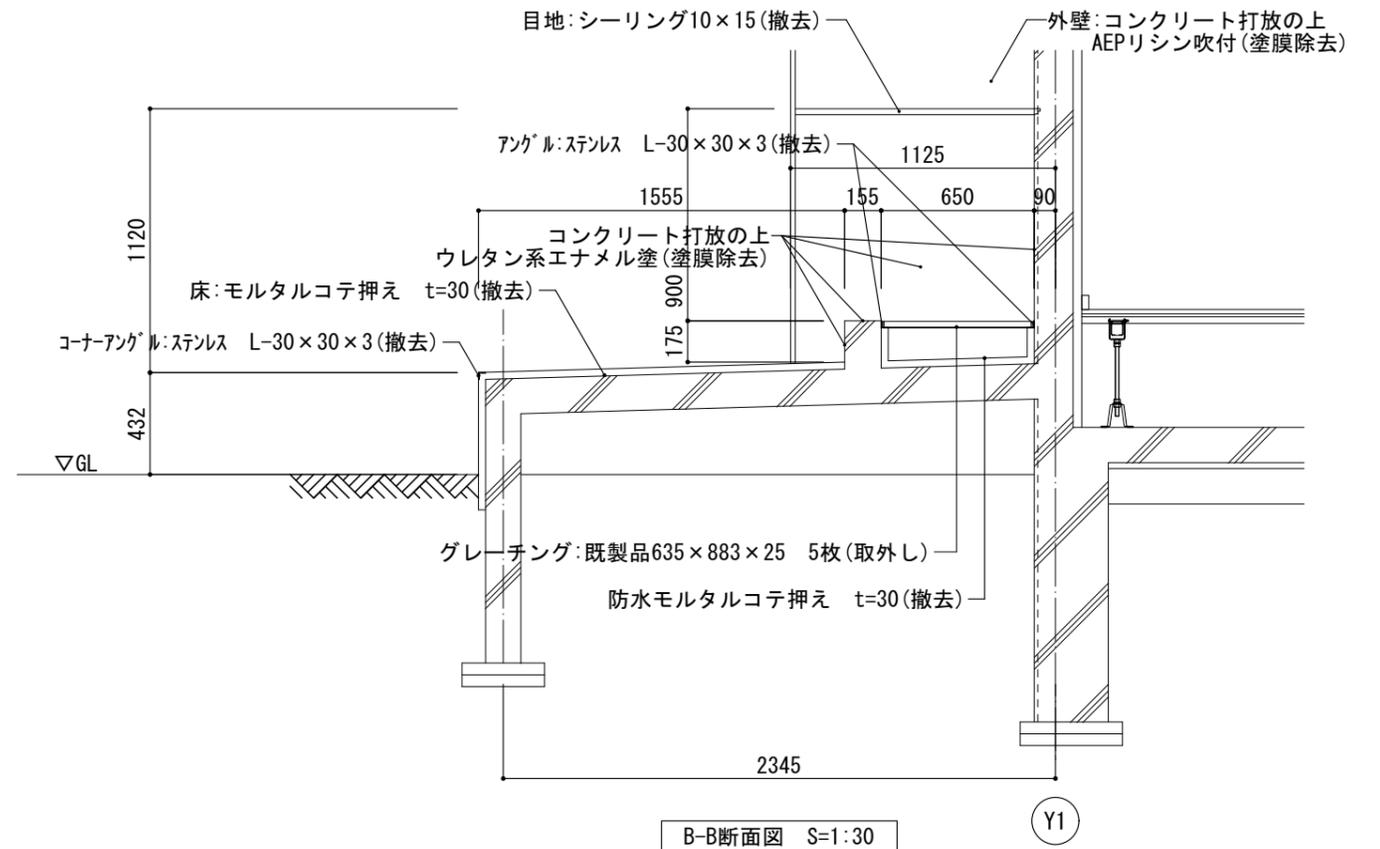




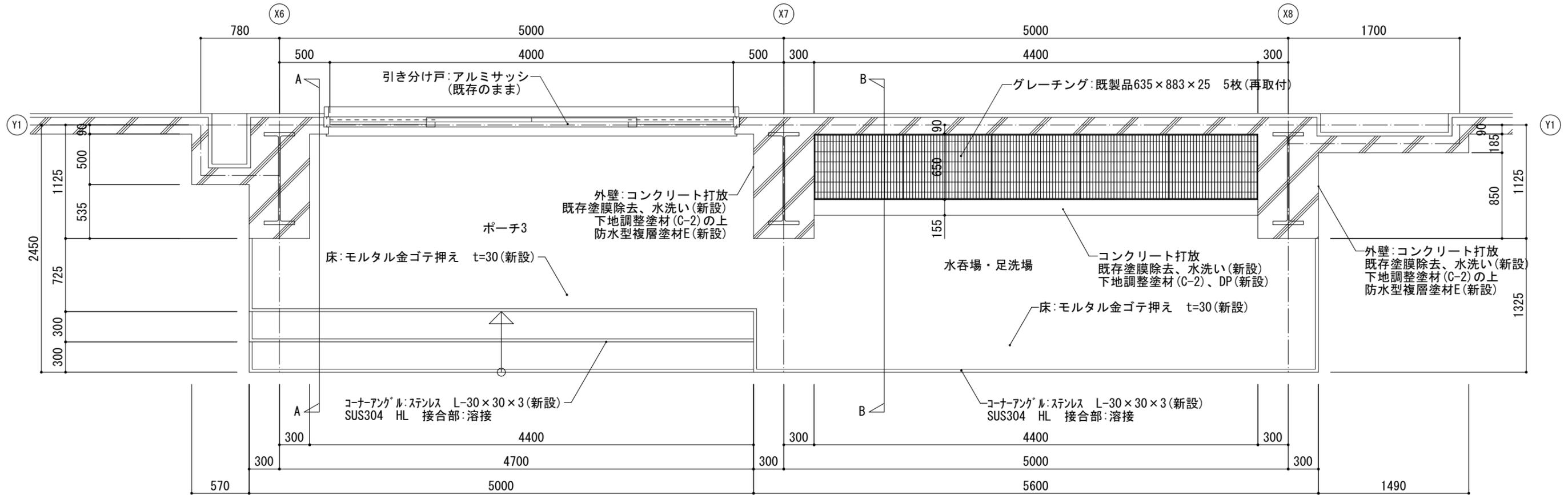
平面図 S=1:40



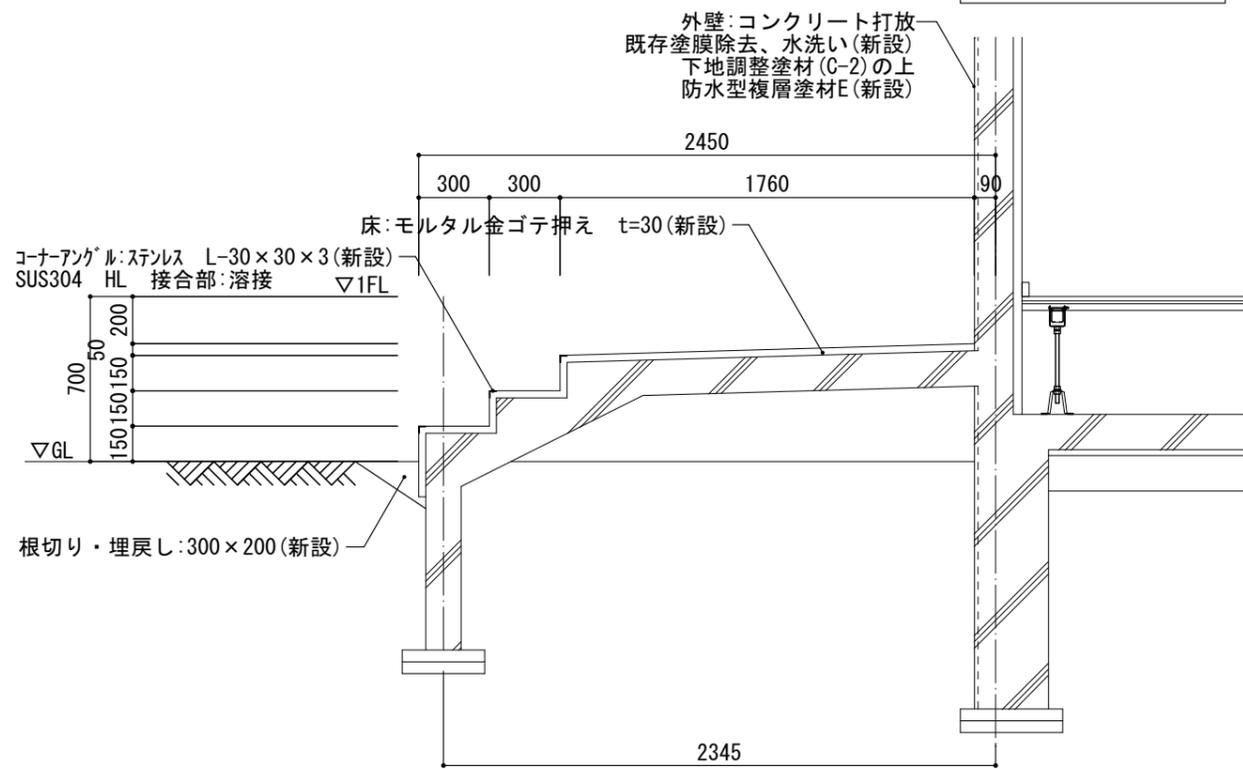
A-A断面図 S=1:30



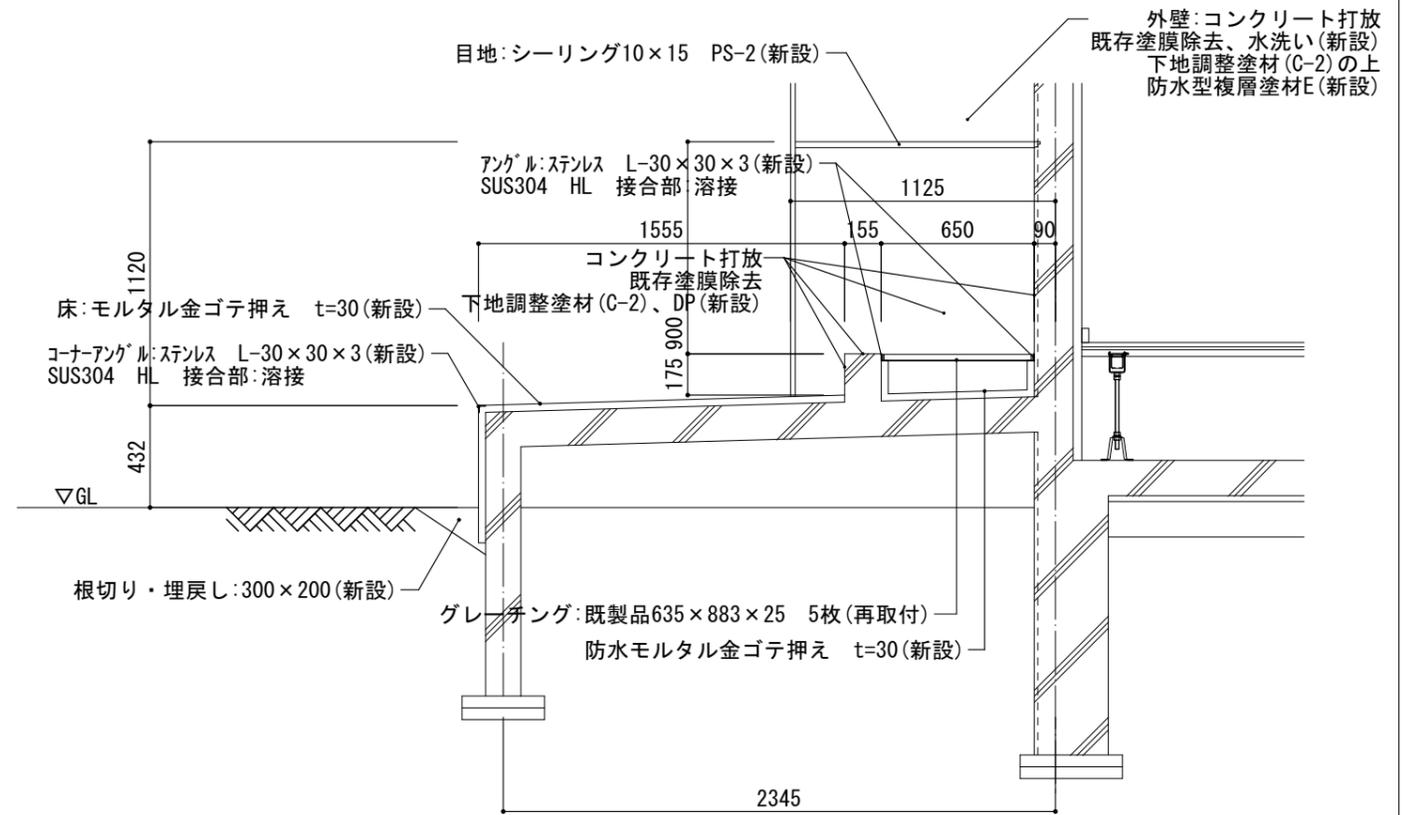
B-B断面図 S=1:30



平面図 S=1:40

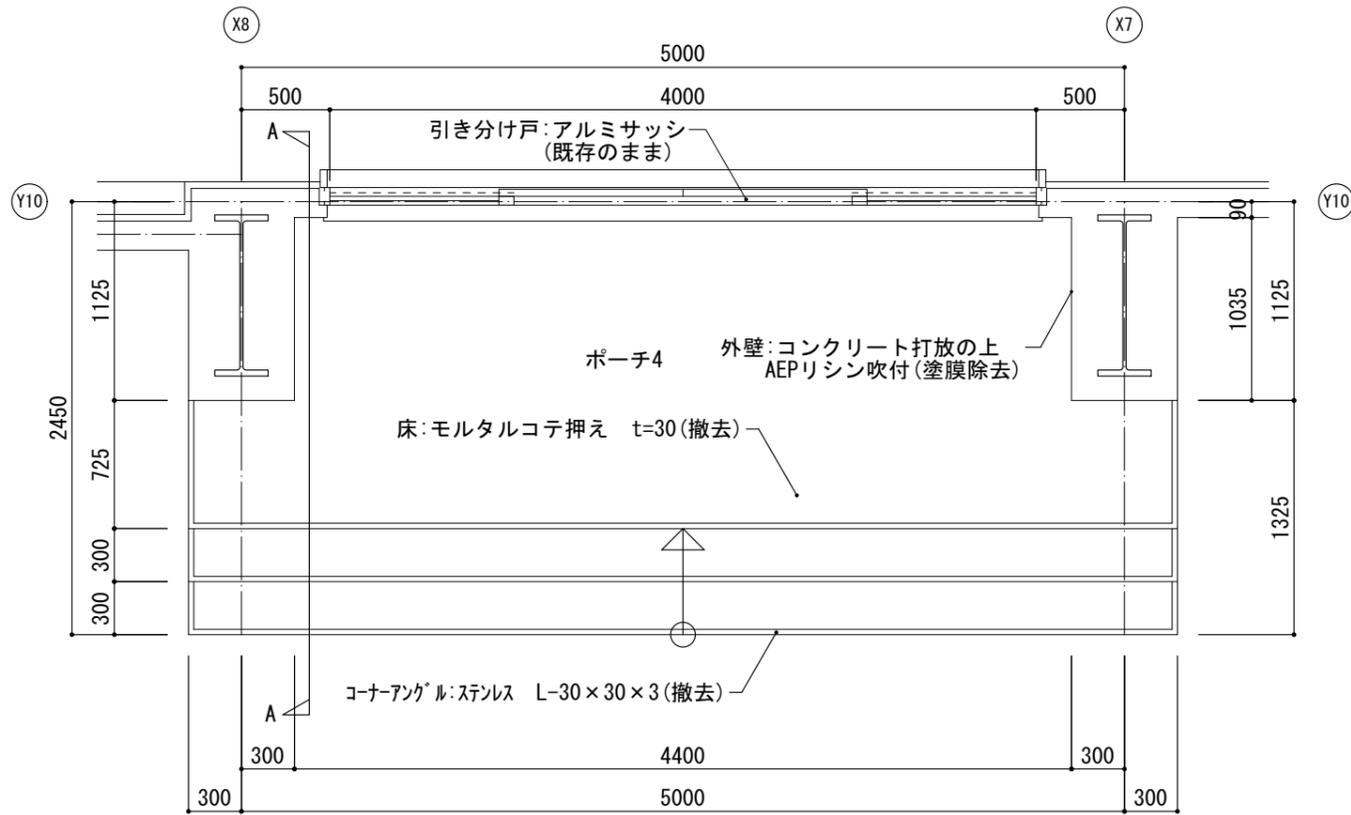


A-A断面図 S=1:30



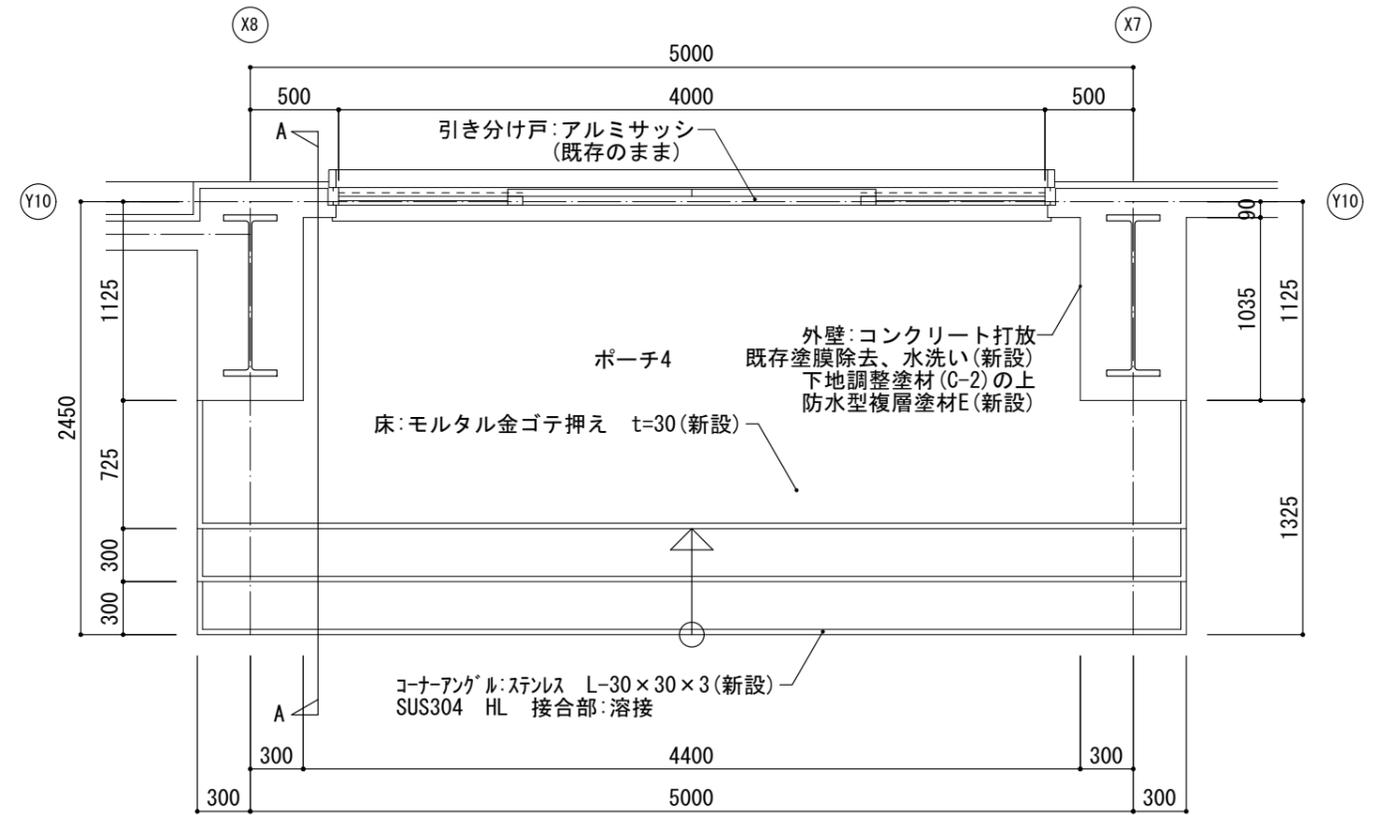
B-B断面図 S=1:30

改修前

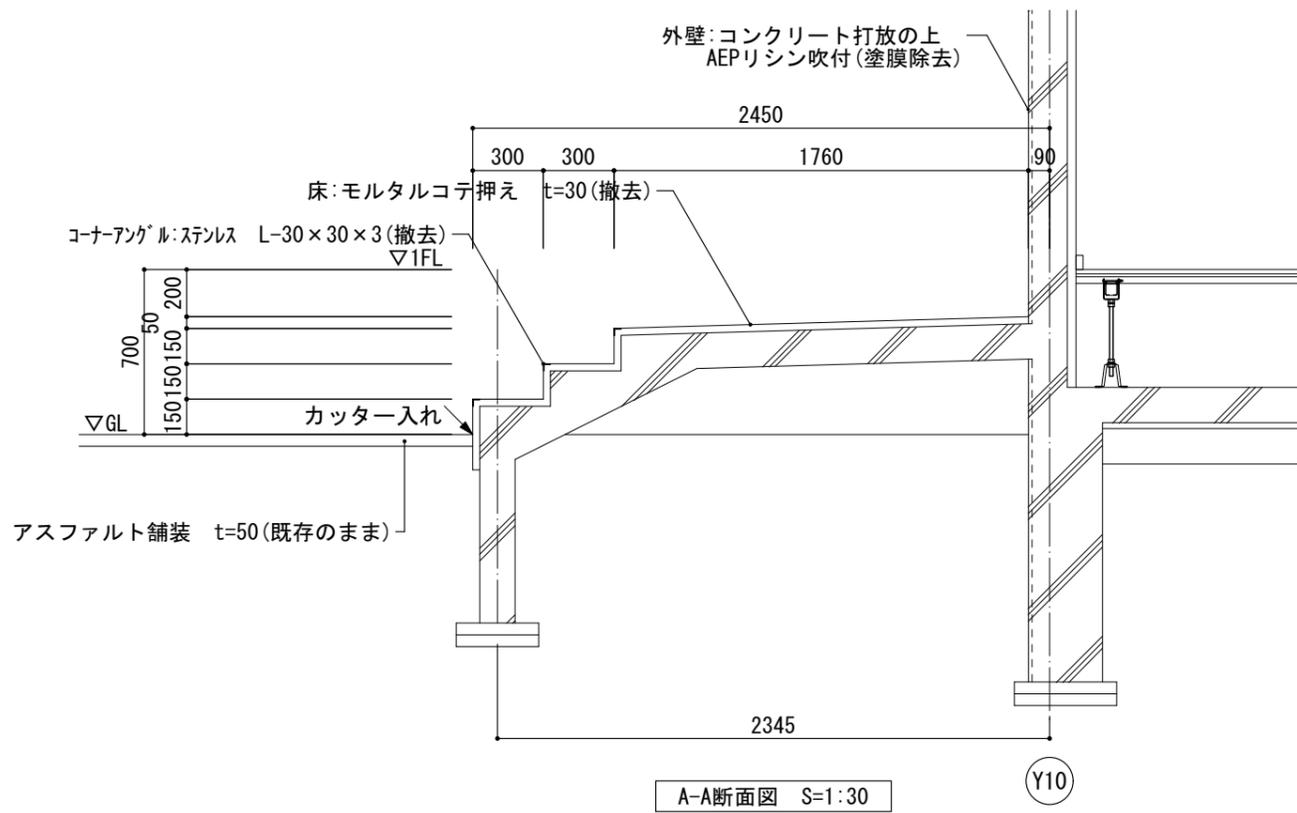


平面図 S=1:40

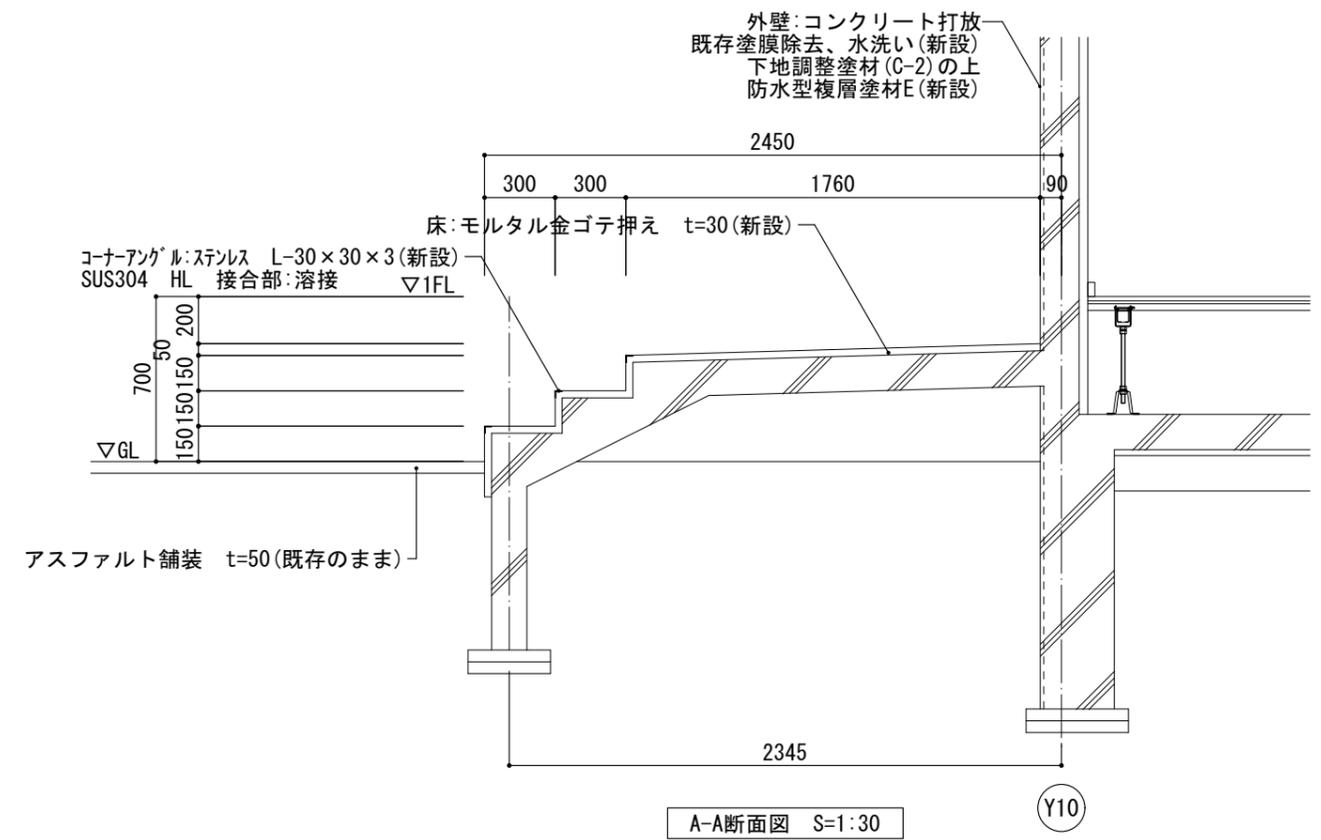
改修後



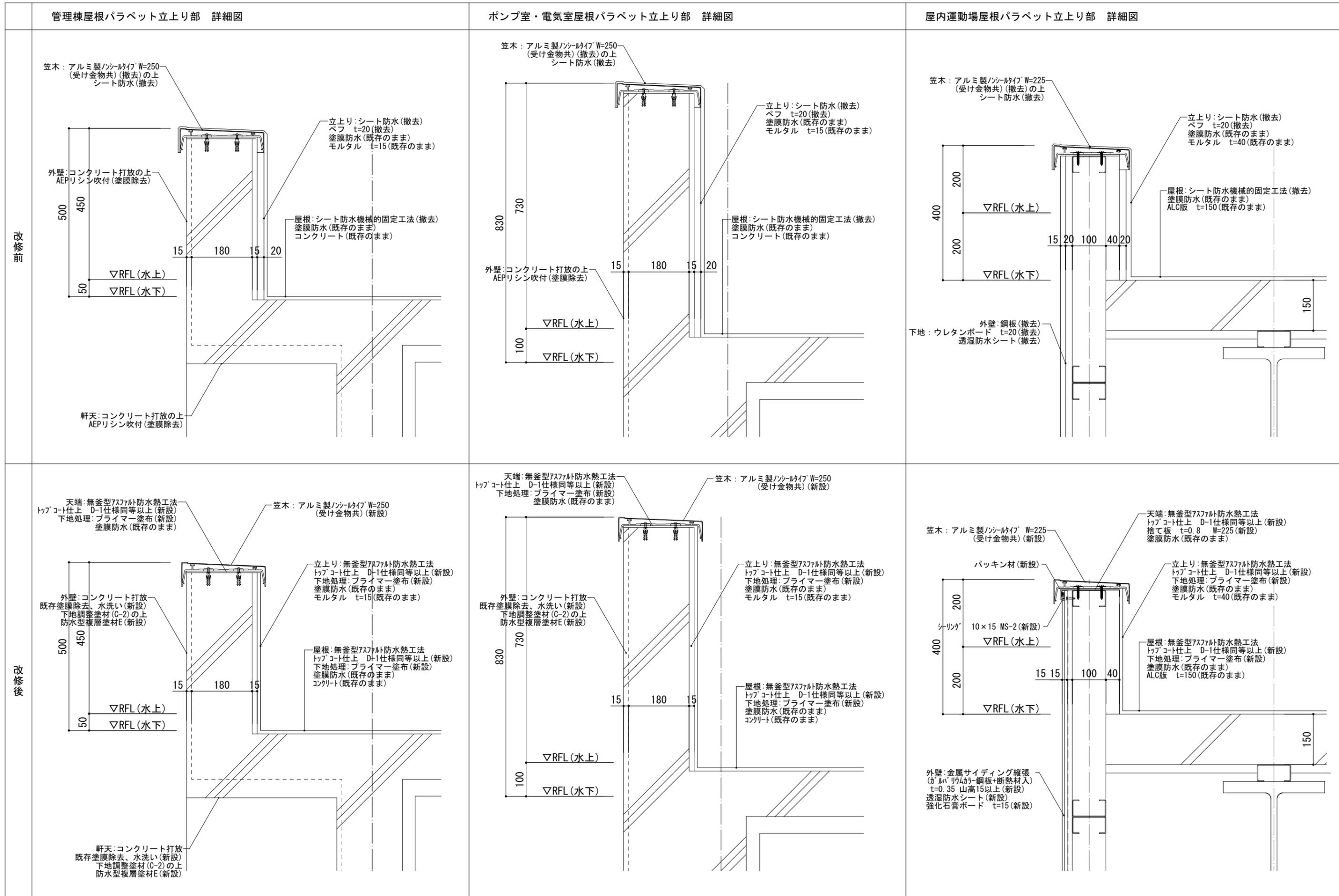
平面図 S=1:40

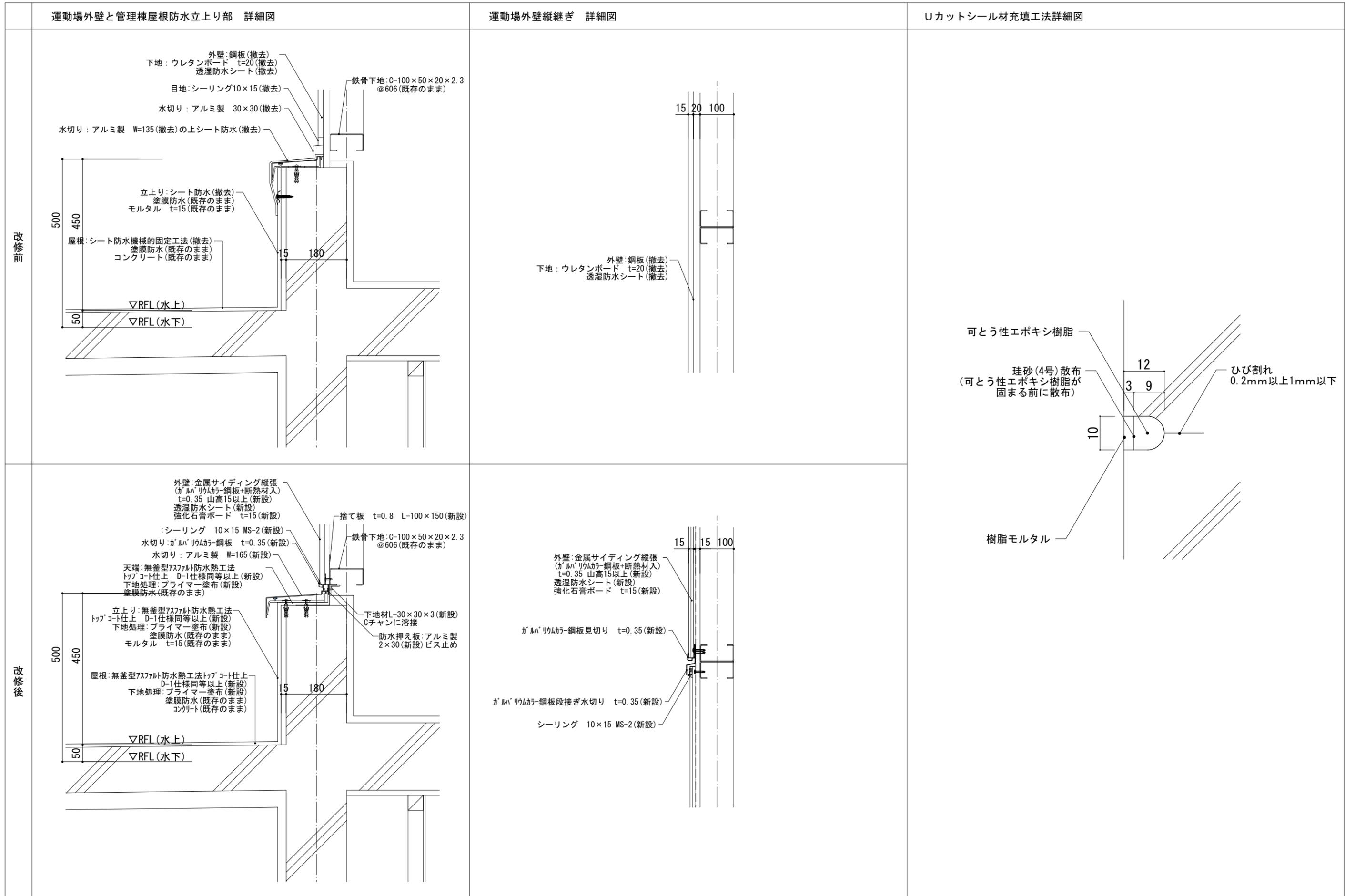


A-A断面図 S=1:30

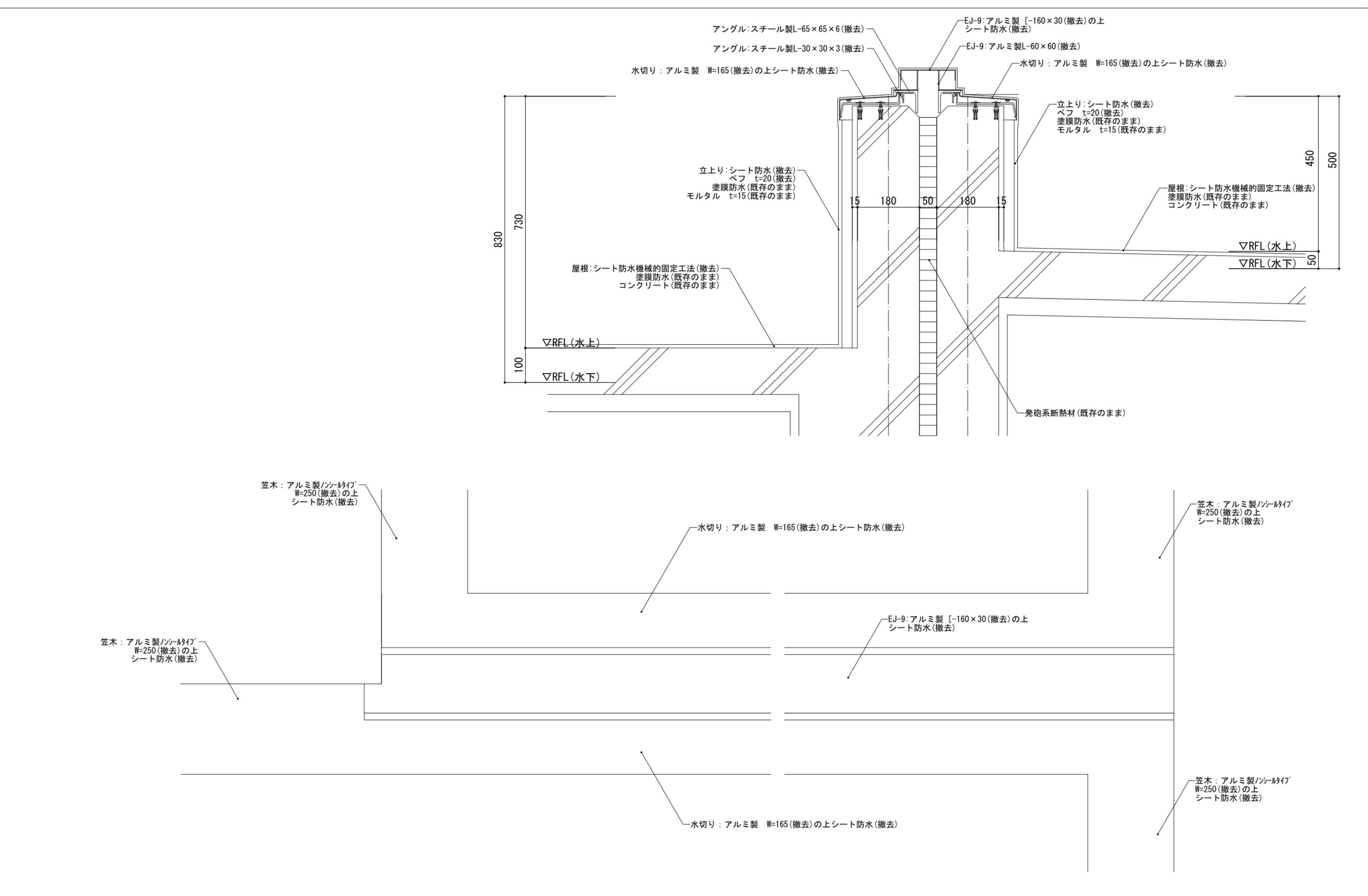


A-A断面図 S=1:30

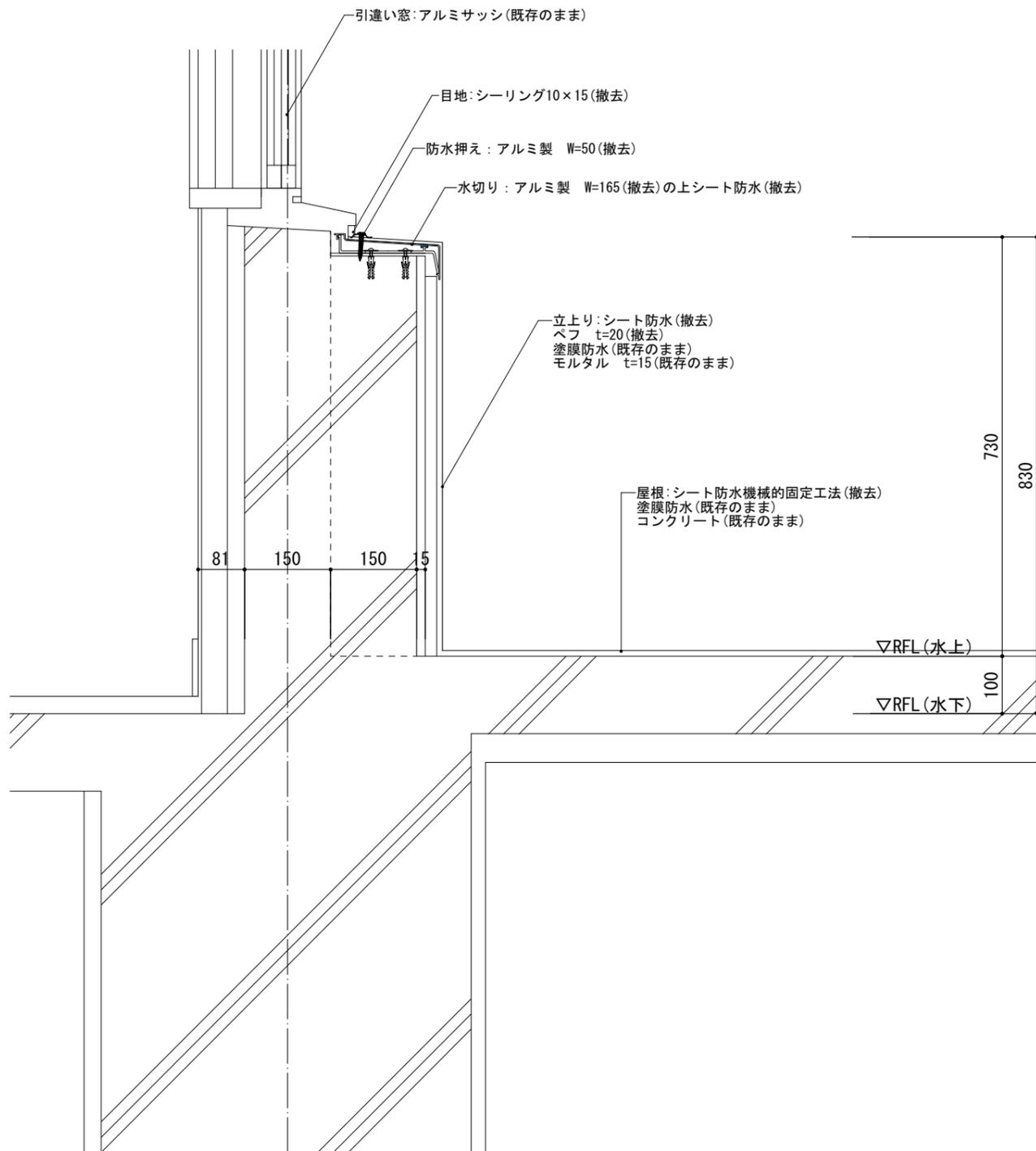




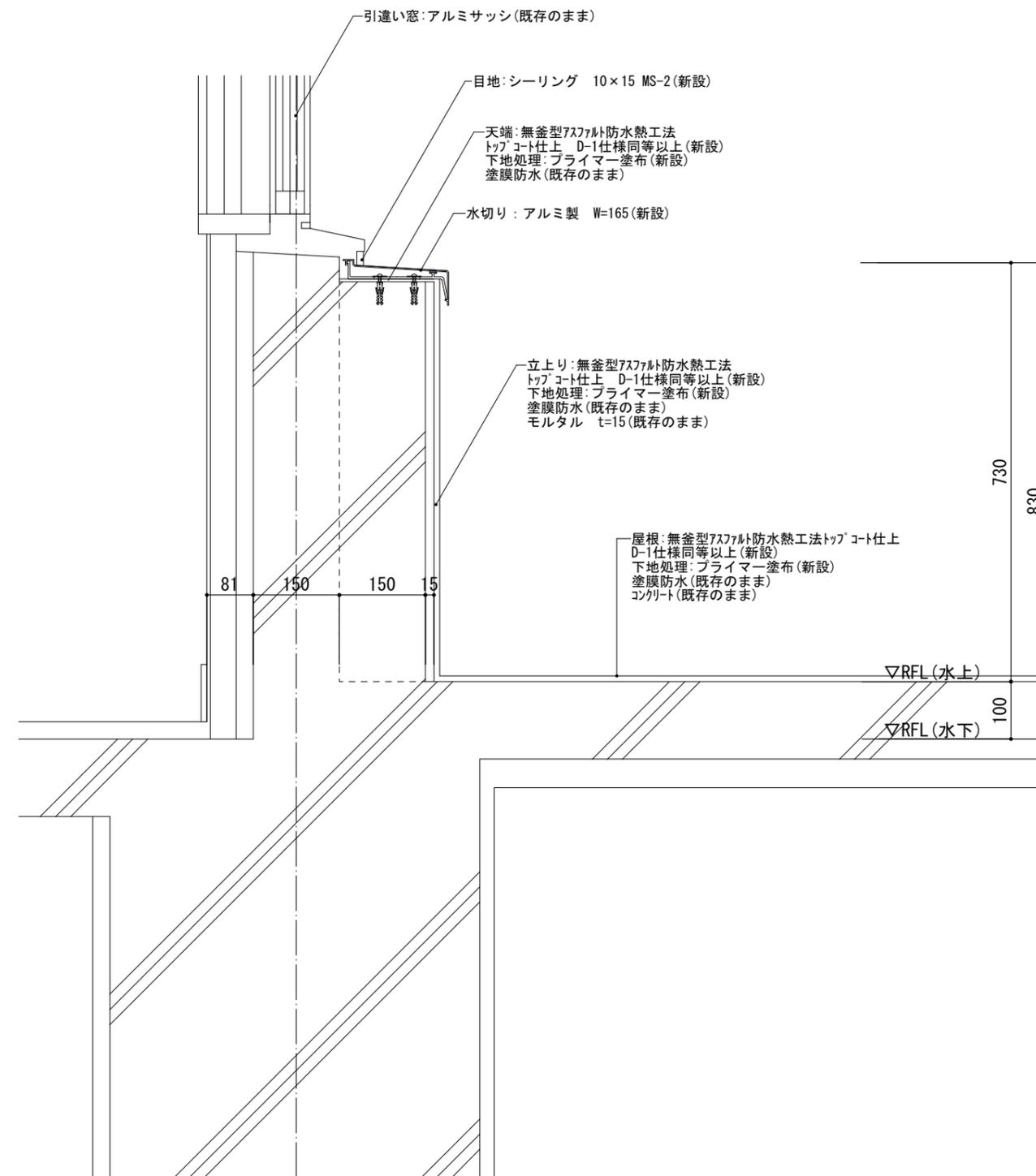
管理棟屋根とポンプ室・電気室屋根EJ防水立上り部 詳細図

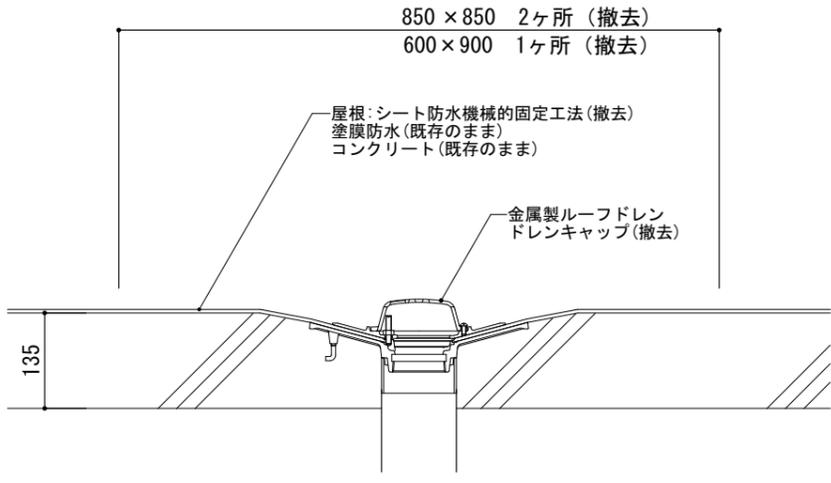
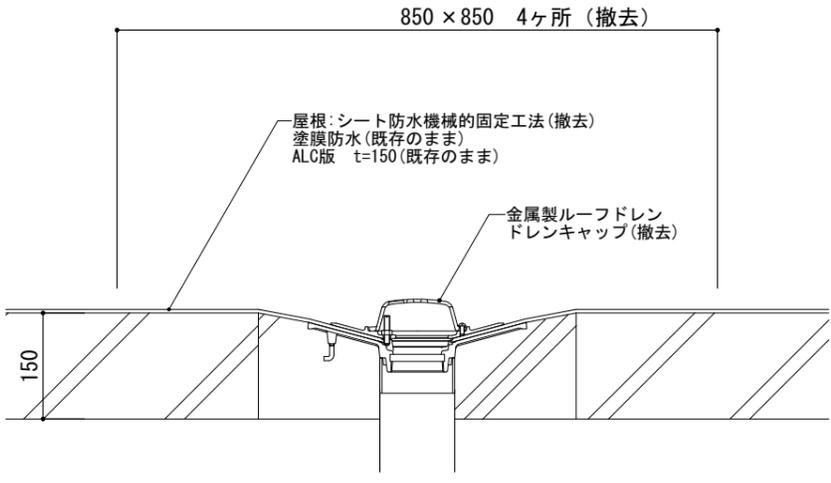
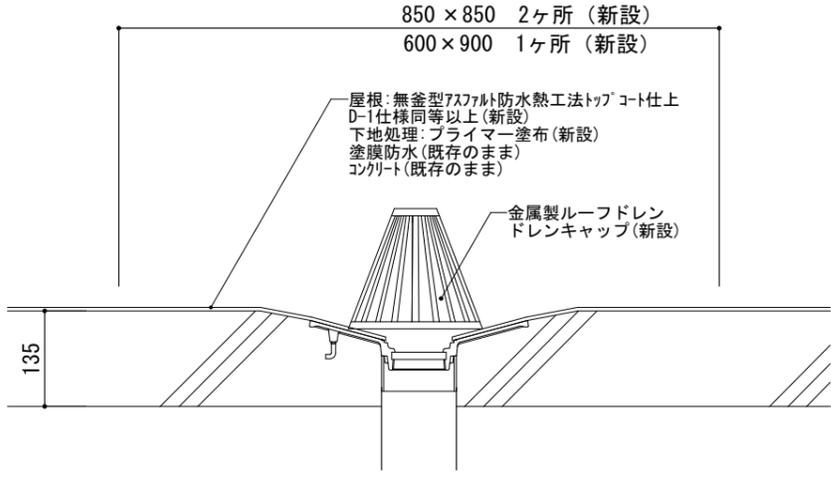
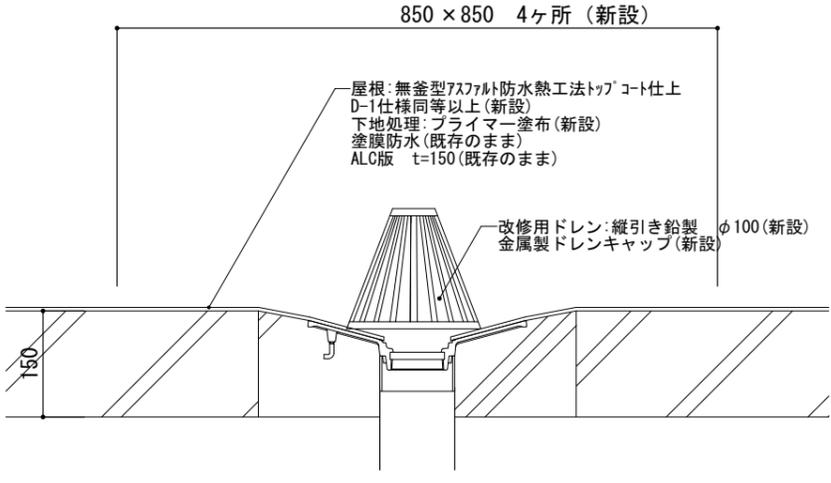


改修前



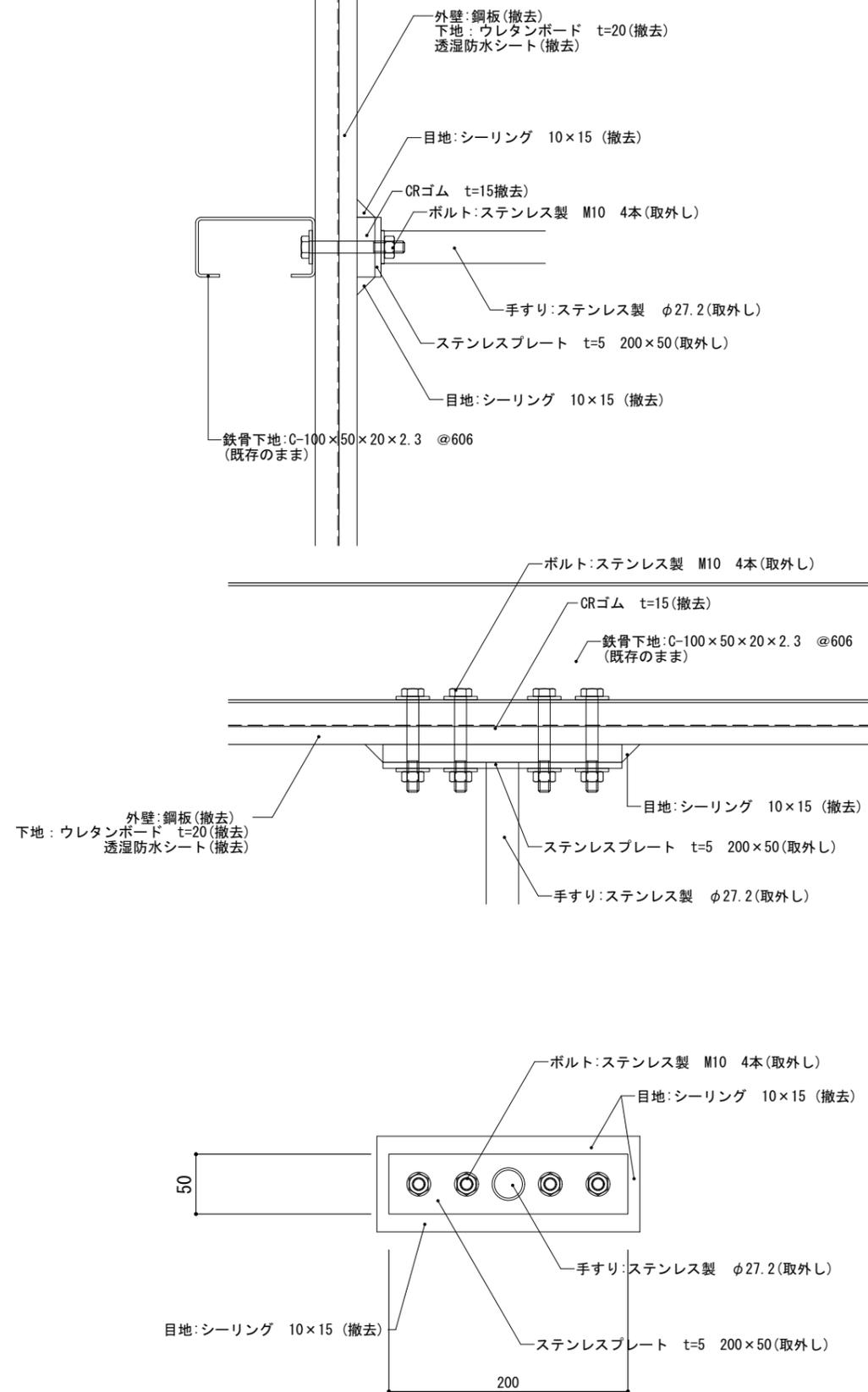
改修後



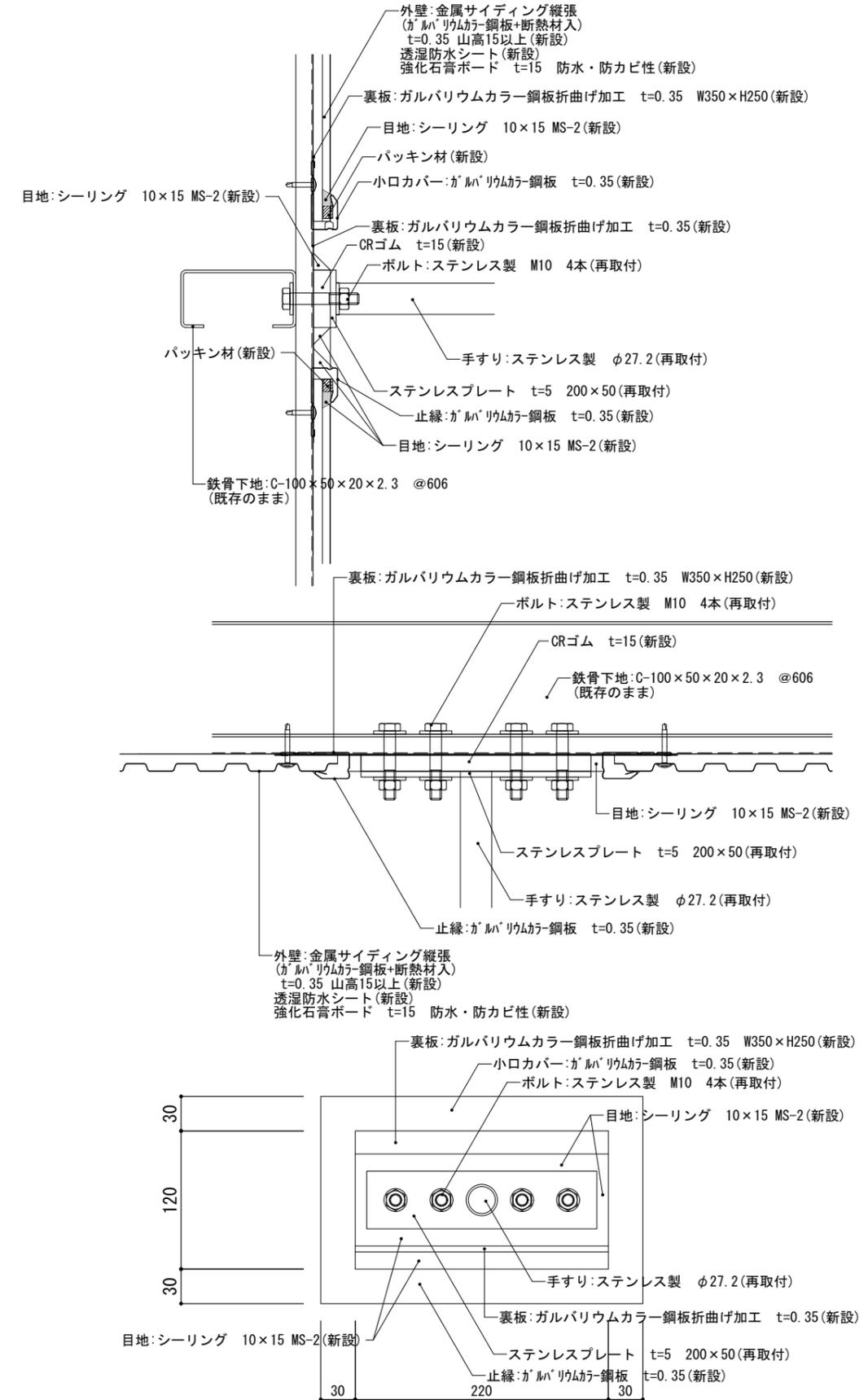
	管理棟屋根とポンプ室・電気室屋根ルーフトレン廻り部 詳細図	運動場屋根ルーフトレン廻り部 詳細図	
改修前	 <p>850 × 850 2ヶ所 (撤去) 600 × 900 1ヶ所 (撤去)</p> <p>屋根: シート防水機械的固定工法 (撤去) 塗膜防水 (既存のまま) コンクリート (既存のまま)</p> <p>金属製ルーフトレン ドレンキャップ (撤去)</p> <p>135</p>	 <p>850 × 850 4ヶ所 (撤去)</p> <p>屋根: シート防水機械的固定工法 (撤去) 塗膜防水 (既存のまま) ALC版 t=150 (既存のまま)</p> <p>金属製ルーフトレン ドレンキャップ (撤去)</p> <p>150</p>	
改修後	 <p>850 × 850 2ヶ所 (新設) 600 × 900 1ヶ所 (新設)</p> <p>屋根: 無金型アスファルト防水熱工法トップコート仕上 D-1仕様同等以上 (新設) 下地処理: プライマー塗布 (新設) 塗膜防水 (既存のまま) コンクリート (既存のまま)</p> <p>金属製ルーフトレン ドレンキャップ (新設)</p> <p>135</p>	 <p>850 × 850 4ヶ所 (新設)</p> <p>屋根: 無金型アスファルト防水熱工法トップコート仕上 D-1仕様同等以上 (新設) 下地処理: プライマー塗布 (新設) 塗膜防水 (既存のまま) ALC版 t=150 (既存のまま)</p> <p>改修用ドレン: 縦引き鉛製 φ100 (新設) 金属製ドレンキャップ (新設)</p> <p>150</p>	

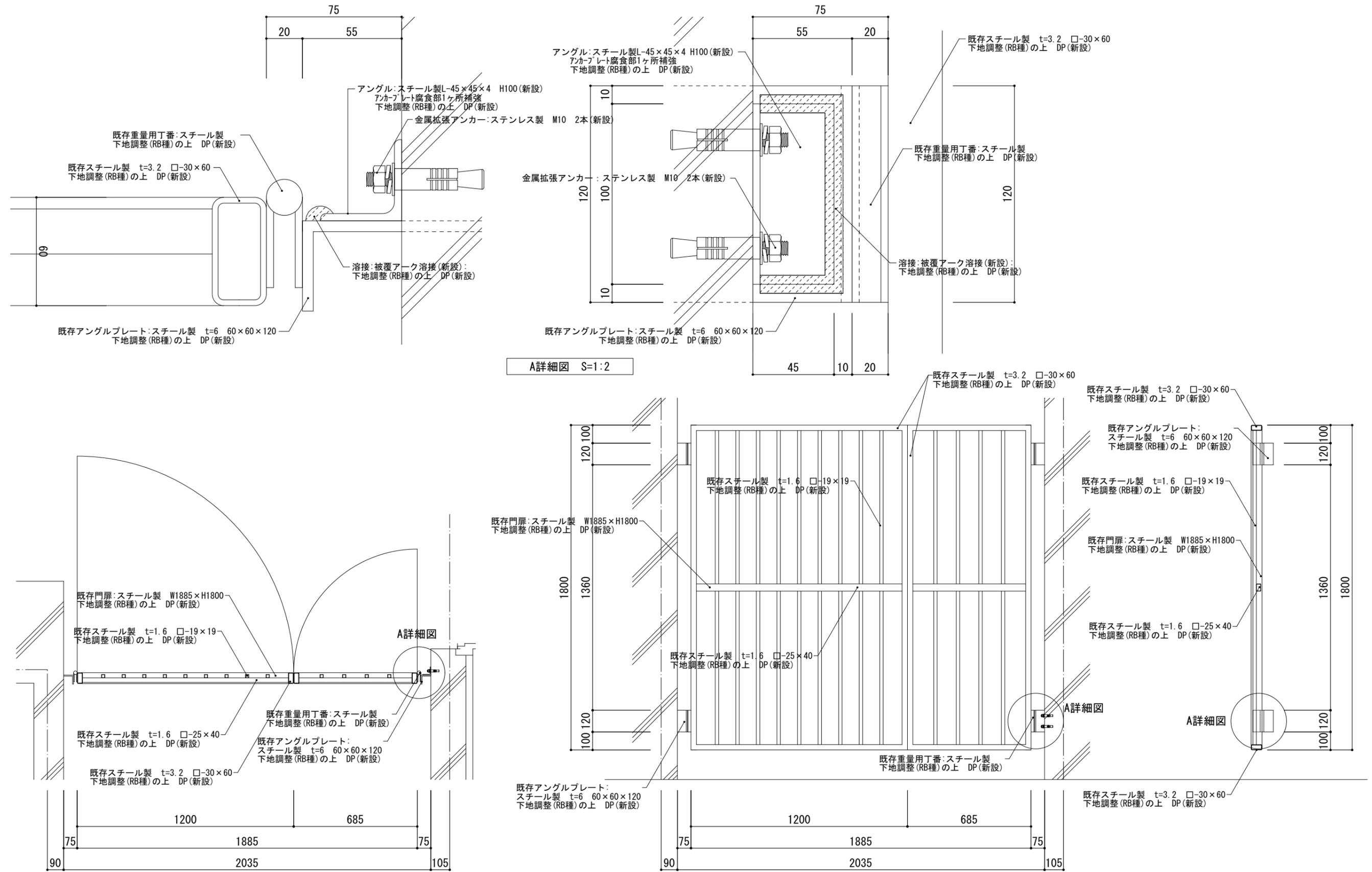
外壁ガルバリウム鋼板とタラップ取付部 詳細図

改修前



改修後





A詳細図 S=1:2

A詳細図

A詳細図

A詳細図

少量危険物取扱所

類 別 第4類
品 名 第2石油類(灯油)
最大数量 490ℓ
保安監督者

類 別 第4類
品 名 第3石油類(A重油)
最大数量 1,900ℓ
保安監督者

接地埋設標

前方 度 米

深サ 米

昭和 年 月

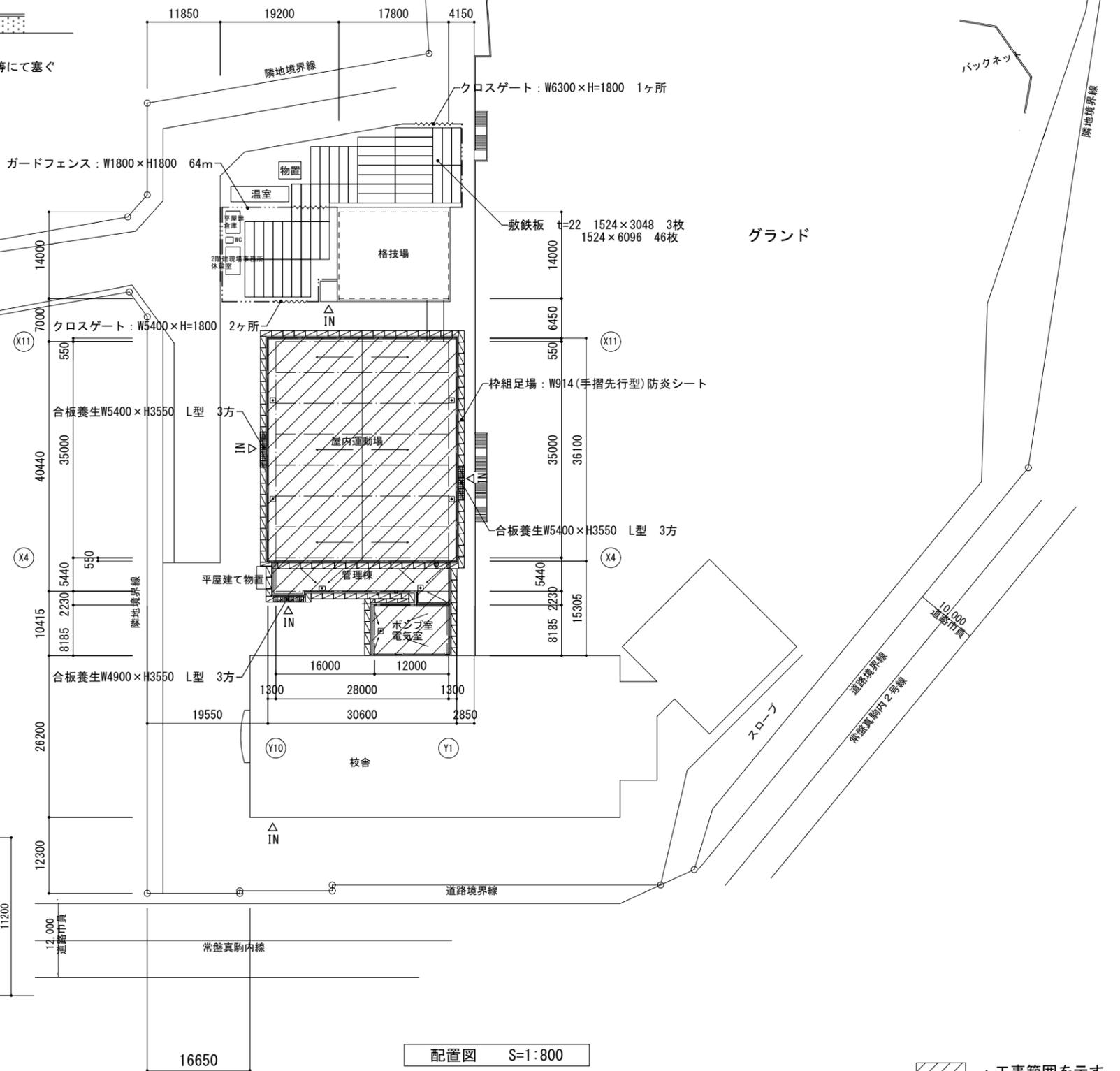
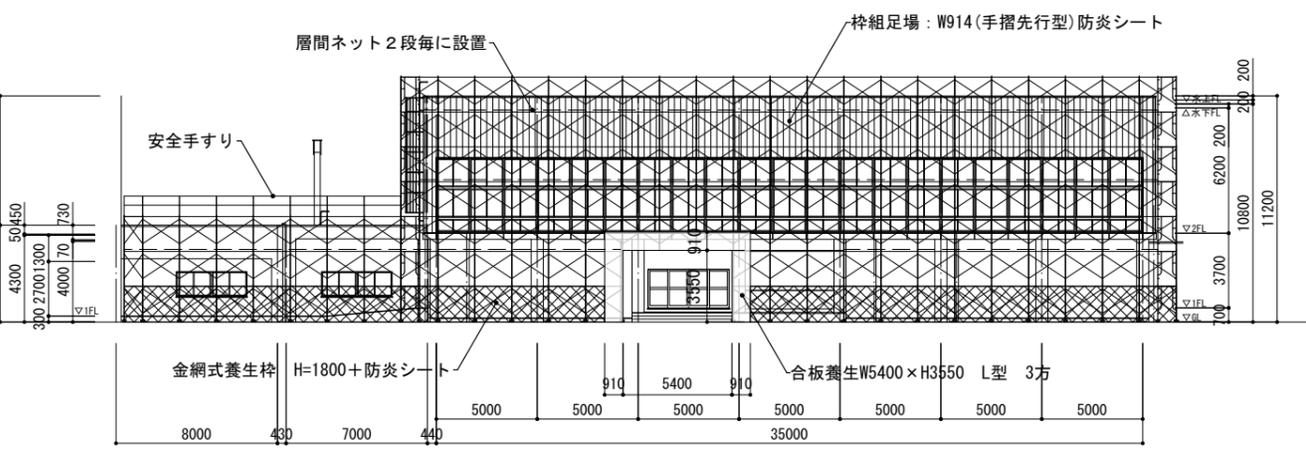
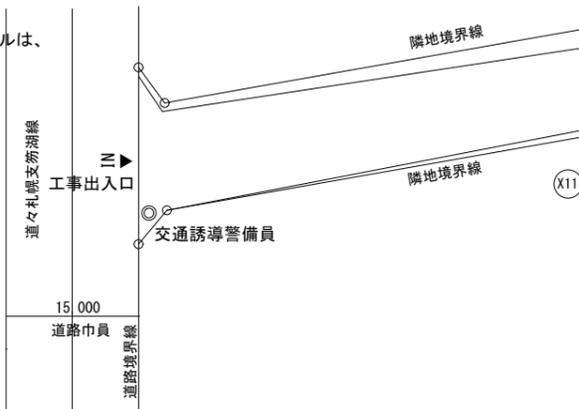
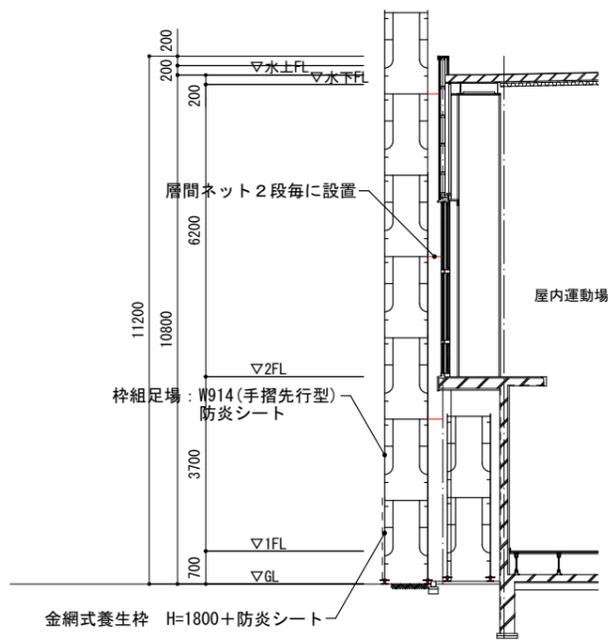
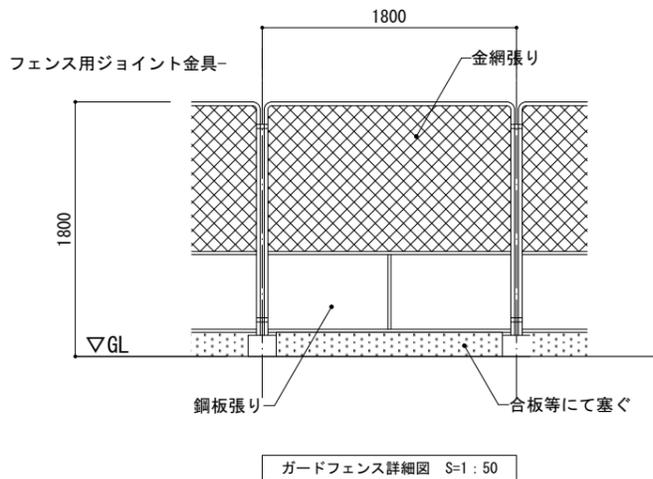
種別 Ω

札幌市

凡例

- 外部枠組足場 W=914 (手摺先行型)
最下段：金網式養生柵、安全手すり、防災シート
- 出入口廻り合板 (コンパネ) 養生 L型 3方
- ガードフェンス W1800×H1800 64m
転倒防止用の控えなどを設置すること。
- クロスゲート W=5400 H=1800 2ヶ所
W=6300 H=1800 1ヶ所
- 敷鉄板 t=22 1524×3048 3枚
1524×6096 46枚
- IN 工事出入口
- IN 学校関係者出入口
- ◎ 交通誘導警備員

※資材の搬入の際は、学校及び監督職員と協議し生徒の安全に配慮すること。
 ※工程については学校及び監督職員と十分協議すること。
 ※搬入路等において大型車両等の出入りの場合、交通整理員配置すること。
 ※作業経路及び搬入路部分は、養生・整理清掃を行うこと。
 ※必要に応じてカラーコーン等で区画すること。
 ※工事に使用した部分は、完了時に現況に復旧すること。
 ※屋上荷揚げ用等のラフテレーンクレーン 13t 6回、オペレーター付とすること。
 ※既存外壁AEPリシン吹付の下地調整、足洗い場ウレタン系エナメル塗装、ポーチモルタルは、アスベスト含有 (レベル3) の養生・飛散防止等を行うこと。



：工事範囲を示す。

日付	工事名 常盤中学校屋内運動場外部改修工事	図面名称 仮設計画図 (参考図)	縮尺 S=1:800	 一級建築士事務所 早川文雄建築設計室	一級建築士事務所登録 (石) 第2717号 一級建築士登録 (大臣) 第200231号 早川文雄	製図	承認	図面番号 A-39
----	-------------------------	---------------------	---------------	---	--	----	----	--------------